地儀部

類葉抄　第三

544
ル
10

大阪大學圖書

大阪大學圖書館
昭24.7.13
184057

地儀部

名所

陳ゝく

地山嶺嵩岳

坂[illegible]方洼峽谷

峯村杣園野

原塚墓なきはきし田

畠海浦江河

澤沼池泉湯

井溝瀧津岸

淵瀬淀堤井堤

潟磯渏瀉濵

湊泊渡澪門渚

汀　奥　邊　潟　塩

水　氷　潦　沫　うきかまき

消　浪　巖　岩　石

礫　砂　泥　道　衢

境　限　関　市　驛

橋　網代　梁　きりみ　みはしくし

かし　杭　樋

類葉抄第三

地儀（各所在別巻）

地

一　天地も縁而有こそ（ヨリテ アレ）　長哥

十　乾坤之初時従天漢（アメツチノ ハシメノトキユ アマノカハ）　長哥　在七ノ部

十三　乾坤乃神をも祈て（アメツチノ イノリ）　下句在天部

廿亦云化罕餘首在天部見へし

十三　乾坤之神し恨之（アメツチ ウラメシ）　長哥

十三　玄黄之神祇尓不吾祈し（カミ ワカ）　長哥

十五　安米都知　あめつちのそこひのうらにあるこしく　下句天部　うらハ天ヲこハ地しあつハ我也

廿　同　あめつちのいつれのかみをいのらハか　下句在神祇部　つしハ也

廿　同　あめつちのうゑよねさきおさいるしのつ　下句在神祇部

一　岸之埴布介よほはさましを（ハニフ ニ）　上句草枕客去君と知ませハ

六 岸乃黄土粉尓にほひてゆかむ （上句白浪之千里に寄まする岸毛みゆ）
六 岸の黄土にゝほひて将去 （あら馬の崎にしとゝめよ須手の）
七 岸乃黄土将見因毛欲得 （あめ降らしまくなと吾妹子か住者よしも）
七 岸之黄土於万世見 （上句馬なめて高日よらむつ住吉の）
七 山跡之宇陀乃真赤土左丹着者曽許裳香人之吾乎言将成
十一 白細妙三津之黄土色出而不云耳衣我恋楽者
十一 彼方之赤土少屋尓 （在而ア床ア床ア 又云ハニフノ小屋トハ埴ヲ土ニテヌリタル小屋也）
三 展轉泥土折雖泣 長哥
十三 展轉土打雖咲毛飽不足香裳 長哥 （月安云ヒツチナケトモハモダヘコガル心也）
九 りまきもこゝろ赤裳泥塗而うつしつゝ思ふと （下句在田ア 仕騎作在泥部）
十七 わか裳乃すそはぬらしにけりひちて 長哥
十五 ちかひもちかひもわかぬ経世にかひらふむいはいし吟ふれ

五 くねちひとくらせまくわもと （註人云ちかいにちこハ菅の根の……ほちの会島りしや）
十七 くねちひとくやまハちつ 長哥
五 地祇ちて額拜 長哥
十三 山跡之土 （例 土ツ国トよめり）
五 ほちかへは大王いますゝ 長哥
五 ほちよきとらめやも （末句こ 在琴ー ー）
五 直土尓藁解敷て 長哥 （はこハちさこまおすや）
十三 常土足迹貫 長哥
六 大宮地 （氷ー 上下句在）
九 浦鳩子之家地見 長哥 （末句こ）
六 零雪乃零ハますとも地尓おちめやも （上句有 寒ア）

八 先咲花の地に将落やも （上句有花又）

八 松風疾地に落らむ （上句在梢ア）

八 わかやとの花橘を霍公鳥来不喧地に令落とや

八 尚来鳴而遂地に令散者 （長訓 郁本来テ鳴ツ散し）

八 妹之見而後も将鳴霍公鳥花橘乎地に落津

十 花橘乃地に落む見牟 （上句在橋ノ郁本ニ）

十 土哉将堕見人無しに （上句去年咲し久木今さく徒に）

十二 地にも不落空消生 （上句うちきらし日つゝわりなりしあつい）

十九 志めもしりしらにちらにおらめやも （上句在ハ郁本ア）

サ よそにて跡のつちにおちらもかも （郁本 毋 かて）（上句椿ノアニアリ）

九 叫於良妣踏地牙喫建怒而 （長訓 ふみておとこらしも）

十 六月之地副割而照日にも （下句在日ア）

十一 大土採雖尽世中尽不得物者恋在 （サリケル古点門）

十一 心空在土八蹈しも （上句 徘徊往箕之里尓妹乎置而 古本徘徊ト云し）

十二 情空有地八雖蹈 （上句まきもこか…テまよひつゝより）

十二 天津空有土八蹈しも （上句立てもすわりつゝもわかこゝろ）

十二 いもか将履地に有ましと （上句かくはかりこひつゝあらは朝に日に）

七 紫之名高浦之愛子地袖耳触而不寐か成なむ

七 豊国之聞之濱邊之愛子地真直之わらはなにかなけかむ （向ノ聞）

十二 衣袖之真若之浦之愛子地間なき時なく我恋しくい

十四 わかせこしたへし海田にちるらむあはにゆく （下句在某ア 今云わかせこか…地のそへけるを…）

十九 氷上波地往如久 （長訓 郁本）

サ まつかえの地につくまてふる雪を （下句在某ア・練ア）

山

除名所但此乃名所ニて岳とよめる不清く此外大和ニ於テ准之今春日山
卯花山葛城山青山磐余山葛山高山天山さ山二上山八重山百重山以上名所ニ
不合但此集ノ山慈ニあらといふ所もあるハ為後勘入之
詮尺ハ云式拂云山をあしひきと云ニ四義あり一ニハ三ニハあの海路の悪日ニ山ハ歩むかたく
大事ニあらして道をしらんといへるけしきにあしひきのやまといひて世にあらし乃
ゑうらもくぬかうら小むのあたりしれ山ハあしきわかうの山ふきありけり
云ニ二ニハ推古春宮山ニ入て持し給小足ぐなるをそていさきなし
山とハ山あしひきと云日本紀ニ天より三ニハ天皇三月御下云級人癪ニ
一の角ありて康の足にハ通力ハわかたれしも雨ふりて山の路の危けれハ足なせ
足なとこゝろへり足ハいきりてあしきとも春見紀度海中才十七にも四ニハ
昔天地さまのすかたくり日本紀口ニきかしたり時人をこれハ小児のあそり
ぢぐくわうきけれハいれそのの今ハ日本をとらあしくいきやまとくさこれたしこ
あしのかけ其ハ足としく不似ぬハ足ハいさよさし四義の中ニ才四ノ義もよ
もらぬかへしとこへり鄧身ぐ中屋をと云人ハかなりけて足ひく義是一義
なりと傳ハさくわかまとの我云こそハ山をわいきとと云すハやといふ
くるくき義ましと云ハあしの義ましかくのりと翁かくなるすくてこのあ
うもとまるやうのとも云ふ小山齊と云本殊ニぐ今みのこ計本むし
篇纂の方ニ尤ありけり山をとは小さうつるあつる由へハけいはこ此才七巻ニ
所ハ小あり此ハあなくいきき見くりし昇此ニよゆくあり此のいなく[illegible]と
ゐ此山ハさとハいいて人よ千すり訊洞小あてハいきよとあてあしいもと云
本あ此ハ山ハあしのいさとと云んとハさうふを昨くたることもなはいしるをあゆハ本
もしいふなむとらして山斉ハあ乃乳ハ山齊してやまと訓さるも
世義（第十集才三巻よ）山体高而二作て吾山齊ハ本高岳あすかにくらいかも

二 足日木乃山の志つくに妹待と我立ぬれぬ山の志つくに
二 足日木能山之志津久ニ成益物乎　上句ハ吾をまつと君か沾けむ　前ノ歌ノ和也
三 足日木乃山にさは雄よ　上下句在離ア又別ア
三 足日木乃山道を指而入日成　長歌
七 足日木乃此山彩よまけハ失留　上句玉梓之妹ハ花かも　或本云
八 足日木乃山邊ニ居而秋風之　下句在凡ア
八 足日木乃箟山ニと令響さをしか鳴も　上句在廉ア
八 足日木乃山下響鳴鹿之　下句在廉ア
九 足日木乃山響令動　長歌
九 足日木之山彦令動呼立哭も　上句在夜ア
八 足日木能山鳥こそハ　長歌　十一 亦哥ノ反哥也　又六巻 足日木之山鳥ノ尾ノ在峯ニ　又同巻 足檜之山鳥ノ尾之
十 足日木之山ノ間照櫻花　上句在春雨ア櫻ア　ヤニヘシ古点

十一 足日木能山櫻戸乎開置而　下句在千ア

十 足日木笑山より來せハ尼小麻々　下句麻ア

十 足日木乃山之跡縫まつく麻々こ息さしてやさ山田守酬兒

十八 足日木之山田守翁　下句在田ア翁ア火ア

十 足日木乃山之縛黃葉兒まく志も吉　下句在露ア一云ア

十九 足日木之山ノ黃葉よ志浮く朝而　下句ちるむ山道をといふ部中し　山ノシツネト共ニや

十二 足日木乃従山いはけ月まつと　下句在月ア

十三 足日木能山より出つる月待し　長哥

十九 足日木ノ山河阻　長哥

十九 足日木乃夜麻之多日剰けるか　下句在日剰草ア柳ア

三 足氷木乃山邊を拾ふ晩闇と　長哥　上句玉拝れ妹ハ珠かも

七 足氷木乃清山邊ニ蒔散染　日若云究剱ヲヨミテ山ニ叉サムルシヲさし

十八 悪氷木之山下動逝水之　下句在水ア

十 足檜木乃山下風ハあかぬとも　下句在風ア

三 足檜木乃山さへ光咲花の　下句在花ア

十 足檜木乃山霍公鳥　下句在郭公ア

十二 足檜木之山菅ノ根乃　下句在菅ア　同巻又在之

十二 足檜木乃汗山鶴立徃年

十三 足檜木之山川水之音ニ不出　下句在水ア

十三 足檜木之山行野徃直海川　長哥

十九 足檜木乃山呼とよめ　長哥　郭公哥し

九 蘆檜木笑葱山中小送置而還良布見ハ情若し

十三 蘆檜木乃山道ハ将行　下句在風ア道ア

七 足檜之山橘乎　上下句在草ア　木無し

十八 足檜之山沢ゑくをと　在草ア

十六 足檜乃下風吹夜ハ　（上下句在嵐ア／山と不云例）

十二 足檜乃山ハ百重かくすともいもハわすれし直あふまてによ

四 足引乃山小生有菅根乃　下句有菅ア

四 足引之山橘乃　在草ア　又十一巻　又拾遺　悲吉

十六 足引乃山のし石ハ風流无吾すれゝ宿しめとかめゆめしかな

六 足引之御山も清落多川芳野川之　長哥　（幸芳野離宮時哥／御山トヨメリ）

六 足引之山も野もしか猟人得物矢手挟散動したりみゆ

七 足引之山河之瀬之響なへに　下句在河ア

七 足引之山行暮宿借ハ妹立待而宿将借も

八 足引之山霍公鳥　下句在郭公ア　（又十九巻安之比奇能山ト）

八 足引之許乃間立八十一霍公鳥　下句在郭公ア　山ともいはす足引とありいへり

八 足引乃山之黄葉ハ　下句在黄葉ア

十 足引乃山佐奈葛　下句在葛ア

十 足引山道志らしの　下句在木ア

十一 足引山小白ハ我屋しら小　下句在宮ア

十二 足引乃名賀山菅押伏　下句在菅ア

十二 足引之山乎木高三暮月を　下句在月ア

十六 足引乃此行山よ二立ツしいるまし　長哥

十六 足引乃此行山ちかもむかしと　長哥在木ア

四 足疾乃山も得而不遠回　（上句月よみの光ハ来ませ／四ハ得家）

七 足病之山海石榴開　下句在椿ア。

十 足曳之山行就而家を居君　（上句陽宮而梅英哉）

十 足曳之山田佃子不秀とも　下句在男ア

十 足曳之山も高巻向之（タカキ十一年モクノ）　下句在岸ア松ア

十六 足曳之山縵之（カツラノ）兒（コ）今日往（ユク）と　下句在子ア

十六 足曳之玉縵之（十二）兒如今日（ケフノコト）　下句畏ア子ア

（久老 六年 注ハ云山トいふもあしくまことかは義にもあらと云も又あかくまうるあし[illegible]ものゝあしきとといふ價すゝゐのあしきとしけは集義續之詞相交也り集あらはあしやゆをも山さとわるしとあかす（津緒）二条院御本のあしはあしまうるのことも玆かはそれは波御本御神御卜奉勅称之之他所々のあしひきとといふにつきて山とつゝくつきこともあらわれあちはむ又高大有石山とあはれむすふそらの石影しあきらうのす和やへ平ふるきことゝのうれ小遠へつりに）

十八 足比奇乃山櫻花日並而（ナラベテ）　下句在櫻ア　又すくもあしひ比奇能夜麻（麻）さくらきあふ

十 足比奇乃山にも野にも鶯鳴も　上句あをはる春去来（コモリ　クラ）

十七 安之比奇能夜麻（ヤニ）にも野（ノ）にもほとゝきす　長哥

十七 阿之比奇能夜麻古要奴由伎（ユキ）　長哥

十四 安志比奇乃夜末佐波（ヤマサハ）妣登（ヒト）乃　下句有人ア　多くいへとこし

十四 安之比奇能夜麻（ヤニ）かつらかけましはにも　下句ゑかたきかけをおきやからさむ

十五 安之比奇能山毗故（ヒコ）とよめさをしかなくも　上句よしはいろうらのくいは乃うらのえかもよ

十五 安之比奇能山下ひかるもみち葉の　下句有二首葉ア

十五 安思比奇能夜麻（ヤニ）末都（ツ）のかけに日くらしなきぬ　上句在日ア

十五 安思必奇能山ちといゆきもかねは　下句在都ア　在ア

十七 安思比奇能夜麻もちかきをほとゝきす　下句在郷ア

十五 安之比奇能夜麻治（チ）こえむとする君を　下句こゝろにもちてやすけくもなし

十七 安之比紀能夜麻伎敝奈（キヘ）りて　長哥

十七 安之比奇能山過よしとへはあとくきまて　下句在郷ア

十八 安之比紀乃山のこぬれもいはくもに（許ぬ）　長哥　こねもれは本ありし

十九 安之比奇能夜麻こねもれ此はよりて　下句在本ア　又同巻にあしひ比奇能夜麻にねもこいへ長哥

十七 安之比奇能山之木末（コヌレ）の　長哥

十七 安之比奇能山谷こえて野つかさに　下句在野ア鶯ア

十七 安思比奇能山坂こえてゆきかはる 長哥
十九 安志比奇能山坂越而去更（ユキカハル）年緒なかく 長哥
十七 安之比奇能夜麻（ヤマ）野さへしすかなるさうら 長哥
十七 安之比奇能夜麻伎敝なりてとほけれと 下句こころしゆけハいめにみえけり
十八 安之比奇能夜麻きへなりてとつくにもれ 下句なりてしき言をこころつてそ
十八 安之比奇能夜麻能多乎理（タヲリ）尓 長哥在中 大雲山のたいうちと
十九 安之比奇乃山のみねより（千里）立雲の 長哥
十九 安之比奇能山下響（ヒヽキ）鳴（ナキ）なからへ 長哥
廿 安之比奇能山行しかは山人のわれにえしめし山つとそこれ
廿 安之比奇能山にゆくらむ山人の情（コヽロ）もしらす山人やたれ
廿 安之比奇乃夜麻すかはゆしなくもかはりけり 上句在茲ノ
一 春山路ゆきしに立有（タテリ） 長哥 あはきさへしくたてるや

八 春山之開（サク）乃乎為里尓（ヲヲリニ）春菜採（ワカナツム） 下句在菜ア
八 春山乃おほつかなくも念（オモホエ）かも 上句水鳥の鴨乃羽乃色の
九 春山ハ散過（スクレ）去とも三（ミ）和山ハ未含（イマタツホメリ）君待勝（マチカテ）小
十 春山近（チカク）家振（ヲレテ）續（ツキテ）而聞（キリラ）良む鶯之音（コヱ） 此一句梓弓之ノ一字シテトヨム古本同
十 春山の霧小まとへ（或在）る鶯て 下句在霧ア霧ア
十 春山之馬酔（ツヽジノ）花之不悪（ニクカラヌ） 下句在躑躅ア
十三 春山之志久い蔵而（ヤ名ハサカ今） 長哥 同哥云春山ノミルノ思フトアルシ云し
三 春日ハ山し見（ミ）かほし 長哥
八 春霞棚引（タナヒク）山乃隔（ヘナレ）ハ妹（イモ）よ不相（アハステ）而月そ経（ヘ）去来（ニケル）
九 春霞たつかへしにも君か誠（イナサ）去ハ 上句霧ア
十 春霧山小たなひく鬱（オホツカナ） 下句在霧ア
六 山上小霞たな引（ヒキ） 長哥

八 遠山邊よ霧のうらくし　上句在春ア 峙ア
十八 遠山ニ霞被益遐妹目不見吾恋　霧ア 三モア
十一 霏す春吾山之於尓立霧　下句在霧ア
十二 朝霞蒙山を越而去ハ吾ハ将恋なあひ日まてよ
二 山ふきの立儀よ山清水　下句在水ア 山振ノ山ハ借字なり山ノ字ニ不取て取るゝ也
三 山邊よハ花咲きをゝり　上今
三 雪消為山道尚をなつみ乎吾来よ　七今 末句し
四 小山田之苗代水の中よとみして　上句 事出し ハ訓云ふわろし
十 山田の沢ゑくつむと　七今
八 山もせふさけ馬酔木の　上下句在春ア 水ア 田ア 花ア
八 山櫻　在木ア
十七 山かいにさくらをみれハちり　七今 山ハ夜麻ト云 備ハ遊ノ心

十七 鶯梅乃花落夜万等之家尓ありともや　下句かくのミ君ハあひとおもふをしと 日本云太山ハ未サムキト云心
八 夏山之木末乃繁尓霍公鳥　下句在郭公ア
十 野邊尓山ニ入来鳴令動　上句宇能花のちるらんかしこあとくきた
十 山霍公鳥　上句在郭公ア 又八巻七丈巻
十七 宇乃花のさかんとおもへは山かひ　七今
十 秋山乃木葉を見而ハ　在七今 在黄葉ア
十 秋山之吾ハ　赤三 末句之
二 秋山之樹下隠逝水乃　下句在水ア
二 秋山をいかにか君か独越らむ　上句二人行とも去るくしき
二 秋山よ落黄葉須臾ハ　下句在黄葉ア
二 秋山之黄葉乎茂迷流　下句曰
二 秋山の下部留妹奈用竹乃とをよる子等ハ　上句 ハなれて ことかたの 秋山のしたひ

七 秋山の黄葉怜とうらふれて　下句在古葉ア　妹ア

八 秋山の黄反木葉乃移去ハ　下句在同ア

八 秋山ノ始黄葉に似こそあれわびし　上句在同ア

九 秋山黄葉片待時ハ難過　上句在同ア

十 紅之綵色に不見秋山かも　上句 [illegible]ハみどりに

十 秋山ハ鐘礼莫零在渡金　上句胡扇し涼もしめるる

十 秋山ノ霜零覆木葉落　下句在霜ア　年ア　木ア

十 秋山乎謹人懸勿忘めし其黄葉乃不思君　双書ノ借字こ承達ハ

十 秋山乎情ハ不飽るつけりし　上句一年二遍不行

十 秋山之木葉も未赤者　下句在凡ア　霜ア　木葉ア

十三 秋山之色をなけりしき　七分

十 金山舌日下鳴鳥ノ音何嘆　八雲御抄カナ山ハ名所部註ニ多アキ山トヨメリ　私云此所秋相関句し金ハ秋也

十五 わきやまのもみちをかけしをしまれん　上句在堀ア　下句家本ア

一 麻なしいふ高野原のへ　上句私云ハたもしみち如書云よ

六 山も動響よさと麻ハ妻よし今響　七分

六 さかしかの鳴なる山と越将去るとへふおとふし蒙わかさしむ　下句云麻ア　荻ア麻ノ字無之

八 妻恋の麻なしく山邊の秋芽子ハ

八 麻鳴山邊不揚耳して　上句在麻ア　麻ノ字無之

十 山遠京にあれはかゆしらの妻呼音ハ乏もあるらん

十 さよふけて妻喚山之岳邊在　下句在岳ア　田ア　岳ア

六 倭部越雁し乏し　上句在丁ア

十 いまそ越雁鳴ハいや遠放　倭部ハ借字之組古在やまとなれどいい朱点之　上下句在原ア

十 山こい越雁鳴く聲遠離　同前

十 山霧　在霧ア

四 朝日影にほへる山にてる月の不厭（アカヌ）君をや山越（コシ）に置て

八 丹保敝流（ニホヘル）山の落（チラ）まく惜しも　上句しくれの雨まなくなふりそくれなゐに（[illegible]）

八 山照秋の黄葉ちらまくおしも　上句在社部ハ

七 向（ムカヒノ）山に月立（タチ）てりみゆ　上下句在月部

七 野山の浅茅人なかりそね　上句在茅部

十 野山司（ツカサ）之色付見れは　上句霜ハ置けり　霜部

（今按野山司と書るハ古點にのやまつかさと点せり仙覚律師本ニハ基長中納言本ニハ　司ハよめり其理をおもふに野山司トハ野山のつゝき高き岸の司といふの意にて人ともかくとし）

十 應染（ウツリスヘク）も黄葉（モミツ）山かも　上句しらつゆと白露衣（ノ）往（ユキ）船ハ

十三 我心重之山に黄葉之　古今

十五 もみち葉のちらなむ山にやとりぬる君をまつらん人しかなしも

十五 もみち葉のちらふ山辺ゆこく船の　下句在舟部

十五 京師乃山ハいろつきぬらん　上句あきされはおく露霜にあへすして

十五 もみちはゝいまはうつろひにけり　上句わきもこかまたんといひし時の　於対馬竹敷（タカシキ）浦ナリ

十九 黄葉山をこえ来さらめや　上句春設而かく帰とも秋風に　一云春去ハ帰此雁　右二首非常[illegible]　紅葉の山ハ常[illegible]

十五 [illegible]山は[illegible]きるかも　[illegible]

九 三越道之（チノ）雪零（フル）山を越えむ日ハ留有（トマレル）吾をかけて志のはせ

十 窺良布（ウカラフ）とみの山雪の灼然（イチシロク）　下句在恋部

十九 山耳（ノミニ）介零（フラ）らし雪ノ　古今

十九 向岳[illegible]山越ゆめ　下句[illegible]

一 山越（コシノ）風乃　古今

一 山越乃風を時しみねる夜不落（チラズ）　下句在夜部

四 山越に置て　上句[illegible]在茶

十二 山越（コシニ）置代（シキテ）宿（イネ）不勝（カテヌ）かも　上句往而見而来恋敷朝香方（ユキテミテキテソコヒシキアサカカタ）

七 山高而遠津之濱之石流し　下句在躑躅ア

十二 山跡而往座足ちかいたしりもとむ　上句條我やの乃待まて古ありあ

十八 山こえ野ゆきこえやこふ　古今　山ハ也未ト云こし　せ哀やまかこひしはやて在下

一 [illegible]と茂へるも不取　古今　雑也不取し

一 山川とき[illegible]し河内と　古今　赤生

一 山川も依て奉流神乃御作も　古今ノ末句し　のし河ほし

一 山川も周而奉流神なりる　下句在河ア　前方ノ又前し

四 山河も隔ぬくは心えるは　上句情をもほのは柿あれは

六 山川手清し　古今　吉野宮にあり

六 山河之清見ゆい人[illegible]はなし　字鏡　末句之皆人之心三吉野今自見れは議も心来りけり

七 山川清見　上句今造久你乃王都ハ

六 山河手吉三　末句之神作より芳野ノ宮よりり通高不知ハし

七 山河之瀬之響なへに弓月高雲云立渡　第一句足引く

八 山河之瀬の　末句之衆句鳴て流ら人

七 山川小吾馬難家無しと　在所第ア　上句在家ア　山ハもちらこし

七 山川之瀧情乎塞敢しりあも　上句なきちなもいへもわつたこし

十 兩袖ハ瀧都山川能石鮎　下句在河ア

十五 伊蘇乃麻由をぬき山河を乃えすわらは　下句在河ア

十二 山川之當都心塞耐在　上句在瀬ア

十二 山川之瀧の益流心をとろ　下句在瀬ア

十一 山川不知未　ふる　念事意追不得出行杰

十一 山河よ筌を伏而　下句在年ア　えつうもと古点頃筌ア　よ[illegible]

十二 山河水陰生山草　下句在崖ア　第古点月

十五 山河狀きしれうこもふありてとて　下句在河ア

十五 山川をおりふへかりてやよまくまかし　上句ハつとありふいまと　わかハ和よふい思し

十五 山川となりふへかりてロしとぬさころとちくゆくましとし

十七 山河れへなりてあれハ　七夕　天云山と川とし〔に〕なりていへりアてあれハし

十七 山河乃瀬数手登保彦波らく吉余思　上句ハもとあいよすかや　なりん自みた云ソ手ハリアヱ

十七 山河とひろをあつくとくるてもつる　七夕　次句陽詞寶ハ

十八 山河よいとを孫さくくえてあもといぬり　七夕

サ 山河乃すみやまちれ白きつくしもひかもの打あか　上句ハつをいえすうとそり　や上行ハ夜麻ト云し

一 山際伊隠まて　長歌　おのあいし伊ハ発語只かくゆくし

三 山際よいさよふ雲ハ　上下句在雲ア　味ア

三 山際従ハ出雲兒等ハ霧有哉　下句在雲ア

三 山之末よいさよふ月に　上下句在月ア

六 山之葉よいさよふ月乃　上句在月ア

七 山末よ不知夜歴月を　下句在月ア　又同巻在之

六 山葉左佐良榎壮子　下句在月ア

四 山羽く味村さわき　次句在鳥ア

七 山際よとろわかるささ乃　上句在河ア　瀬ア　浪ア鳥ア

七 山際に霞立ちむ耳南備乃里　上句清瀬し千鳥まよし

八 山際遠木末乃開往らんハ　上句在花ア

十 山際よ鶯喧而打わたしき委と地しへと雪落布礼

十 山際よ雪ハ零つゝ志かにもハ　下句在鶯也　又同巻山際之雪ハ不消有を　在雪ア河ア

十 山際家木末乃咲往見ハ　上句在木ア

十 山間照桜花　上下在桜ア

十二 山葉追出月　端ミに　下句在月ア

十五 山乃波介月かくるまてハ　下句在興ア

十六 山葉従ひ来月を顕ハ如何　上句在月ア　忘邦し

十三 山随如此も現　長歌

四 山辺に居ハ欝有来　うつゝにいゝつゝ見きくらし　上句久堅之雨之落日辛直独

四 山辺道をしらすて　[illegible]句在乃ア　才一句春日紗をて

十 山辺に射去薩雄ハ雖大有山にも野にもさをしか鳴も

十 山辺にハ薩雄乃ねらひ恐けと　下句在麻ア

十三 山辺乃五十師乃原に　長歌

十三 山辺乃五十師乃御井ハ自然成錦を張る山かも　長歌

十六 山道を継ハ[illegible]おもへ独に天雲も　長歌

一 山下風　在風ア　又八巻十巻にも

六 山下雄錦成花咲ひをつゝ　長歌　[illegible]

七 山下露に沾来りも　上句黒玉之玄髪山ぞ胡郡印

九 山下之風莫吹と　長歌　此句在風ア

十 山下動去水に　上下句在奈良山ア

十三 山下吹而塞夜を　上下句在帆ア

六 山に零雪ぬるらしき　長歌

九 山之後有山ハ一不如義　長歌

七 山上　在峯ア

三 山影ひかりて　末句し　[illegible]

十 山陰にして　末句し　[illegible]

八 山之跡隠に鳴麻ぞ　上下句在麻ア

十 山乃あるし野のすさ見まく　長歌　[illegible]

十 山之常陰に鳴麻ぞ　末句し在鄙ア　[illegible]

六 山並之宜國と　長歌　[illegible]　在右前ア

六 山並見れは百代にも不可易大宮處　上句布當山　上句板葺之黒木乃屋根ハ

四 山近明日も取て持将参来

六 山近三鳥ヶ鳴動　長歌　布當ノ宮ニアリ

十 山近家哉可居さをしかの音をきゝつゝ寝不勝かも

七 山高流しに出不勝かも　上句在下

七 山高流しも風吹莫勤　上句花保山をおれ介見しまて今ミれい

十一 山陽愛妹陽有鴨　上句月光回同

一 山神の　青垣山ノヽ　長歌

三 山隠つれ情神もなし　古点ニハヤマカミトアリ不宜こし　上句家さかりいますわきもをとゝめかね

六 山彦乃将應極　長歌

八 山彦令響鳴もしや甚　上句[illegible]し吾行アセに霍公鳥

八 山妣姑乃相響左右妻恋よ　下句在鹿ア

九 山響令動嘆立鳴も　長歌　麻ミ　家持ノ反歌

九 山彦令動呼立来も　上句在秋ア

十 山彦乃答響音まてに　長歌　郷之斗い

三 山守之有けるしらに其山に標結立而結之辱為都　家持々和や

三 山主ハ蓋雖有吾妹子之将結標を人将解やも

六 山守居守云山ハ不取ハ不止　上句大王之界賜と

七 山辺之里過通山道曽繁成来忘来けらしも

十 山田守すこ　まゝかし　在足引山ア

九 山ニ住人　まゝかし　常之惜尓　夏冬往哉裘扇不放山ニ住人

廿 山人　在足引ア

二 山多都祢迎ゆかむ　上句君之行気長成ぬ　下句ほかアりまたむ　磐姫皇后　御歌　是ニ山タツツラトモ申タツキシモ申　松人今モ申こ

二 山多豆乃迎乎ゆかむ　上句同句待ニハまたし　衣通王哥

六 山多頽蝕迎参出六箇之未益者　長哥（末句ニ）
七 山ちさし花か　（上句在林ア　又十一巻ニ山萵苣ナ）
七 山橘　在菓ア
七 山海石榴　ツハキ外仍在之　在椿ア
九 山藍　在草ア
十一 山菅　在菅ア　又十二巻ニ十三、
十一 山葎　在菓ア　又十二巻ニ菅ア
十四 山かつら　在葛ア
十五 山松　在禾アニヒキ　非二字
廿 山齊　本アニアリ
廿 山清し　在禾　又云此部ノ中
十四 山より往むもやとりかあしよ　上句或はまちの千鳥乃よしさかこそるて

十六 山武死すり猿ハこそ海ハ潮干而山ハ枯すれ　上句在海ア
十七 山乃いそことも見てまちとつかし眠りも今日もゆきも逢へ
十七 山のゆふさけりさくらとゐひとり　下句在標ア　山ハ夜麻ト云し
十七 山かつや見か(?)らし　長哥（山ハ夜麻ト去ふハ言ふかりしむと）
十七 山ハ花つも花いよわたるとも　長哥（山ハ夜麻ト去ともハ詞ノ助とかしケキし）
十八 山ふちくまも花つかわらめやし　上句在部ちア　山出称同示
十八 山これハきみかわかりゆとつてそ多かわきし　上句はきしもいかちしくはら　山出称同し
十八 山をしもさハぬ花ほとと　長哥（さハ多し）
十八 山行ハ草むさ屍　長哥
一 数ミも見放む八當雄情無雲乃隠障へしや　依哥（末句し）
一 限もあらす思つくらす其山道を　長哥（末句し）
二 妹をもとめむ山道不知し　上句在部ア　一云路不知而

二 妹かあたり置而山経継ハ生ともなし　上句衾道を引手乃山に大和国に
二 妹置山路念に生ともなし　一上句衾路引出の山に　前ノ前ノ歌并ニ
三 山道をさして入日成　長歌
七 山道も知成ける　上下句在山ア
七 山路惑此日暮　上句いもらため菅実とりて行わし
九 一哉君之山道将越　上句桐こそにねむかしかちはくして
九 見か哉公之山道越良武　上句山品之石田乃小野之母蘇原
十二 見乍か君か山道越良も　上句草路之菅蘭之浦乃笠路半　一云三坂越良年
十二 獨か君か山道将越　上句玉勝沿絶ぬる夕暁に
十二 君に副而山道越来ぬ　上句あつさ弓末ハ頼とうつゝとも
十六 きかね山道をもつか将来　上句霞立春長日乎奥香無
十九 将落山道をいろか越まし　上句あしひきの山のとうらにあせりくありて

十二 此山乃弥高良し　長歌　吉野にて云
十二 弥高ふ山も越来ぬ　長歌　こゝもしやうかのふしきりとこそし　長歌
二 益高に山も越来ぬ　長歌
三 高山ハさハにあまてとも　長歌　さハに多く
十 高山乎白妙に令数色有ハ梅花鴬　前句鶴之鳴東国に
十 自高山出来水石触　下句在水ア　高山ハ名所ニ入京所ア　此一首の歌ニ　歌一句馬並而テ　へノ字よこ分し古本同
三 わすれめや旧京師ハ山高ミ河とほしろし　長
六 山高ミ白木綿花におちたきつ　下句在餘ア
九 山高ミ白木綿花におちたきつ夏身之川門見れとあかぬかも
六 山高ミ雲そ棚引　長歌　前句芳野宮ハ
六 山高ミ里にハ月ハ不曜しとも　上句ならせこと二人へさ林ハ
六 山高ミ河之瀬清　長歌　前句ミつ代ならく久延乃とをこハ

六 山高く川乃湍清し百世左右のとしゆかし大宮所 布當ノ宮ニ

七 山高夕日隠ぬ浅茅原 下句在本ア

九 山高み風ゝ不息 長歌 龍田山ノ小椋嶺ニ云々

十 山高み雲ゝ来る雪を梅の花 下句在本ア

十一 山高み谷辺蔓在玉葛 下句在葛ア

十七 山高し河とほしろし 長歌

三 与妹為而二作ゝ吾山齋ハ木高繁成よけるかも

六 百樹成山ハ木高く落たきつ川 長歌

二 小竹之葉ハ三山毛清ニ乱とも吾ハいもおもふわかれきぬれは

十六 由布さらハ君夜麻手さつれ介努具母能 下句在下ア

二 為かため山尓標結君もまさなくに 上句さゝなミの大山守ハ 日本云内裏ヲ守人也とし

二 向南山陳雲之青雲之 下句在星ア

七 西山邊ニ塞も有ぬかも 上句ぬはたまの夜わたる月をとゝめむに

二 其山を振放見乍 長歌

三 其山之氷乃當乎 長歌 前ノ一首中と

六 其山之弥益々尓 長歌 としの山

二 日も久門ゝ麻無山 長歌 末句也

二 角里見ゝ麻無山 前歌ノ或本云々

六 此山之盡者耳社 長歌 としのはに云々

七 是山ノ黄葉ノ下ノ花哉我 下句在葉花ア

九 此山乎牛掃神不従来 長歌 筑波山ニ牛ハ虫ノ掃ハよくと

十一 此山之嶺ニ近と吾見つる月の空有恋もするかも

十六 此山ノ油 終句し 在油ア

十五 これ山道ハゆきあしかりき 上句あゆかゆゑにしめすかし此あたりハゆきよかりしも

十八 此山のいやつきつきにかくしこそつかへまつらめ　長歌

三 彼山之堤有海乎　長歌　彼山ハ富士海ハ石花海也

三 奥山之菅葉凌零雪乃　下句在雨ア

三 奥山乃賢木之枝尓白香付　長歌

十二 奥山之磐本菅乎根深目手　下句在芹ア

四 奥山之石本菅乃根深毛　下句同系

六 奥山之磐影尓生流菅根乃　下句同系

七 奥山之般石尓蘿生恐毛　下句在苦ア

六 奥山之於石蘿生恐常　下句在磐ア

十一 奥山之真木葉凌零雪乃　下句在中

十一 奥山之真木の板戸手押開　下句在戸ア

十一 奥山之真木此板戸乎音速見　下句在[illegible]ア

十四 奥山の真木の板戸をとゝとして　下句在戸ア　奥山ノ二字本作[illegible]字

十 奥山之馬酔花之今盛有　上句躑躅ア

十 奥山之住云男麻之初夜不去　下句在萩ア　麻

十二 奥山之木葉隠而行水乃　下句在水ア

十九 奥山之八峯乃海石榴　下句在椿ア

廿 奥山に[illegible]のことや　下句在木ア　奥山作[illegible]字

九 鴻山と附往廻流　長歌いハ[illegible]大ナル湯の山ノヤウナルに　湯山ハ名高[illegible]

三 わかきとふ入まし山をよすかとそ念　長歌　上句[illegible]　日本紀ニハ[illegible]文字ヲよすかと[illegible]

三 山をしや今ハ因香とおもひけらし　上句うつせみの世ハ常なしとしれる[illegible]　前ノ名

十六 よそ[illegible]の山と見つゝ將偲　上句志賀乃山をいたくな伐りそ荒雄らか　志賀山荒雄国也

三 磐金之凝敷山を超不勝而哭ハ泣とも色に出めやも

注尺云古歌ニハ[illegible]

[illegible]上ニ[illegible]

七 磐畳恐山と知つゝもわれはこふるか同等不有介

七 石金之凝木敷山尓入始而山なつかしみ出不勝鴨（才一句ハ通してよむ次の二句ハたゝきく人よみの才五句ハ我力やしきと云）

十一 石根踏重成山あらねとも不相日数を恋度かも（長方……山にあらねとも山にあらぬ山ハ）

三 明津之貴山乃儀立乃見果石山と（長方 春日山よめり 井ノ三字ハ借字也）

六 山見ハ山も見白石（長方……山ハ……也）

十三 山ミねハ高貴之（長方 信濃国云）

廿 山ミねの見能等母之久（長方山ハ夜麻ト云ヘリ 同書云ミテ面白也）

三 山のまにまに了（まつりく在煙ア 堤ノ文十毛）

三 白雲乃多なひく山を越而来けり（上句在雲ア 家ア）

四 白雲乃多なひく山の方西有らし（上句ニテよみて……やいはと）

四 白雲之多なひく山之高々尓念ものをとしもかも

九 白雲之棚引山を今日乃越らむ（上句 従兵而吾恋兵ハ）

十七 あしひきの山きはひくやまかはのかはせのきよき

廿 あかねさす日乃多奈ひく夜麻と古与空とのひし（上句 ……）

七 天雲棚引山隠在吾忘木葉知（寺本多本六条本又イ）

四 朝ボゆ小……山乃白雲之（下句在雲ア）

四 海山も隔なくにあれとも目言をたにも幾許乏寸

十二 雲居者海山超而伊往者将恋かはあらしぬとし

一 真木立荒山道を（長方 前句消瀬山か）

三 真木之立荒山中尓海成らし（上句皇ハ神すゝ坐ハ）

十三 荒山も人し依者余所留常云（長方 荒山ハ豊前ノ名所也 在名所ア 但言よみてもいふへきにし 右方各非豊前乃歌く）

六 御山よハ射月立渡朝猟よ（長方 山ハかしくらし四称し）

十一 縁路ハ石踏山もなくてかも待つら馬爪流くし

十二 吾山尓焼流火気乃外見申を（上句在煙ア）

十二 小山田之しゝ田もる如　上下句在男ア　麻ア

十二 百不足山田道を　長哥　百不足ハとてふるや

十八 みちのくの小田在山小金ありと　長哥

十三 無意山之奥礒山三野之山　長哥　末句と

十三 浦妙山ヲ泣児守山　長哥　末句しミしみ山と云

十三 宜山之出立ゝ妙山ヲ惜山之荒まく惜しも　同安云クハシクハウツクシキ山也　長哥　長谷山ト云

十五 とほき山せきもこえきぬいまさらにあふへきよしのなきかさふしさ　一云さひしさ

十五 あかみこそせき山こえてこゝにあらめ心ハいもによりにしものを　関山名所と　これハ関と云山を　こゝろえてし

廿 まをすしと努ゆきし夜麻ゆきしよりくれとも　下句　こゝちくるしハますらをのこも

廿 あらしまの夜麻努ゝ波賀志刀里加介豆　下句ぬさまつりいはふいのちも　詮ア人云あらハ我也

廿 まくらたち可多夜麻にたちまよひし　下句在橘ア

七 峯（峯ノ名所深ゝ同前山ノ名所ミゝ入て／尾とも根とも云何も峯也在此部）

七 此山上之木末之於ハいまた静之　上句暁と夜烏なきと

七 片岡之此向峯ヲ椎蒔ハ　下句在椎ア

七 向峯ニ立有桃樹成哉と　下句在桃ア

九 向峯之櫻花も折ましものを　上句在櫻ア

七 向岳之若楓木下枝取　下句在楓ア

八 峯向ニ嫁ま向為と云　長哥　在山鶏ア

十四 はなちらふこのむかつをのをなのをの　下句ひしにつくまてきみかよもかも　又云むかつをとはむかひのをなりと云　あつまうたにて二重の字にある　のりハ海中乃例と云

十四 むかつをのしひのこやての　上下句在椎ア

廿 みわたせはむかつをのへのはなにほひ　下句在花ア

八 霍公鳥鳴峯乃上乃宇乃花之　下句在卯花ア　郭公ア

九 峯上之櫻花ハ　長哥　同巻也在櫻ア

九 岑上をと居くる雲のすゝ　古哥 筑波山

十 峯上之零置露之風之共　下句在露ア

十九 足引乃峯上之櫻如此開くなり　上句在櫻ア

廿 このくれのしけきをのへをほとゝきす鳴てこゆなり　下句在郭公ア　このくれは木のくらきなし

七 八峯越鹿待君之伊波比嬬かも

十九 みかきし山の八峯には霞たなひき　長哥　みかきし山名所

十九 奥山之八峯乃海石榴　下句在椿ア

廿 あしひきのやつをのつはきつら〳〵に　下句同

十九 足引之八峯之雉鳴響　下句在雉ア

十九 安之比奇能八峯乃雉　長哥

十九 あしひきの八峯のうへのつかのきの　長哥

十九 安之比奇乃八丘飛超郭公　同

十一 足日木之山鳥尾乃一峯越一目見之児尓應戀鬼香

十 高松之此峯迫尓笠立而盈盛有秋香乃吉者

十 奈良山乃峯尚霧合　下句在霧ア

十一 峯之沫雪さむくあるらし　上句在雪ア 芽ア

十八 此山之嶺に近しと我みつる月の空有恋もするかも

十八 自高山出来水ノ石觸　下句在水ア

十二 谷迫峯邊延有玉葛　下句在葛ア

十四 多尓世はみ弥年にはひたる玉かつら　下句在葛ア

十三 峯もとをゝくらし手折　長哥

十三 次嶺経山背道乎　長哥　自雲云山代ト大和ト之峯ツヽキシ行ハヤ

十四 ま〳〵乃あすいふあねもくらくよ　上句在雲ア　又云あをくものいさよふまし いふ雲の名

十四 武蔵野乃乎具奇我吉藝志多ちわかれ　下句在雉ア　自安云ヲクキハ小峯也

十四 まいらやま祢さいつるのつらをかあり　下句在名所ア　山の裾に作りてとをに

十四 祢もころころか花虫よ見えつり　上句さのやまよ川やとのとかほゝとも

り　とかとい谷の意とはからしハ道とも　ゆいなりし山のとより見て作りとして　花虫小見えつゝし

十四 こ家乃古ノ祢　能布乃ら山乃中の古ノ祢と云也し文字かと思ひて云こ　ろしト下句在画ア名所ア

十四 くにはらの祢しら川くもとゝつ古のたゝ也　上句在雲ア

十四 多つさ祢しらへ花はくのすゝれしさく小　固ア　下句きゝふはさうく多祢とゝのりく　大きのすいとい虹と或抄云雲の事也

十四 いや乃野之手作藝祢のをりをきくも（シサキ）　下句在悲ア　目安云ことハ尾上し祢ゝのうちの指て前かし

十四 み祢おもたちまちしゆけりしおちたる川　古今

十七 あしひきのをてもこのもにさすわなのかしける（手面母）　古今し

十七 二上乃をてもこのもにあみさして（フタカミ）　下句在鷹ア

嵩　名所除之　以下同し

五 よみ川よにかへりけまらしこ乃多気よりとよふりわたる

岡

一 此岳よ菜採須兒（ナツム ス コ）　長歌

七 此岳ニ草苅小子然苅（カル ワラハ シカリカリソ）　下句在草ア

八 此岳よをしか踏起しうかねらい（フミオコシ）　下句在鹿ア

八 吾岳之於可美尓言而令落（ワカ ヲカ ミ イヒテ フラシムル）　下句在雪ア　於可美ハ蛇靇也詳龍部

八 吾岳よさをしか来鳴先芽之（ナクハツハギノ）　下句在萩ア　鹿ア

八 吾岳之秋芽花風乎痛（ハキノ イタミ）　下句在萩ア

七 吾岳よさかりにさける梅ノ花　下句在雪ア

十 向岳之若楓木下枝取（カツラキノシヅエトリ）　下句在梅ア

十 出見向岳本繁開在花不成不止（イテヽミル シゲクサキタル ナラズハヤマジ）　下句在楓ア

五 うめれちりまかひたるをかひにハ　下句うくひすなくもはるかたまけて　梅部し

六 龍田道之岳邊乃路よ丹管士乃将薫時能（ツヽジ ニホハムトキノ）　櫻花開なむ時に　長歌

六 吾過し繁よ叢らくハ花開なとや　長哥

九 河副乃丘邊道よ　長哥

十 梅花さそり岳邊よ家居せハ乏しからし鶯之音

十 宇能花乃開落岳ゆ田草引いも（上句同とききけ鳴音きゝつや）

十 宇能花乃咲落岳ゆ霍公鳥（下句在卯花部ア）（郭公部ア）

十 霍公鳥来鳴動岳部有藤浪見ニハ君ハ不来とや

十一 さをしかの聲嗚山之岳部在早田ハ不苅霜ハ雖零（シゾヒイ本六本）

十一 岳前のめくりの道ゆ人の通ふ（下句在道ア　カラヒ）

十六 何所貴真朱求岳薦疊平群乃阿曾我鼻上乎穿礼（旋頭哥也）（上句はこゝにすてゝすきは）

十七 手加傭らし秋爪吹ぬらしもわあらくハ（同集ニ出セ署名）

十九 安之比奇乃八丘飛越（長哥　鶯部ニ出セ）

廿 手寸ろハ佐伎伊多志加年流其等とうのさ枝しなしもりことよ（長哥ハ袋縫ももりハ略也　端をあくるや）

坂

一 坂鳥乃朝越座而　長哥

六 手向為と恐乃坂ハ幣奉　長哥

九 麻取鹿坂上よ不有あり（上句射ノ回之昔乃雄之響矢開）

九 射行相乃坂上之踏本よ（下句在梓ア　名許ハとふたしろ八雲云は松葉し）

十一 三坂越良年　一云〻在垂ア（仲〻集名許同もし）

十二 氣緒小吾念君ハ鶏鳴東方重坂手今日ゟ越覧（重ノ字云坏）

十三 鳥網張坂手と過石走　長哥（集十七本同）

十三 吾嘆八尺之嘆　長哥　一説云八ノ坂ヲ読テキ又ハ若トシ心アリ

十三 杖不足八尺乃嘆　長哥

又云坂をとよハくうくしていきの長ほうくし一坂なおわり八坂あけれみきたとめ

うつハし又ハ坂の日公人ハかくハ訓詞ニほくあれと押まり横ハ一丈ニ又ハ十丈なるに八人もと杖あわあとい云也

十四 也左可掃利やさかとりいきほへいもと（上下句鳥ア仲ア　坂ヲ越過し）（一首ハ歎によそへんあるし）

十四 佐可　さかこえてあへの田のもにゐるたつの　下句在鶴ア

十七　あしひきの山坂こえてあまさかるひなにくたりき　長哥

十九　あしひきの山坂越而去更（ユキカヘル）年緒なかく　長哥

廿　ちはやふるかみのみさかにぬさまつり　下句いはふいのちはおもちゝのため　又系ニ家所収

廿 坂 佐可　みさかたはらはまさやかにみむ　上句いろふかくせなかころもはそめましを　大系云[illegible]

たむけ

三　佐保過而寧楽乃手祭尓置幣者（サホスキテナラノタムケニオクヌサハ）　下句いもを目不離（カレス）相見染跡衣（ミシメトソ）　目安云手祭ハ山ノタウケナリ

十五　みこしちのたむけ（多武氣）にたちていもかなのりつ　上句かしこみとのらすありしを　[illegible]

岫

九　智可能岫（チカノクキ）より大津ノ浦津ノ濱ヘ不　長哥　大系云肥前国松浦郡近江の[illegible]　目安云くきハ浦のまかりたる所

十二　玉釧（ツルキ）巻寝（ネ）しいもを月もへす置てやこえむ此山ノ岫（クキ）

十三　雨波年三野ノ岫ニ陰く（キリキヲミ）　長哥　目安云小峯ノアヒタアルソなし

十四 安里獲夜　わかせこやかはにかくもまもらうるいき　下句在浦ア　大系云わかせこやとは[illegible]

峽

十七　山乃峽（可比）そこともみえすをとつ日もきのふもけふもゆきのふれゝは

十七 夜麻可比　やまかひにさけるさくらをたゝひとめ　下句在桜ア

十八 夜之　やまのたをり（多乎理）にこのみゆるあまのしらくも（久毋）　長哥　大系云山のくほみを[illegible]こゆるみち

十九　山乃まゆいつる立雲を　長哥

谷

九　多尓具久乃佐和多流伎波美（タニクヽノサワタルキハミ）　長哥　タニクヽトハ谷水也　谷ニクヽレハ谷クヽト云

六　谷潜（クヽ）乃さわたる極（キハミ）　長哥

七　細谷川乃音乃清也（サヤケサ）　上句在川ア

十一　山高（タカミ）谷邊（ヘ）にはへる玉かつら　下句在葛ア

十二　谷迫（ヤハミ）峯（ミネ）邊（ヘ）延（ハヘル）有玉葛　下句同前

十四 多介せハミ祢ふはひたるたまかつら　下句在葛ア

十七 あしひきの山谷こえて野つかさに　下句在鶉ア（鶯ア）

廿 こ祢のゐとこ谷（多介）とよむことしおちたきつさ川　長歌

十九 谿へふハ海石榴花咲（ツハキハナサキ）　長歌

十九 繁山（シゲケ）の谿へし生る山振を　長歌

十九 許能久礼（ノクレ）乃繁谿邊を呼等（メスラ）めよ　長歌

十九 谷のこつそて家居有（ヤレ）　長歌

十九 垣内礼谿よ　長歌（同前二ツトモノ各こ）

十九 多介ちかくいへハをれとも　長歌

十九 多ふ（多介ふ）とえらしころふれしも　長歌（郭云とくと云）

麓

九 射行桐（イユキアヒ）乃坂（サカ）上之蹈本（フモト）ふ咲（サキ）をせる　下句在櫻ア

十六 いや彦（ヒコノ）神乃布本（フモトニ）今日らもか　下句在鹿ア

村

三 三湯（ミユ）之上乃樹村をミれハ　長歌

杣

一 綜麻形（ソニカタ）乃林始（ハヤシハシメノ）の狭野（サノ）榛能（ハキノ）　下句在萩ア（衣ア）（六云杣山ナトノ形ノ如ク　ハヤシハ杣心こ）

三 和豆香（ワツカ）山御輿（ミコシ）立之而（タテヽ）　（六云杣人の山と和ふとのきえともいうへしハ人多しいまいると云）（同書云杣山のうしろのあたにあけるも云）

三 おほよそに見けり和豆香（ワツカ）蘓麻（ソマニ）山　上句在山ア

七 真木柱作（ツクル）蘓麻（ソマ）人いささめに（伊左佐目）　下句在廬ア（いささめとハかりそめを云こし）

園

五 わかそのゝ花ふわりきこそねしも　（上句うめの花ちるいまをさかりとちらさ）（わかそのハ我か園也）

五 わかその李花か庭ふちるかも　上句在雪ア（わかそのハ我か園也）

五 わかその（介）竹林ふうくひすなくも　上句在梅ア　鶯ア（わかそのハ我か園也）

八　吾宅（ワキヘ）乃苑ニ鶯鳴し　上句在鶯ア

五　まらすのかうめの花ちり　下句在梅ア

十九　[illegible]鶯乃〻多（タ）ケ乃波（ハヤ）也（ニ）〻〻ニうくいすなくも　上句在梅ア　鶯ア

十九　吾園之李（スモモ）ノ花か庭ニ落（チル）　下句在李ア

十九　袖垂而（タレテ）いさ吾苑ニ鶯乃　下句在梅ア　鶯ア

五　うめのはなさきたるそのゝあをやきハ　下句在梅ア

五　うめのはなさきちるそのゝ鶯はこゑやさしきと　口示　下句在梅ア

十　梅ノ花咲散（サキナル）苑ニ〻〻将去（ユカム）　下句在梅ア　使ア

十六　宇梅能はなさきちりの鶯能鳴〻〻〻〻〻　下句在梅ア

五　許（ミ）苑（ソノフ）能（ノ）不乃于梅（ウメ）能ちるらし　上下句在梅ア

十　三苑（ミソノフ）園乃辛藍（カラアヰノ）花之　上下句在藍ア

十　三苑原之（ミソノフノ）鶏冠草（ツキクサノ）花乃　上下句在草ア

十七　御苑（ミソノフ）布能百木乃宇梅（ウメ）の　下句在梅ア

十九　御苑布能竹林ニ鶯ハ　下句在竹ア　鶯ア

十　雑苑之梅ノ花毛（ツモ）　下句在月ア　梅ア

十　誰苑之梅ニかありけむ　下句在梅ア

十七　橘乃にほへる苑にほとゝきす　下句在橘ア　郭公ア

十九　春苑紅にほふ桃花　下句在道ア　桃ア

野（ノ）　小野　花野　荒野　おほ野等　但此集品〻あり〻のみうつく

二　春野焼（ヤク）野火と見左右（ミルマテニ）　下句在火ア　長哥

二　冬木成春去来ハ野毎（ノコトニ）著而（ツキテ）有火之（アルヒノ）　一云冬木成　春野焼火の

十四　おもしろき野をハなやきそふるくさにあらくさましりおひハおふるかに

十七　春避而（サリテ）野邊を廻ハ面白みわれをおもふか狭（サ）野（ノ）津（ツ）鳥　長哥

五　はるのゝにきりたちわたりふるゆきとひとのみるまてうめのはなちる

五 はるのゝになくやうくひすなつけむと　下句在宿ア　園ア

六 九 将不立し春さゝ茂（シゲ）みゝ　長哥　末句し

八 春野にすみれ採（ツミ）ふしと来（コ）しわれそ野をなつかしみ一夜宿（ネ）に来（ケル）　此字ニアリ

十七 春野にすみれし摘つむと　長哥

八 春野にあさる鶏（キス）乃妻恋　下句在鶏ア

八 春野に抜（スケ）る茅（ツ）花ソ　上下句在茅ア

十 春野のい尾を聴つゝ鶯なくも　上句葉に根延（ハフ）横（ヨコ）ホら

十 春野ゝ菟（ウ）芽（ハ）子（ナ）採（ツミ）而（テ）煮（ニ）良（ラ）思（コ）文（モ）　上句在煙ア　草ア

十 春野に意（ココロ）将（ヤラム）述と念（オモフ）共（トチ）来（キタリシ）し今日ハ不晩（クレヌ）しもあらぬか　意遣ア

十 春野ゝ草根の繁恋しすゝも　上句在草ア

十 藤浪のさく春のにはふ葛（久）　下句在夜ア　葛ア

十 春野にかすみたなひきさく花の　下句在霞ア　花ア

十九 春野に霞たなひきうら悲（カナシ）　下句在霞ア　鶯ア

十四 春（波流）の野にくさはむこまの　下句在馬ア

十六 春ゝ野乃下草なひきわれもより　下句在草ア

十七 春乃野のしけみとひくゝ鶯ノ　長哥

八 明日よりハ春菜（ワカナ）採むと標し野に昨日も今日も雪ハふりつゝ

八 山振（フキ）之（ノ）咲（サキ）有（タル）野辺乃つほすみれ　下句在菫ア

十 春霞たなひく野辺之鶯鳴も　上句在霞ア　音ア　鶯ア

十 山にも野にも鶯鳴も　上句在山ア　鶯ア

十 朝霞たなひく野辺にあしひきの山ほとゝきすいつか来なかむ

十 をみなへし咲野に生る白つゝし　下句在躑躅ア

（人云さく野ハ所の名ときこえたり在所可勘之　或云さく野ハ今も森代ゝ其名）
（寄云ゝ女郎花のさく野ハ今も流しさく心也）

十九 野辺之山吹誰（タレ）か手をらし　上句在歎冬ア

四 夏野去（ユク）をしかの角乃束（ツカノ）間も　下句在鹿ア

八 夏野乃繁見（シゲミ）にさける姫由理（ユリ）乃　下句在百合ア　又ア八先夏野在同ア

十 人言は夏野乃草の繁くとも　下句在草ア

十 真田葛（マクズ）延（ハフ）夏野の繁（シゲク）如是（カク）恋ば信吾命常（マコトワカイノチツネ）有（ナラ）めやも

十三 夏野ノ草をかるとまかりしも　上句在草ア

十九 夏野よ吾（ワカ）こゝし草はもてちしりけり　上句世俗ハ継而露やまく

八 霍公鳥（ホトヽギス）音（コヱ）聞（キク）小野（ヲノ）乃秋風よ　下句萩（ハギ）さかぬかやこゑの乏（トモシキ）

八 吾標（ワカシメ）し野乃花にわるめやも　上句在瞿麦ア

九 守繊花乃さける野辺よりも　朝（アサ）藪（ヤ）　郭公ア

十 見渡（ワタセ）ば向野辺乃石竹（ナテシコ）の　下句在雪ア　瞿麦ア

十 野辺みれば瞿麦之花咲（サキ）にけり　下句瞿麦ア

十 野に出（イデ）山に入来鳴令動（トヨミ）　上句在卯花ア　郭公ア

十七 あしひきのやまにも野にもほとゝきすなく　安倍

一八 金（アキ）野乃美（ミ）草（クサ）かりふき屋とれりし　下句在庵ア

八 秋ノ野に咲有（サキタル）花を　下句草花ア

八 秋ノ野の草花（ヲハナ）かうれを　下句在尾花ア

八 秋ノ野にさける秋芽子（ハギ）　下句在露ア　二萩ア

十 秋ノ野をと旦往（アサユク）鹿乃跡もなく　下句在鹿ア

十 秋ノ野の芽子やちらましちるらん　上句在二秋ア　鹿ア

十 秋ノ野の草花か末（スヱ）になくもとの　下句在鳥ア

十五 秋ノ野尾花末生靡（カスヱノオヒナヒキ）　下句在妹ア　妹ア

五ア 秋ノ野をとよはいすゝきかはさなみと　下句在二秋ア

十 安待乃野にさをしかなくなり　上下句在鹿ア

サ 秋野（アキノ）にいつまこそゆかめもみちよりなれ　下句在女郎花ア

サ
一 わきれ野につゆおつかそきて　下句在萩ア

一 東野炎立所見而反見為者月西渡

右哥大和国安騎野にて人丸作云々東国の野にあらず仙注不云あづまの
東国の野とこゝろ得たる人もあらんと思ひて東国の野にあらずと
又是は遠き野のかたをいふにや
野といふはいつくにても東の方の野をいふべし

二 大名児彼方野辺に苅草の　下句在束ア

四 野に立麻も勤而不めく　上句在麻ア

七 野辺剛清照月に照らし　上句在月ア　鷹ア

八 野辺には浅茅不多吹小束　上句在茅ア

八 かた野の浅茅色付にけり　上句在茅ア

十一 あさち原小野に標結空事何在云公待

十二 浅茅原小野に標結空事も　下句在茅ア

小野ハ名所にあらねどもよむべし
右二首ハ外在名所ア

八 伊香山野辺に開有芽子見者　下句在萩ア　尾花ア

八 さをしかの来立鳴野の秋芽子は　下句在萩ア　麻ア

八 さをしかの朝立野辺の秋芽子に　下句在萩ア　萩ア　麻ア

十 山もせも野もさをしかの鳴も　上句在山ア　麻ア

十 をみなへし咲野の芽子の　上下句在女郎花ア　萩ア

十 去来子等野行奈行芽子花見に　上句在萩ア

十 秋芽子のさきける野辺はさをしかぞ　下句在萩ア　麻ア

十 秋芽子のさきちる野辺のゆふつゆに　下句在萩ア　麻ア

十 秋芽子之開散野辺之夕露に　下句在萩ア　萩ア

十 秋芽子の花野のすゝきほにはいでず　下句在萩ア

十 芽子の花咲有野辺に日くらしの　下句在風ア　虫ア

十 夕去野辺の秋芽子　下句在萩ア

十五 あさまだきちらす野辺のさ手も　長哥

十七 とこうをしるかよる野へをしゆきめくらめ　下句在女郎花ア

十七 とこなつのしきかる神さひとゆきつゝ見つゝ　上句同前

廿 努都可伏よいまさけりしむきとちへていし　上句あつまとの寄のすゑその

十 野山司ゝ色付らいは　上句在霜ア　司ハ佐きに

十七 野作ゝるふ今ハ鳴くらいむらくはものゝこらん　上句あしいきのらむ苔こして

十九 暮月夜のそことそき野邊よ遠ふ小　長歌　あかまさハかすかうらし　須句のくれうごとく

八 百濟野乃萩古枝し　下句萩ア鶯ア

九 容八之家せむ野小霜降ハ　下句在霜ア

十一 道邊草冬野小履干吾立待し妹告ん

一 朝ふかすらむ其草深野　上句あさしたる日乃乃妙馬數而

一 野守ハ不見哉君之袖ふる　上句あかねさしむらさき野遊標野行

一 眞草刈荒野ニハ雖有葉色去　下句君か形見ハ跡ヨリそこし

二 蜻火之燎流荒野よ白妙之天領巾隱　長哥

二 天離夷之荒野小君乎置而念乍あれハ生けりともなし

荒野ハきこゆる名所ア在し廿代集の名寄梭はさし　けれ共大和作し君見と有りて此外作在名所ア

六 何野邊よ廬せむ吾等　上句木綿畳手向乃山を今日越而

六 足引之山よも野よも御獦人　下句在山ア

六 山乃みき野のみきゝとも　長哥　大会山のつきさかのつさとふさと　同安云山のつきむのつきとら

七 野山之淺茅人なかりそね　上句在茅ア

十三 葦引乃野行山行潦川　長哥　あし引の野ゆき山ゆき　此字同

十三 山行野往直海川　長哥

十七 やま地さハにありといへともあさしくる　長哥

十七 やまのへ故ゆけるわしさける　長哥

十七 やまのへ野ゆきさらくにつよ　長哥

サ ますらひと路ゆきやまゆきまれくも絶とかゝる 在山ア

サ あつこまたかやま岳よそらしこりうて 右同意

廿一 視渡せハ近里廻乎田本欲今衣吾来礼巾振し野よ 注入詳波ア。（タモトホリハメグルト云詞也）

十二 野ハ殊異為而心ハ同 右ナシ よるもし花ひとも草のと まとしふた麻の

十三 野鳥 在雑ア 保

十六 まとりくの野よしあさふむつゝろなくさとのあふのあへらやなて 写真中也

十四 野をとひろこあしめし思をとわをもあえせむ 右在後らのア

十七 野をとひろきへきこえ其も紀 右分

十七 野花さへめとりすに早つとと 右分 さつく多し

サ 如月まいかし野あつたいよりかゆふつしも 卅 右ふきのぬとも

原 萩原 荻原 柞原之歌 浅茅 不会 海原 海原向也

一 国原ハ煙立多川 右奇 右在国ア

一 立見に来し伊奈美国波良 上句高山と耳なしやあひし体

十一 君か足結をぬらす露原 上句あさとての 在旋ア 旋頭哥也

塚

九 道辺近磐構作冢を 長哥 これはうなひおとめか墓也

九 處女墓中尓造置壮士墓此方彼方よ 長哥 これはうなひおとめの男ちぬ男也

九 墓上之木枝靡有如聞陳努壮士之依へ家らし 卅

墓

二 御陵奉仕る山科乃鏡山よ 長哥

おくつき 又荒墓を置所也 萬葉抄云たまつきとは墓之具のはきしるしの處と云ん 今会墓をと云也

三 勝壯鹿乃真間ノ之手児名らへ奥槨乎こことはきけと

三 かつしかの真間の手児名か奥津城處 上句われもみつ人にもつけむ 赤人

三 吾妹子らへ奥槨と思ひていはしき佐寶山 下句 此外ヨツキも 奥キハ墓也心又欺心

九 葦屋の菟名日處女の奥城を　長歌

九 處女等之奥城所　長歌　前ノ一首中也

九 菟會處女乃奥城乎　上句古乃小竹田丁子乃妻問し　うなひ處女の名し

九 浪音乃さわく湊之奥津城に　長歌　ろしき世の侶あふかねけつきし

九 葦屋之宇奈比處女之奥槨乎往來跡見者哭耳之所泣

十八 大伴能等保追可牟於夜能於久都奇波　下句　之シルクタテヒトノシルヘク（自餘云先祖ヲ云ヤト云也）

十九 奥墓を此間定て而　長歌

田（苗代在 田中）

二 秋田之穗向乃よすり異所縁君尓因奈事痛有とも

十 秋田之穗向之所依片縁しれは物念つれなき物乎

十七 秋田乃穂むき見かてりせこか　上句在女郎部

二 秋田之穂上に霧相朝霞何時邊乃方にわか恋やまむ

十 秋田之穂をまをけり田母遠之　下句在序ア

四 秋田之穂田乃刈ばか香縁相ば彼所も人の吾をことなさむ

八 秋田之穂立繁しく念ふ　上句在序ア

八 秋田早穂乃かつらしとあかねし　上句君か此葉と造れる

八 秋田かるかりいほも未壊は　下句在序ア　廬ア

十 秋田かるかり廬の宿　下句在廬ア

十 秋田かるかり廬を作吾居れは　下句在廬ア

十 秋田刈借廬作五百入為而　下句在廬ア

十 秋田刈客乃廬入尓しくれふり　下句同前

十 秋田刈苫手揺奈利白露ハ置穂田なしと告に来らし

十 秋田吾苅婆可能過去者　下句在序ア

八 秋田乃穂田をかりかる　下句同前

八 早田屋る稲（まゝ句し 在序ア）

七 石上振ゝ早田々わ雖不秀縄しに延上守つゝ将干（まゝ句し）

九 石上振乃早田乃穂よハ不出心中よ恋る此日

八 まろ蒔有早田ゝ穂立（下句在夢ア）

十 早田ハ烏刈霜ハ雖零（上句在巻ア 一本云二条本）

十 橘之守部乃首十乃門田早稲刈時過去不来とすとも

八 妹家ゝ門田をミむと打出来し情も知く照月夜かも

十 我門小禁田をミれハさほの内乃秋萩すゝき所念かも

十 田草引いも（まゝ句し 末句在巻ア 自第六手ニテ引 又トミ又田草トモ云）

十六 打田稗数多雖有（下句在夜ア 第九ア）

七 春日尚田立羸云哀若草ノ孀無云田立羸

七 住吉小田刈為子賤かも無し奴あれと妹か為私田刈れ（旋頭歌）

十 住吉之岸を田ハ墾蒔稲乃而及刈不相云も

八 然不有五百代小田を刈乱田廬よ居ハ京師所念（自安云第一句）

八 衣手小水渋付まてうへし田を引板よわはへまもれるくるし

八 佐保川之水手塞上而殖之田乎刈流早飯者獨奈流倍思（家持續）

ノ 右一首をあへしてしかり和歌一首と（わりつ行しと作もおりニ用ゆ）

九 ゑのをこそ赤裳泥塗而殖之田乎刈て将蔵倉無之濱

十五 しらの字之流田ハ〜まきすりまけにかれしてあれいはしや

十八 うへし田もまきしはたけも朝ことにしほれゆけハ（長歌）

十 為君山田之澤ゑぐつむと（下句在水ア）

十 足曳之山田佃子不秀とも縄谷小延よ守と知今

廿一 足ひきの山田守翁置蚊火之（下句在翁ア 火ア）

十三 百不足山田道をと（長歌 百不足山田道をとてうたし）

田

十四 あやしくのいまだれつくらふにさきすやらさ　下句在柳ア

十七 佐夜（广太）さやまたのをだのかたまちの甚目に　上句在山ア　甚目ハ基名なし

十四 小山田之苗代水乃中よどにして　上句在山ア

十二 小山田之鹿猪田禁如母之守すも（シシ タモル ゴト モラ）　上句霊合ハ相宿物乎（タマアヘ アヒネル モノヲ）　又云 ??まもるといふ??をつれはとと

又会云 ?田とハ一段ある田を云と云義ある田一段のかしらハ十六歩ある??十六の??よみとと

十 鶴鳴之一町間田井小五百入為而（タツカタ キユユル）　下句在為ア

十 釼後玉纏田井よいつまでかいもをあひみず家恋将居（タチノシリ タママクタヰ コヒヲラム）

十 春霞たなびく田居に廬付而秋田かるまで令思良久（苅左右）（オモハシムラク）

十九 朝霧のたなびく田為に鳴雁を　下句在為ア

十九 皇ハ神にし座ハ赤駒之腹ばふ田為を京師となしつ（ミヤコ）

十三 丹南備乃清三田屋乃垣津田乃（カミナミ キヨキミタヤ カキツ）　長歌仲集名寄在之　同歌云田のめくりの小垣ともうらしと

十四 いよりまたふいさいさ（夕）めつらし　上句在為ア　同歌云 深田に人の手をとりそてふと云々

十四 かミつけのをとれぬまりうかはらうも　下句在為ア　同歌云 をたのよりふし小田作ゆへし

十四 わかまちこれをよろ田によもりまいくら　下句在為ア　大人在地ア

十六 田廬乃もとに（タフセ）　上下句在為ア

十六 波羅門乃作有小田を喫烏（公）　下句在為ア

十八 さらみくの小田在山小食行ひと（ユカヌ）　長歌

十六 大浦田沼者不楽有哉（オホウラ タヌハ カナシクモアルヤ）　上句わらかちの春よしりよう志賀のあまの　大浦ハ名所田沼ハぬま田と

十九 羽振鳴志き新田山小ちし（ハブリナク）　上句在鳴ア　又会云 ?たらゆあし??云?ちのすしき空と

畠

十八 すつる田しきかしくるなしあさこふにあるへしりしゆく　長歌

海

一 海原はかまめ立立つ（ウナハラ）　長歌　かまめハかもめ

五 宇奈波良 うなはらのかきはゆくなねを　下句在冊ア

三　うな原（宇奈）の邊にも奥にも神つまりうしはきいます諸の大御神たち　長歌

六　海原之遠渡乎遊士（タハレヲ）之遊をみむとなつさひそこし

七　海原之道遠鴨（トホミカモ）月讀（ヨミ）　下句在月ア

十一　海原乃路尓乗哉（ノリテヤ）吾（ワカ）恋居（コヒヲラム）　下句在舟ア

十二　海原之奥津縄（ナハ）乗（ノリ）　在草ア

十四　うなはらのねやはらこすけ　下句在草ア

十五　海原にうきねせむ夜ハおきつかせ　下句在風ア

十五　うなはらをとほくわたりてとしふとも　上句在月ア

十五　海原を八十しまかくりきぬれとも　下句在京ア　かなしかれ同

十五　うなはらの（宇奈波良能）おきへにともしいさる火ハ　下句在火ア

十五　うなはらのやそしまのうへゆいもかあたり　上句在月ア

十五　うなはらをとほくわたりていまつるも　下句ハ（上）すかたにこそあかれ

廿　海原へとほくわたりてとしふとも　上句在浪ア　下句こらかむすへるひもとくなゆめ

廿　うなはらの（宇奈波良）へにもおきにもかきてたつ

廿　なにはにて海原ハしてゆきとの　長歌

廿　海原乃ゆたけき見つゝあしかちる　下句にはなにとしはへぬへくおもほゆ

廿　うなはら（宇奈）にきりたなひきてたつかねの　下句在鶴ア

廿　海原乃しらなみなかに志ま（？）へゆくい　長歌

廿　あをうなはらかせなみなひきゆくさくさ　下句つゝむことなくふねははやけん

廿　伊蘇（イソ）尓布理（ニフリ）宇乃波良（ウナハラ）みれは　上下句在磯ア　うなはらみれはしらなみの

一　渡津（ワタツ）海乃豊（トヨ）旗（ハタ）雲尓伊理（イリ）比祢之（ヒネシ）　下句在日月ア　雲ア

一　海底（ワタツミノ）奥津白浪立田山　下句在人倫ア　又云古歌ニハ海の底おきつ白波立田山　甚恒有和歌

四　海底（ワタツミノ）奥を深めてわかおもへる君にはあはむ年ハへぬとも

十一　海底（ワタツミノ）奥を深めて生る藻の

六 海底（ワタノソコ）奥津伊久利（イクリ）よ　長歌　在鰒ア

七 海之（ワタノ）底（ソコ）奥津白玉縁（ヨシ）を無三（ナミ）　下句在玉ア

七 海底（ワタノソコ）沉（シツク）白玉風吹而（テ）海ハ荒（アル）とも不取（トラス）不止（ヤマシ）

七 海底（ワタツミノ）奥（ツ）玉藻之名乗曽（ノリソノ）花　下句在名乗曽ア　旋頭哥

七 海底（ワタノ）奥在（ナル）玉手（ヲ）　上下句在玉ア

十二 海之（ウミノ）底奥ハ恐（カシコシ）礒廻（ワ）より　下句在礒ア

七 綿之（ワタノ）底奥之舟を於邊（ヘニ）よらむ　下句在浪ア

三 綿津海（ワタツミ）乃手ニ巻しける珠手次（タマテスキ）　長歌

七 方便（ワタツミノ）海之神の手ニ巻る海部（アマノ）未通女等（ヲトメラ）　わたつみハ龍神のよし　上句在垣ア

三 海若（ワタツミ）ハ霊寸（アヤシキ）物ヵ淡路嶋　長歌

三 海若之（ワタツミノ）奥ニ持行而　下句在奥ア

七 海神（ワタツミノ）持在（モタル）白玉見欲（ミマクホリ）　下句在玉ア　海人ア

七 海神（ノ）心不得（エテム）　上下句在海人ア

九 海若之（ワタツミノ）何神（イツレノ）を齋祈（タムケ）ハヽ往方（ユクサ）も来方（クサ）も舶早兼（フネノハヤケム）

九 海若之神之女（ムスメ）よ　長歌　うら嶋のこと也

九 海若神之宮乃内隔（ナカヘ）之　長歌

十二 海若之（ワタツウミノ）奥津玉藻之　在藻ア

十六 海若之奥ニ生たる縄乗（ナハノリ）乃　下句同前

十五 わたつみのかしこき道をやすくもなし　下句在浪ア

十五 わたつみのうみにいてたるしかま河　下句絶ん日にこそあかこひやまめ　あかハ我也

十五 わたつみのかしこき道を　上下句在玉ア

十五 わたつみのかしこき人もとしへはいさりつる　長歌

十五 わたつみのかしこき浦かへのわ　下句在浪ア

十五 わたつみの沖になはれさしのほる　長歌　龍神のおきさし

十五 まさご清きはまつしこゝらん 七卷

十六 海神之殿蓋よ 七卷

廿八 まさ川をわたりこゝへ小 七卷（龍田にて）

十九 まさつまのうへはみことを乃 七卷

二 鯨魚取海邊乎指而 七卷

二 鯨魚取海乎恐 長歌

三 いさなとり海路よいでゝ 長歌

十三 鯨名取海路よいでゝ 同

十三 不知魚取海道よいでゝ 同

十三 不知魚取海之濱邊よ 同

六 不知魚取海片就而 同

十六 鯨魚取海哉死為流山哉死為流死許曽海者潮干而山者枯すれ（かやうけてと云詞し）

三 眞木のたつ荒山中小海をなすかも 成 上句皇者神よし座ハ

三 彼山之堤有海乎 七卷 （山ハ富士海ハ石花海也）

三 越海之角麻乃濱徑 長歌

三 越海乃手結之浦を客として 下句在日本ア

十二 越懈乃子難懈乃鴨すゝくく小 上句まきさとゆよのことやらん

四 海山も隔莫くかたにかも目言をかくにし幾許乏寸

十二 雲居者海山越而伊往者雖為かはこしいもかねにいねとも

六 奥浪恐海小船ぢもせりみむ 上句あまをとめ玉求らし

十三 腫浪恐海乎直渡まむ 七卷 末句ゝ

六 海嬬嬬 此外海人ヲ海のつかさなどもいへり入海人部 不入此部 若うミつかとめともかもけし云事とり言ゝもこの義にも

六 海邊之海童女等之衆船見 上句あまりかよふ難波の宮ハ

六 朝波海邊よあさりし 次左望 下句在后ア

十五 君かゆく海邊乃宿にきりたゝハ 下句有霧ア

十七 すまひとの海邊つねさらすやくしほの 下句在戀ア

廿 うミ邊しわむゝへとこねかあふれつゝゆ称 上句在濱ア

十九 海邊より出立朝暮に 七句

六 稲見野乃大海乃原の荒妙ノ藤井乃浦に 七句

七 大海小嶋も不在に海原絶塔浪に立有白雲

七 大海よ荒莫吹志なかる 下句在湊ア

七 大海之水底豊三立浪之 下句在浪ア

七 大海之水底照之石著玉 下句在貝ア

七 大海之波ハ畏 下句在波ア

七 大海之礒本由須理立波之 下句在濱ア

七 大海ノ候水門事有いつらに君か吾率凌 濱ア

十 大海方往浪之千重積 上句春草之繁吾恋

十一 大海よ立らむ浪ハ 下句在浪ア

十一 大海之荒礒之渚鳥 下句在鳥ア

十二 大海之底を深めて結義しいもか心ハ疑もなし

十七 大海乃おくもしらすとゆくわれを 何時はきまさむとゝひしこらはも

廿 おほきうミ乃ミなそこふかくおもひつゝ 下句もひきならしすかハらのさと

七 天海よ雲之波立月船 下句在天月星雲ホア

七 大舟を荒海よ榜出八船多気 下句在舟ア

十五 大船乎安流美介いたしいま千君つゝむことなくはやかへりませ

七 風吹海ハ荒明日言應久君随

八 白浪乃高荒海を嶋傳 七句

十三 鳥しもの海小浮居而奥津浪 下句在浪ア

十三 鳥音之所聞海尓 万葉

七 あらむ花とわりの海に船をまて白雲ともし人に逢ひすかな

七 海之玉藻之憎ハ不有て （上句荒礒超浪ハ恐しかすかに）

七 海中尓鹿子ゾ鳴なるあはれ其水手

九 楽浪之平山風之海吹ハ釣為海人之袂変所見

九 海界をせ而榜行尓 万葉

九 海津路乃なきなむ時もわたらなむかく多つ波に船出すへしや

十三 浪之塞海道ハ不行 （上句在風ア）

十一 人事暫吾妹縄手引従海益深念 （下句在船ア）

十一 大船乃絃多経海尓重石下

十三 水門成海毛廣之 万葉

十三 海随然真有目人ハ充あり 万葉

十六 生死之二海乎厭見潮干乃山乎志のひつるかも

十八 海行ハみつくかはね 万葉

十九 藤なみの影なる海の底清み （下句在石ア 布勢水海ア也）

廿 はらふ尓乃うこのあさきはゆふにあかよろい （下句在行ア）

浦

（一巻浦さふらふとあらハ吉てさらしきこし二巻真浦照もと云ハゆかいとふいふ照 うらのかしこきと云も吉きのかしきに丈るしかれと何かるしきこしとも云へり入九 浦ハ裏の心しまきハをと云ふあらへし槌ハこうしのうしともし旅のう としあきのうらとも有也）

一 網の浦のあまをとめらかやく塩乃 万葉 （次句在塩ア）

（大云定也ま名所ハあみのうらに海人のあまをとめのみのかしとみへまふ有内 巻嗚呼見乃浦伊勢国名所也古歌にもかはらしと塩やくあまと見えたるに在人）

二 浦無と人こそみらめ 万葉 （潟なしと人）

二 よしゑやし浦ハ無とも 万葉 （前ノ一首中也）

十三 長谷之河ハ浦無ゆ依不来 万葉

十三 浦ハ無とも よしゑやし　（中界）辞榜入来白水郎之釣船　（廿一 前ノ一首ノ末）

四 いさりはまの浦箕辛而　（廿八 天会いつま 播磨国）

十二 紀方しの浦箕よ布浪し　下句在浪ア

十五 うらミこくらしくら比地とさこゆ　上句来かうらいさりするあまあそふらし

四 多奈和州浦吹風之止時無有　上句まし念人もてするふ（天会如くにとと 同書おほのと）

六 こゝろものへの浦の尽往隠　十前

六 浦をよこうへも釣ハ為　同

六 都太乃細江小浦隠寝　上句をらけハ浪のくむとりのかふ

六 濱さよの浦愛見神ぞしわ中船湊大和太乃濱

七 浦廻よい名告藻刈　十前

七 岸乃浦廻小行ましをとを　上句くやしくもみちぬ塩の墨ノ江之

七 石をく岸之浦廻小よせ浪　下句在浪ア

七 磯之浦廻よ乱而将有　上句すとの羽開ゐとア 今もかも（釣らいのらハ紀伊国ましけ前 摂津作之磯の辺とこ）

十二 浦廻榜能野舟隠めしく　下句さて故りまに日もあし

七 向舟汗待てし絶浦榜将會　（月前云吉野ハ出雲国と）

九 吉野川河浪高とめさ比浦をと不視か成つも恋布莫国

九 吾畳三重乃河原て磯裏　下句のハり跡もろくらいりて

十一 風不吹浦小浪立無名ともまた頁しも逢といふうしまよ

十四 こすさ呂乃うしあくもれめてをくろ　上句るしをころとおかいすま（月前あとをくハをとすへやにとえん）

十五 かこれわもいうしまこくしも　上句月のこのいりときまこと事布おつふ

十五 うしまよわこゝそてもくふも　中前

十五 うしまよわこゝさらしあ孫ぞ風ぞや　下句かろうとうふやうらうく

十五 うしまよわくらの坪とすりハあゝりさとしめし　上句在家ア

十五 たまいよりうしいろ契見つ　十前 おまいハとまくと

十五 うらうらく　上下句在塩ア

十九 浦ごとに廻(へ)りて年よ恋のため　上句家持これ花盛よ知(かくと)けられ

江

三 隠江(コモリエ)乃舟公宣奴嶋尓　上句三津ノ埼浪ヲ恐(カシコミ)

三 軽(カルノ)池之汭(イリエ)廻(メグレル)往轉留鴨尚(スラニ)尓　下句在鴨ア　旋頭分之

七 丸雪(アラレフル)遠江(トホツアフミ)吾跡川楊(アトカハヤナギ)　下句在柳ア　遠江国ア

十二 あしかもの(?)さわく入江乃白鷺乃　下句在鷺ア

十五 むこの浦乃いりえの渚鳥はくゝもる　下句在鳥ア

十七 あからとわかれとふ袮ハいつもえらく(延)　長哥

十七 わかもれよく鷹江ハ(乃)　長哥

十八 あさひらきいりえこくなるかちのおとの　下句つはらくにわきへしおもほゆ

河

早河　細谷川　大名なり也　紡ゝ　十つのめくり川なとも名所也

八雲御抄云河内とハ山中ある川に　タトへハ河上の流あるなし

一 河上乃湯都盤村ニ草むさす　下句在草ア

一 河上乃列々(ツラツラ)椿　在椿ア　或本歌よけこせ山乃列々椿や

四 河上の伊都藻(イツモノ)之花乃いつもいつも　下句在藻ア　又十巻ハ旋頭分在之

十一 河上よ洗(アラフ)若菜のなかれきていもか當(アタリ)乃瀬ふこそよらめ

十四（可波 萱） かハかミのねしろたかかや　下句在萱ア

一 山河のきよき河内(カウチ)と御心を吉野乃国乃　長哥

一 山川もよりて仕(依 奉)ふる神の御代かも　長哥の末句に　山も川もと

一 山川もよりてつかふる(因 奉)神なからたきつ河内に船出するかも　長哥

四 山河も隔(ヘタツ)なくに如是(カク)恋(ココ)しくは　五句情(こころ)はしれは如此も

六 山川乃清(サヤケクスメリ)ゝ　芳野宮にあり　長哥

六 山川乃吉(ヨシ)三　芳野ニあり　末句也　上句在山ア

六 山河乃清見(キヨクミエ)ハうへ志らるらし　上句造(ツクル)久介(クニ)乃王都(ミヤコ)ハ

七 山河之瀬之響なへに弓月（ユツキカタケニ）嶽高雲立渡（ワタル） 第一句足引之又ハ冬山河之則よ まへ句ハ在右葉ア

七 山川ニ吾馬難（ウマナツム）家恋らしも 上句在家ア

七 山川之瀧情乎（タキツコヽロヲ）塞（セカ）敢かつも 上句在山ア

十 雨ふれハ瀧都（タキツ）山川於石（イハニ）觸君か摧情（クタカムコヽロ）ハ不持（モタシ）

十二 山川之當都（タキツ）心塞（セキソカネタル）耐在 上句在衞ア

十二 山川之瀧よ益流恋すとも 上句同恋

十二 山川不知（シラス）来（キニケルモノヲ） 上句在山ア

十一 山河よ筌（ウヘ）をと伏而（フセテ） 下句在年ア 筌ア うつふせをしも古一遍同し ひとつよとそなし

十二 山川水陰ニ生山草（ヤマスケ） 下句在菅ア 古本同

十二 足檜木之山川水之音ニ不出（イテス） 下句在水ア

十九 足日木ノ山川阻（ヘタテ） 長哥

十五 いそのまゆみをかり山河の名にわかれてあした秋のときまけて

十五 やま河のきよき川せにあそへとも ならのみやこハわすれかねつも

十九 山川のとほみへたてゝやすけくもなし 一言かよひもおもへハいもなし 相かハ新ヶ思し

十七 山河のへなりてあれハ 長哥 又云山と川とへなりてはへたてアそ

十七 山河乃曽伎（ソキ）敝（ヘ）乎遠ミ 同安云[illegible]

十八 山河をひろみあつみとたてまつる御調寶（ミツキ）ハ 長哥

廿 山河をいはねさくみて[illegible] 長哥

廿 山河のさやけき見つゝ 上下句在山ア

一 船並（ナメ）て旦川わたり舟竟（フナキホヒ）夕河渡（ワタル）此川乃絶事（タエル）なく 長集 吉野ア

二 未渡（イマタワタラヌ）朝川わたる 上句人言を志け三こちたミ己世よ

三 朝川わたる 長哥 葛佐保河を

一 吾行（ワカユク）河乃川隈之八十阿不落（ヤソクマオチス）万段（ヨロツタヒ）顧為作（カヘリミシツヽ） 長哥 同集云河のくまゝを

一 盤床等（ト）川之氷凝冷夜乎息言無久（ヤムコトモナク）通作（カヨヒツヽ） 長哥 詳氷ア

一 上つ瀬に鴨川ちどり立　（古今 吉野川にあり）

十七 やすらもろとこはうらはなちりけり　（上句在粉ア、）

十九 うらはなさき情あくさむ　（上句異）

十九 鸕河立取さむおゆかむ志のちきは　（下句在能ア）

十九 鸕八頭のはきて河瀬のぼり行　（上句在粉ア）

二 羅道の川瀬道には不怜も　（上句在道ア）

三 河登保志呂之　（古今 又十七巻）（大会河をはしの白し 自安云河田のし）

三 秋夜は河し清之　（古今）

三 川よと不去立霧乃　（上句在霧ア おすの川にあり）

三 川のよに鵆なくなる山郷にして　（上句吉野余有夏實之河の）

三 妹も吾も清之河乃河岸之妹か可悔心は不持

（大会風俗をたてほめきよめて あまのかはらのゆき）（自安云ちのことそし）

三 河瀬には年魚小狭走　（古今 加波度）

九 ちらさかみきへれさとのはしをたに あゆここさんふかきとまちらそよ　（下句世にとらますたちよるとも）

十四 あきやまれるかはよりふあをまわと　（かるのは柳の月ちるとある 詳水ア）

十九 河と清くおすらはまちあり　（上下句在名所河ア）（十巻天漢川とまなり在七ノメア）

四 月夜吉河音清之率此間行も不去も遊而将帰

四 愛とふ吾念情速河之雖塞々も猶やくはなむ

四 早河之瀬に居鳥之縁をなみ念而有し吾兒ハも阿怜

七 早川の瀬には立とも人に将言やも　（上句水隠に気付きあまり）

十三 速川之往文不知　（古今）

十六 早川に洗濯　（古今 在小螺ア）（早川ハ八雲御抄并作集ノ名寄にも名所に…）

六 河速み瀬之声ぞ清き　（古今 芳野宮にあり）

七 河早不取来にける　（上下句在菅藤ア 又名所ア宇治川）

六 此河之絶事無久もゝしきの大宮人ハ常かよはむ（長歌末句に よしの川とし）

六 此河之絶ゆることなく（長歌）

七 此河乃絶者耳社（長歌 よしのよしの絶ゆとも思ひしと云のこと）

七 渉河白氣結瀧至（下句在端ア）

十 霧立わたり此川の瀬に（上句在七夕ア）

七 後此川船可行ありといへどもわたり瀬ことに守人あり

七 足結出濡此水之湍に（上句在端ア 杖ツ川トヨムリ）（足結ハ いかにきこし 又二哭ニ 石水名所也 在見ア）

九 乱而おもふし此川の瀬に（上句在七夕ア）

十 此川の行長もあらまし（長歌末句に）

十一 足川ノ瀬に敷浪布々に（下句在辰ア）

十一 是川ノ瀬ニ裳襴潤（上句早く我不相子故徒）

十二 此川ノ瀬ニ玉裳漬津（上句端ア）

十一 是川水阿和逆纒行水事不反思始為

十三 此河の絶ゆとも長ゝ汝情待（長歌）

十四 此河に朝菜あらふ児（下句在東ア 子ア）

六 清川原をみらくし惜しも（長歌末句 吉野川也）（きよき川原 在左方ア 佐保川よし）

六 清河原よ知鳥数鳴（上句烏玉之夜乃深去ハ久木生 吉野川也）

七 河豆鳴清川原を今日見而ハいつか越来而見なむ偲食（吉野也 此外略之）

六 河近ミ湍音ぞ清き（長歌 福麻呂歌ノ）

六 山高く川乃湍清し百世まで神さびゆかむ大宮所（福麻呂歌ニ）

六 山高河之瀬清し（長歌 前句ミうのりか久迩乃ミやこハ）

七 川之瀬毎開来ハ朝霧立（長歌）

七 其河ノ瀬ニ浪立勿湯目（上句山際よりあなしわきさ乃行ぬ人 或ハユメノ下云詞ト）

八 河瀬之鶴ハ不鳴とも吉（上句在七夕ア 鶴ア）

九 河瀬激手見ハ玉藻かも散乱而在川常鴨

十 河瀬をも踏夜の深去来　上句在渡ア　七夕ア

十 彦星ハ川瀬をわたる左小舟の得行而将泊河津石念

十七 ゆくかハのきよき川瀬ことに　古今

十八 かハ瀬よふさきをしのちり　上句ちりのまよひにまかへし

十九 このなきすさりをはるもかハゝ此瀬まうせ　上句在水ア

十九 河瀬尋情も亡のふかくちとりしも　上句在千鳥ア

十九 河瀬の霧へたちきていさよふあきの瀬かも　上句いものかちをた枕せん

六 瀧の河内ハみれよあかぬかも　上句在芳野

六 川次の立合卿と　古今　布留乃本こし

七 往川の過去人の手不折ハ　下句在擽ア

七 汀静鴛鴦　上下句在舊ア　川よまり

七 河遠不曝縫し吾下衣　上句橘のしほりの在之ハ

八 河向立意宜　古今

八 河有ハ附月滅結と夜更降に　上句妹許と吾去道乃

九 河副乃丘辺道よ昨日こそ　古今

十 河霧　在宮ア　七夕ア

十 秋風に河浪起　下句浪アノアリ

十 風吹而河浪起ヌ　下句同　七夕ア

十 蛙も鳴来河手浄　上句在石ア　蛙ア

十三 河上のいつもの清し　古今

十六 河千鳥　在江ア　在千鳥ア

十六 夕附日指哉河辺よ梅ハ落らし　下句在梅ア

十六 いろ麻もと謂河邊と和草　下句在草ア

十七 秋はよりしくちへかきくさきれ　下句在第ア

十七 秋風さむ山ミ乃可波(カハ)徳信尓　上句は続はいまこむとさうとし

廿四 いもすかつかふ河泊豆(カハヅ)乃さとらはをあるもしいとこことかくろよろちと

十六 川隅(ズミ)乃屎(クソ)鮒喫(フナハメル)有痛女奴(イタキメヤツコ)　上句在塔ア

十七 もろきるをとろりし河小流勿(ナカレナ)　上句在魚ア

十七 かはしもさふはいゆきとも　也有　皆非二字　さハ多し

十七 よろいふかいつきゆもいかりしるし父ハ　也分　末句こし

十九 河渚(ス)にし雪はふれれし宮乃うちよ　下句在鵆ア

サ（可波）うかんれは見乃さやけく　也有

澤　一巻四にし深よあれ六巻置りし沢にあれし沢ハ満宮し
五巻十三葉人さふミらて是も多くらてけれ外に在て詳詞ア

三 八十く湊よ鵠佐波(タツサハ)よ鳴く

三 日本(ヤマト)恋しく鶴佐波(タツサ)よ鳴く　上句在沼ア
沢上二首非澤大多し不分明

四 とミろへしさく澤小生ちものつミ　下句第ア

七 とミろへし生澤邑の真田葛(クズ)原　下句在女郎花ア　葛ア

十二 かきつはたさきさはに生ふる菅根の　下句在杜若ア　菅ア

十 君かため山田の澤よゑくつむと　下句在水ア

十一 隠處澤泉在石根(コモリツノサハイツミナルイハネモ)　下句在磐石ア

十一 隠津之澤立見尓有石根從毛(コモリツノサハタチミニナルイハネ)　下句在磐ア又詳水ア
一云沢ハおほしと云詞多く文字のよろし　為な加へけア

十一 河千鳥住沢上尓立霧之市白兼名相言始而者(スム ニ タツキリ イチシロケム イヒソメテ)

十九 黄葉澤蘭一株抜取(モミチセルサハアラヽキヒトモトヲヌキトリテ)　[illegible]　同し

沼
石垣沼は名所也八雲抄在所ア同抄云此非名所も沼しまく
集青山にとあり播磨風土記に集名寄に名所とし仍不分く

二 埴安(ハニヤス)乃池之堤之隠沼(コモリヌ)乃去方(ユクヘ)乎不知(シラニ)舎人(トネリ)者迷惑(マトフ)

九 隠沼(カクレヌ)乃下延(シタハヘ)置而(オキテ)打歎(ウチナゲキ)　也有

十一 隠沼從裏(シタニ)戀者(コフレハ)無乏(スベヲナミ)妹名告(イモガナツゲツ)忌物矣(ユユシキモノヲ)
イムテフ古

十一 隠沼乃下ニ恋ハ飽不足人ニ語ツ可忌物を

十二 絶沼之下ゆハ将恋市白く人の知へく歎せめやも

十二 隠沼乃下ニ恋わまり白浪之灼然出ハ人之可知

十一 かきつはた開沼之菅を笠ニ縫（下句在菅ア）

十三 小沼田之く（在田ア）

十四 いかほろにあまくもいつきかぬまつく（下句 [illegible]）（[illegible]）

十四 いさ此江ニ住つくれも此ねまつゝ（下句 [illegible]）（[illegible]）

十四 奴麻 ぬまふたつかよハとりかすあかこゝろ（下句在嶋ア）（ニノ沼ニ馬通ヲ云ニクメトフ）

十六 あちのすむすさのいりえのこもり沼乃（下句在莒ア）

十六 大浦田沼者不楽有哉（上句在田ア）（田沼ハ[illegible]）

十七 こもりぬ此きさ虹こいわまりきゝつゝ此（下句[illegible]）

十九 水鳥乃すたく水奴麻辛皇都となしつ（上句大王ハ神にし座セハ）

池

二 放鳥人目ニ恋而池ニ不潜（上句嶋宮勾乃池之）

二 嶋宮上池有放鳥（下句在嶋ア）（上池ハ勾池[illegible]）

三 松風ニ池浪立て（長歌）（或本歌）

三 年深池の瀲ニ水草生ニケリ（上句昔者之旧堤ハ）

四 鴨鳥之遊此池ニ木葉落而浮心吾おもはなくに

四 君之家乃池ニ住云鴨ニあらましを（上句在鴨ア）

四 よはなる乃潜池水情あらハ君ニ吾恋情示さ称（上句在攣ア）

七 池辺小槻下細竹なかりそね（細竹ア）（旋頭歌之）

八 池邊乃松之末葉ニふる雪ハ（下句在雪ア）

十一 水鳥乃鴨之住池之下樋無鬱悒君を今日見つるかも

十八 葦鶴之多集池水雖溢儲溝方ニ吾将越八方

十二 去方無三隠有小沼乃下思尓吾曽物念頃者之間

十三 垣津田乃池之堤之　長方

十四 あやま田乃いまはひつくふさすやうき（下句在之……集柳ア）

サ きみか家乃伊氣乃白なみ伊蘖によせ（下句しはしはみともあかむきみかも）

サ 伊氣美豆尓かけさへみえてさきにほふあしひの花をそてにこきれな

サ 伊蘖のかけのみゆる伊氣美豆てるまてにさけるあしひのちらまくをしも

泉

十一 隠處澤泉在石根通念吾意者　（或抄云サハニコモリクル水也）

湯

三 之國ハしもさハにあれとも嶋山の宜國と（右哥赤人至伊豫温泉作歌云々ハ詞サハ多し）

三 三湯之上乃樹村をみれハ（伊豫乃湯ニあり）

十四 あしからのとひのかふちにいつる湯のよにもたよらにころかいはなくに

井

（田井といふありハ井ハ在田中山井ハ名所ニ……井ハ驛使よ）

一 水こそハ常にあらめ御井之清水　長末　（藤原宮御井哥）

七 あしひ成栄し君か穿し井之石井之水ハ雖飲不飽かも

十 梓弓引津邊有莫告藻之　（下句在藻ア）（引津ハ廿作集名寄ニ津ノ名所ニアリ）

（大きなる引津といふ井の名に津といふハ水にかよふことをかよてはいきあふ……）

十九 寺井之於乃堅香子之花　（上句物部乃八十乃をとめらか汲乱）（寺井名所ニ入、兼廿作集名寄ニ云く）

瀦

十一 葦鴨之多集池水雖溢儲溝方尓吾将越八方

（訓へ字ハうけることハ水の池も人のいひまとひ……池のこゝろさまさりてけみわたるふみなふ……我思の海のさまをきこゆるゝ……）

瀧

（八雲御抄に河内ハ山中の水河とあるよし河の流ありとかきしめかし）

一 珠水激瀧之宮子之みやとあれとも　長歌なり　吉野にもありけるは借字

一 多藝津河内小船に遊すきも　上句山川もよりて奉る神なから　吉野よりありけ

六 落ち河内にしもあれとも　上句山高み白木綿花に落ちたきつ　芳野よりあり

六 たき川河内の大宮所　上句在河ア

六 清河内之　たきつ川の辺　上句毎年かくしもそしつみよしの

二 東乃多藝能御門に鑓司侍　上句昨日も今日も召言もなく　御門の落所し那有所

二 東乃大寸御門乎入不勝かも　上句在門ア

三 音之清左多藝通瀬毎に　上句小流破都道綿倉湯所

三 瀧上之三船乃山ふ居る雲乃　下句在雲ア　外瀧上乃御舟の山在なア

三 瀧上乃浅野之雉　長歌

九 瀧上之小椋嶺に　長歌　龍田山にあり

九 瀧上之桜花ハ　長歌　立田山にしも

十 瀧上乃馬酔之花乎置末ろきし　上句川津なく吉野河之

六 石走多藝千なからふ泊瀬河絶事無亦も来而見む

七 瀧至八信井上に事上不為友　上句世小川白気結

九 落多藝知流水之磐に觸れ　下句在月ア　磐ア

十 瀬を速み落たきちたる白浪に　下句在蛙ア　下句在浪ア

十一 高山之石本瀧千逝水之　下句在水ア

十九 安之比奇能山下響墮多藝知　長歌

六 落たきつ川瀬音も清之　長歌

七 おちたきつ川走井水之清けれは　下句去不勝かも

七 墮多藝都瀬を清と見に来之我を　上句御瀧川白木綿花

九 落多藝津夏身之川門に見とあれとも　上句山高み白木綿花

十 落沸速瀬渉（七句在七ツメア　六句ニもあり）

十七 おちたきつきよきふちにあさらすさくらまつり（廿六 瀧中宇治もあり）

十七 おちたきつ藝都のさくらいつはれぬともねこし（下句在石所ア）

六 從古人之言来流老人之變若云水乃名爾負瀧之瀬（長歌也）

六 瀧乃水沫（上ノ句在沫ア）（瀧ハ三吉野也）

七 打越来而曽瀧爾遊鶴（上句馬並而三芳野河乎欲見）

七 瀧情手塞敢かねつも（上句在川ア）

七 峯上之桜花ハ瀧之瀬ニ落墮而流（十五又）（廿一）

十 今往而聞物ニもか明日香川春雨ふりて瀧津瀬音乎

十 雨零ハ瀧都山川於石觸君之摧情ハ不持

十一 山川之當都心塞耐在（上句言出云忌々　自女云ゆゝしミハいもかと）

十二 山川之瀧ニ益流戀為とそ人知ニけり无間念ハ

十五 伊蘇乃麻由多藝都山河たえすあらハ（下句在ヒア）

十一 磯上立廻香瀧心哀何深目念始

十一 不相思故瀧も響動し（上句在阿ア）

（夜云こともしてたきもあられと梅かとかう瀬もあらまさりて恋はるかしくるらしぬきりもの）

十五 いくさくもふしね雨夜まくせこか三名の幾許瀧も動響ニ

十五 いちのはかなまつところかりて檐のつぬまとにけらくるまおもはし

十三 如神所聞瀧之白浪乃（上句在ヒア　鳴神のおとのみきゝしは）

十三 民渡乃たきのせのいたきを見つゝまてまたも来ね　廿六

津

九 海上之其津を指て君かこき帰ハ　七首

十 天河津（在七タア　河津ハ河門ノ事也）

十 得行而将泊河津しそ不念（上句在七タア）

十 秋風尓河浪起暫八十舟津三舟停

十三 家人乃まつらむ物を津れもなき荒磯を巻而偃有君かも

十三 納浪来よる濱尓津れもなき　下句在濱ア

十九 こきくる来而津尓泊まて　上句奥浪を渡ることきなくしらふみ

岸

一 岸之埴布尓にほはさましを　上句在總ア　此外まくらふ住吉之岸尓多あり在右所之岸ア

三 妹も吾も清之河の河岸之　下句在後ア

七 岸乃浦廻尓行まし物を　上句在浦ア　雲ノ江ノ岸ノ在名所ア

七 石そゝく岸之浦廻によする浪　下句在浪ア

七 静も岸ニハ波ハ縁まるか此屋通聞乍居ハ

七 過不勝ハ雉よるゆふ　上句在浪ア　雉ハ岸ノ借字

八 風雲ハ二岸よかよへとも　下句五遠嬬ノ一云波之嬬の事ソカヨハヌ

十 子等名尓闕之宜朝妻之片山木之尓霞たなひく

十 木志乃子松二三雪落来　上句足曳之山かも高巻向之

渕

石垣渕　廿之巻集名寄在之不審之仍今之
八雲御抄ニ石の廻のふちや

二 玉蜻磐垣渕之隠耳恋つゝあるに　長歌　カケロフノイハトツヽクル

十一 玉蜻石垣渕之隠庭伏以死汝名ハ不謂　廿ノ詳出ア

十一 石垣渕乃隠而在嬬　上句真澄鏡難見言哉玉限

十一 神名火打廻前乃石渕隠而耳やもり恋乍

三 淵とはあらすと瀬とあるとも　上句わか行ハ久にハあらし夢乃わたの

九 三川之渕瀬もおちず左提判に　下句衣手ぬれぬほす子ハなしに　三川ハ東坂本ニアリ　不落ハ不残也

十三 納潭もと枕小巻てうしもやくなしりつるハ　もか

廿三 納渾小あしくりまをまちふくとこもたまの人妻しるしも

十六 青渕小蛟龍とりてこむ剱乃太刀もか　上句虎小乗古屋の上越而

瀬

（谷前之川ノ瀬ニあまた多し　略し此ニ入ル）

一 上瀬ニ鵜川をと立下瀬ニ小網さしわたし 長歌 吉野川ニあり

二 上瀬ニ生玉藻ハ下瀬ニ流觸経 長歌 前句飛鳥明日香乃河

二 上瀬ニ石橋渡下瀬ニ打橋渡

九 天漢ノ上瀬ニ珠橋渡之下瀬ニ船浮居 長歌

十 上瀬ノ河津妻呼 下句在蛙ア

十三 泊瀬之河之上瀬ニ伊杭をうち下ッ瀬ニ真杭を格 長歌

十三 長谷之川之上瀬ニ鵜を八頭漬下瀬ニ鵜を八頭漬 長歌

十三 上瀬之年魚を令咋下ッ瀬之鮎を令咋 長歌 前ノ次ノ句し

十七 泉河乃かみつせにうち橋わたしよとせにはうき橋わたし 長歌

五 まつらかハかはのせひかりあゆつるとたゝせるいもかもすそぬれぬ

七 明日香川七瀬之不行ニ住鳥も 下句在鳥ア

十三 河瀬をと七瀬わたりてうらさふる 長歌

十 天漢八十瀬霧合 下句在七夕ア

十二 よしの河八十瀬わたりてゆく人のゆきしにこゝろ妻もあらなくに

十一 鴨川後瀬静後相 下句いもハ（自然ニ字ノ千年ハ未ノ瀬し）

四 早河之瀬ニ居鳥之縁をなミ念而有し吾児ハも可怜

七 早河之瀬ニハ立らし人ニ将逢言やも 上句在川ア水ア

十二 高瀬尓有能登瀬乃川之 下句在在石郷之川ア

二 纏通之川瀬道をしらハ不怜し 上句在道ア

三 音之清左多藝通瀬毎ニ 上句在浪ア

三 夢乃和太瀬ニハ不成而浅有毛 上るまかぬハ久のはかし

三 河瀬ニハ年魚小狭走 長歌

四 一瀬二波千遍障良比逝水之 下句在水ア

六 見渡ハ川之瀬毎開来ハ朝霧立夕去ハ川津鳴なへと 七卷 三芳野ニよめる

六 河速ミうつ聲そ清き 七卷 芳野ニよめる

六 布當乃宮ハ河近ミ瀬音そ清き 七卷

六 おちたきつ川瀬音も清し 同

六 山高く川の瀬清し 下句在川ア

十 山高ミ河之瀬清ミ 七卷 前句ミもろの〳〵久迩乃都ハ

十 清瀬ニ千鳥妻よひ くにうへの里ニよめる

十五 清瀬ノ音を聞し吉も 上句暮不去かはつなく三和河ニ

十五 やまかはのきよきかはせにあそへともならのみやこはわすれかねつも

十七 ゆくかはのきよき瀬ことにかゝりさし 十七卷

十七 [illegible]瀬ことに[illegible]てふ 上句在婦負河ア 同歌古本[illegible]てハ[illegible]

七 おちたきつ瀬を清ミ見に来し吾乎 上句在泊瀬ア

六 名に負瀬之瀬 上句之在瀬ア 水ア

九 瀬々瀬々おちてあらしの 七卷 瀬中し音ミ

十 春雨ふりて瀬津瀬音乎 上句在瀬ア

七 足引之山河之瀬之響なへ 下句在河ア

七 足結出所沾此水之湍之 上句湯種蒔荒木小田を求と 足結ハとくき

七 其河瀬之浪立分ゆめ 上句在河ア

十 河瀬を渉し穂をあるをふけ 上句在渡ア

七 [illegible]瀬列年へあるを 上句在河ア 七卷ア

八 河瀬之鶴ハなくそともと吉 上句在七卷ア 鶴ア 瀬よ鶴とあり乎

九 河瀬ノ激を見れハ玉藻かも 下句在河ア

八 山河之瀬之 上句之在万葉ア

九 [illegible]川瀬よ 上句之在河ア

十　芳立りくる泊川ノ瀬よ　下句在七夕ア

十一　是川ノ瀬ニ敷浪布ニ　下句在恋ア

十一　是川ノ瀬叢（ニモ）瀬潤（スリヌ）　下句在河ア

十一　泚川ノ瀬よ玉藻沾津（スソヒ）　下句よしゑやしぬきねえゆへ後

十　落瀬速瀬渡（シツチタキツハヤセワタリテ）　在七夕ア　七夕

十　瀬と速ミ落当知足白浪ニ　下句在恋ア

十一　安太ノ（アタノ）やからひりるまし瀬速意ハあまえと直あつねかも　蛙ア

十九　平瀬ニハ水鳥と瀬渉（シワタ）ニハ　七夕

十一　朝東風（コチ）ニ井堤越（テチコス）浪之世蝶（セテフ）くも不相見故瀬（アハヌモノユヘ）とりてゐて

（註ニ云オ三句古点ニハ色ニも出も有り私セて見てゆんもせて是まで奈語乃義ニ瀬ニよる今ハ未在瀬ア）

十一　河よる洗若菜之流来而妹之当（イモカアタリ）乃瀬ニこそよらめ　辻同

十二　倭路度瀬（ワタル）別手而吾恋（ワカコヒ）　上句かさきしこそ夢ニ見来

十三　川瀬之石迹渡（イハト）　下句夜ア馬アニアリ　石トハ宮ノカハ

十三　石瀬（イハヤ）踏求（フミ）ア吾来（ワカクル）恋ハ而為便（テスベ）なき　上句直不往此巨勢道から（タヽニコスコノコセチヤテ）

十四　ひろ瀬よ女ハもらくもたかいかうしまゐつまて　よるあちねのまふさうるを　自古奥サクチミハラチヒラリ心ナリ

十九　平瀬ニハさいさてはしまらし　七夕

十七　葦附（アシツキ）とるを瀬よあかいすらし　よる在あまア　名所ア

十七　かハ乃まへのの瀬あかをつるとも　上句在まア　名所山ア日ハア

十八　ころろ河さす吉野ぬたからの瀬まらし

十八　かハの瀬いとよさなさしのびる　上句在恋ア

十九　河瀬尋情（トノココロ）も吾ハ鳴ちとゐとも　上句在千鳥ア

十九　鶴（ウ）八頭（ヤツ）ハそて河瀬のつゝむ　上句在粭ア　鵜ア

廿九　河瀬よ芳ゐちをしさよ女まぬとも　上句いもゐ袖まれほすやらし

淀

三 明日香河川除藤不去立霧乃　下句在霧ア

七 明日香川七瀬之不行尓住鳥も　下句在浪ア

顕注ニ人云淵ともいふハ儀にしてせゝらきハ水のよとむといふもみえハ深くて浪なとも
なかれともいはすうつるかはハ淵とハいはすといふハかりてこそ瀬ともいふ[illegible]
淵のよとくいろハふかう[illegible]
せゝにとゝめてのとかなるらんや

三 川よとに鴨そ鳴なる山影にして　上句吉野尓有夏箕之河の

四 小山田の苗代水の中よとにして　上句在山ア　水ア

五 まつ川のせゝのよとみといはれともよとにもよとにはつまつらん

七 三芳野の大川よとを今日見つるかな　上句今敷ハ見めやと念し

七 氏河ハよと瀬無らしあしろ人舟召音越乞所聞

十一 言急ハ中ハよとまし水無河　下句在前之河ア　淵ノ字無之ヽ古本同

十一 恋乃よとめる吾情かも

十二 浣衣取替河之川余杼能不通牟心思兼都母

堤

二 はにやすの池の堤の隠沼乃　下句在沼ア

二 彭出之堤にたてる槻木の　七本

三 古昔之旧堤ハ年深池之瀲に水草生にけり

十三 垣津田乃池之堤之百不足　七本　次句在槻ア

十四 をやま田のいけのつゝみにさすやなき　下句在柳ア

十四 むろかやのつるのつゝみのなりぬかに　下句こゝろハ[illegible]

井堤　又云井堤とハ[illegible]　八雲御抄云[illegible]

七 井堤越浪之音之清久　上句泊瀬川なかるゝ水尾之湍乎早

十 朝井代に来鳴杲鳥汝たにも　下句在鳥ア

十一 朝東風に井堤越浪之世蝶毛　下句在淵ア

十一 玉藻苅井堤乃しからみ薄かも恋乃よとめる吾情かも

十四 いかほりれやさしれ此鴻（井手）よるゝ蛙ノ消息 下句在虹ア（のしは虹し）

二 鴻 おきつ鴻 あさ鴻 やましろ鴻は在国ア（奥津鴻は伊国よりよみ前し）

二 妹（イモ）らかしつ荒鴻廻（ワ）なと 上句在垣ア

二 鴻御門は恋さてましと 上句在門ア

二 旦日（アサ）てる鴻乃御門よおほほれ 下句在今

二 たち立（タチ）し鴻をみる時庭乃こと 下句在漆ア

二 たち立し鴻もとも家と行鳥（スム）も 上句在鳥ア

二 たち立し鴻の下座（シリイテ）をまちてつらし 上句在日ア

二 鴻御橋（ミ）よ名しれすりて 上句ほき此里へよみ下名へ

二 彼（シチ）此（コチ）ら鴻は雖（シホカト）多と 七言

三 舟（フ子）云（コクキミ）宣奴（カユノカノ）鴻と 上句在辰ア 江ア

三 鴻門（ト）とされは神代しる念 上句 大王（スメロキ）ノ遠（トホ）の朝庭とおもひかふ（スヘラキノ古点）

三 鴻傳（ツタヒ）敏（ミ）馬（メ）乃済をおき廻（タメ）は 下句在国ア大和

七 鴻傳足（アヒ）速（ハヤ）乃小舟風守（モリ） 下句在舟ア

八 鴻傳伊（イ）別（ワカレ）往（ニケ）は（前句在海ア 伴は發語し 別ゆきぬらし）

十三 鴻傳ふられとも名千すこしれ翻も歎（トロ）こ落ちし白浪 七言 まね句し

廿一 ミ麻（ヲ）傳ふは伴こそしらて 七言（伴は發語し）

廿 まこそせるり志まにゆふいゆく（上句たまきはるみことよりこと 日本云ニハ統くしうつ下を）

四 山跡（トチノ）道ら鴻乃浦廻（ワ）よよする浪 下句在浪ア

（やまとち乃鴻れつゝまて入云大和国ニ崇ようとわれはくおほく古の都はおほく大和ニおほとれは都へのおもてなる道をやまとちとらいて浪らかくうのりわたこの道をもそはやまとらのきいのこりまゆすること ゆらは浪くのうゆるとちんうるとあり）

五 奈良（遅）ちてち志浪乃こゝらしもいふなり 上句きここのゆきそうるね

六 鴻際より吾宅（ヤト）ともれは 七言

十七ハ麻ま 志浪まもこねもとしらずちやし 七言

六 嶋乃埼々隈（クマ）も不置（オカズ）憶（オモヒ）乎吾来（ワカコシ） 長哥

六 嶋之崎前後（サキヨリノチ）賜（公）将 長哥

六 嶋廻（アサリ）すり水鳥（ウ）よししめらく 上下句在柿ア

七 嶋廻すと後よりこし花 下句在緑ア 浪ア

六 嶋隠まつ榜（コギ）来（ク）ハ 下句在舟ア

六 嶋待（マツ）よ立ちて付（ツケ）む好（ヨキ）人ま欲（ホシ）得（ナ） 上句うら哀しきもの 待ハ松ノ借字也

六 春去ハをとつあふをとり鶯鳴吾（ナリワカ）嶋乎不息（ヤスマズ）通（カヨハセ）為

六 八嶋之中小国ハしも多（オホク）あれとも 長哥

七 百船之泊停（ハツルトマリ）と八嶋国百船純（ヒト）乃 長哥

七 今年去新（ニヰ）嶋守（サキモリ）之麻衣肩（カタ）乃間（ニ）乱（ヨヒ）ハ許誰（タレカ）取見（トリミム）

サ 嶋守（サキモリ）よまかるをもちくは 嶋イ本同 長哥

七 大海よ嶋も不在（アラナク）よ海原 下句在海ア 浪ア

七 雑（イツレ）嶋之白水郎ヵ苅らむ 上句わさアトすし[illegible]みなもの

七 伊勢海之白水郎之嶋津ヵ鰒玉 下句在緑ア 大嶋津とハ海人之東人 [illegible]

七 百傳（モヽツタフヤツ）八十之嶋廻（ワ）乎榜（コク）船小 下句乗ぬし情思ふ[illegible]

九 百傳（ツテノ）八十之嶋廻乎榜（コギ）雖来（クレド）粟小嶋ハ見れと不足（アカヌ）かも

十三 近江之海泊八十あり八十嶋之嶋之埼さ起 長哥

十五 海原もとやすし旅ヵくるきねねしもかも 下句あるあけ我をこふらまれはいかに[illegible]

十五 うなれつくやまと恋しき旅のうへゆいもをあさあらし 上句在月ア

サ やまとまてもきつてましかのしゆしいゆかふ 上句も[illegible]

（やまと嶋ハ八字也 [illegible] 新云近作 [illegible]）

九 嶋隠（ワカ）吾船将極（ハテム）留不知（トマリシラズ）も 上句照月珠雲莫隠（ナカクシソ）

十五 いくしもれつつ志まてけよ伊保利すらむも 上句在虫ア 大云いハ家[illegible]

サ 之麻ヵ三芽のまつあ[illegible]てし[illegible]ゐ人 下句[illegible]ゆん

サ 之麻加枳(カキツ)ハ辛こ紀ありまつの名つまあかさとて　上句ありつゝのハすれと　抄に出ありきハ出まほし

九 嶋山を射往廻(イユキモトホル)流　長歌　大十九嶋ノ山ノヤウテ

十九 嶋山のかゝる橘　長歌　同巻[illegible]

十九 嶋山尓照在橘うすにさし　下句在橘ア

十 嶋之榛原秋不立とも　上句在萩ア

十一 牛窓之浪乃塩左井嶋響(トヨム)　浪ア　下句在塩ア

十一 白波之来縁(ヨスル)嶋の荒礒にも有申(アラマシ)物を恋つゝあらすハ

十二 玉緒之嶋意哉(シマコヽロニヤ)年月乃行易(カハルマテ)及妹(イモ)にあはさらむ

十二 子ニ難(ナゴノウミ)乃嶋のうつゝに　上句在海ア

十二 八十梶懸(カチカケ)嶋隠去(カクレナ)ハ我妹子かとまれと振(フラム)袖不所見かも

十五 わつゝもさゝや出まくらねか　上句にもやしほまてこゆるかな

十五 わかせことあしもして出まかくれかね　上句在浪ア

十四 もゝ沢出波かしとる[illegible]　下句在舟ア

十五 つ遠乃出まかいまかせはまし　上句大伴の御津にふなのり紀以て

十五 出まのむろの木をみれかわかりん　上句在木ア

十五 いそかねのわかれさ出まの[illegible]に剣[illegible]すゝ　長歌

十九 荒嶋礒(イハホ)に殖有(ウヘタル)なてしこハ　下句在瞿麦ア　同巻赤人名寄云非[illegible]

サ まかのこるてやしてきもおほかたさらのかにしゆら出まやらうかにふ　嶋麻

サ 春霞之麻生(ヘ)にかゝる　長歌

サ とらむ[illegible]みかこ乃出波(之麻)してもかゝる[illegible]

二 礒　八雲御抄云海河湖いつれにもある也[illegible]

二 和多豆(ニキタツ)乃荒礒乃上尓香(カ)青生玉藻息(オキ)津藻　長歌

二 荒礒もとより玉藻ハ生る　長歌

二 礒之浦廻(ウラヘ)尓生ふつゝしもと　上句在躑躅ア

三 礒上ノ小根蔓室木ミし人をと　上句在木ア

七 礒上よ爪木折焼為汝等　下句在具ア　爪木ア玉ア

十一 礒上ニ立廻香瀧心哀　下句在瀧ア

十二 礒上ニ生小松ノ名情　下句在松ア

十九 礒上のつまゝを見れハ根を延而　下句在木ア

四 家乃嶋荒礒之うへ不知ちしき　長哥　此句在家ア　ナノリソ

十三 荒礒ニ寄よ濱菜つむ　長哥

十三 荒礒ニ上之小浪　上下句在浪ア　同

二 御立せし嶋の荒礒を今ミれハ不生有之草生尓けるかも

二 狭岑之嶋の荒礒面よ廬作而見れハ　長哥

二 奥波来よる荒礒を色妙乃　下句枕と巻てなせる君かも

三 礒前榜手廻行ハ近江海　下句在海ア

六 芦かちるミ乃五十開廻有後香れ濱　長哥

六 礒乃埼ゝ荒浪ノ　長哥

十三 礒埼許奴義乃浦よ　上下句在名所ア

十九 さしよらむ礒乃埼ゝ　長哥

三 小浪礒越道有能登瀬河　下句在瀬ア

七 越礒波之敷布可念　上句夏小耳継而所見小竹湊く

七 荒礒越浪乎恐見　下句在浪ア

七 荒礒越浪ハ恐然すりよ海の玉藻の憎ハ不有て

十二 荒礒越外往波乃外心　下句在浪ア

十二 礒越浪小ねまねむかも　上句在埼ア

三 義沙居石轉よ生名乗藻乃　下句在藻ア

三 義沙居荒礒よ生名乗藻乃　下句同　或本月本ゝ　式本ゝゝ

十一 水沙兒居奥麁礒によする浪 下句在浪ア 奥つ礒よる例

十二 三佐呉集荒礒ニ生ふるなのりその 下句在菜ア

三 礒廻すりつゝも 末句に在舟ア

七 鳴廻すと礒よそらし花風吹て 下句在浪ア 菜ア

七 求食爲し礒ニすむ鶴暁去ハ 下句在浪ア 鶴ア

三 淡路嶋礒隠居而 長歌

六 見るもハ近海ニ石隠ニくもよ珠とて取敢不足

三 礒之草根乃干まく惜も 上句所念しをめの若子乃伊

七 塩満ハ入流礒之草有哉見良久少恋良久乃太寸

三 鞆浦之礒之室木こし毎 上句在木ア

七 飽浦清荒礒を見よ来りしと 上句網引乃海みとや見らむ

七 紫之名高浦乃名告藻之礒ニ靡時待吾乎

四 三埼廻之荒礒よよする五百重浪 下句在浪ア

四 伊勢海之礒も動よよする浪 下句同前

六 奥嶋荒礒之玉藻潮干満伊隠去ハ所念むかも テノ字無点

七 礒之浦廻ニ乱而あらむ 上句ちゝこのうちのあさけ此ころ今日もかて [illegible]紀伊國 無帝ハ持統作ニ只礒の廻とも

九 吾疊三重乃河原之礒裏よ和是鴨と鳴河蝦かも 川ニ礒 上句

七 礒よ吾見し莫告藻を 上句有鴨ア 莫告藻ア

七 礒人 在海人ア

七 よゝむしとおもふへ得ホ礒の清さ 上句在浪ア

七 自荒礒も益而おもつや玉之浦ニ離小嶋夢よし見

七 濱清と礒よ吾居ハ見者白水郎とかみらむ釣もせなくよ

七 神前荒石も見ゝ浪立ぬ 下句いつこゆゆかむよき道なしに

七 礒立奥邊を見ハ海藻苅舟 上句在鴨ア 海人ア

七 塩早（ハヤ）ミ礒廻（ワ）ニ居ハ入潮為（カツキスル）海人とや見らむたひゆくわれを

十二 荒礒廻（ワ）よりよる[illegible]ハぬれまても[illegible]（上句[illegible]錦[illegible]）

十二 礒廻（ワ）より水手（コギ）運（メグリ）[illegible]かもなくとも 上句在海部

七 大海之礒本（モト）由（ユ）須理（スリ）立波之 下句在濱部

七 遠近（ヲチコチ）ノ礒中在（ナル）白玉ニ人ニ不知（シラセ）テ見（ミル）縁（ヨシモ）鴨（カモ）

七 奥（オキツ）浪よする荒礒ニ名告藻ハ 下句在名告藻部

九 黄葉（モミチバ）ノ過去（スギユク）子等（コラト）携（タヅサハリ）遊（アソビ）礒麻（イソマ）見（ミレ）ハ悲（カナシ）も

十五 伊蘇乃麻由たきつ山河たえすあらは 下句在河部

十七 きよきいそまによする浪見に 上句馬部 いさうちゆかなしふたにの（イソノ上右七若又イハ[illegible]）

十七 白浪乃よするいそまを漕く船の 下句在舟部

九 塩氣（ケ）立（タツ）荒（アラ）礒ニハ雖在（アレド）往（ユク）水之 下句在水部

十 荒礒[illegible]て寐[illegible]君待難 上句在[illegible]部

十一 白檀（マユミ）石邊（イソヘ）ノ山常石（トキハ）有（ナル）命（イノチ）哉（ナレヤ）戀（コヒ）乍（ツツ）居（ヲラム） 二石古本 同じ

十一 白浪ノ来縁（ヨスル）嶋乃荒礒ニも有申（アラマシ）物を戀つゝあらすハ

十二 しかのあまの礒にかりほすなのりその 下句在藻部

十二 [illegible]荒道（チノ）ニ荒礒乃玉藻苅ニも君か久待[illegible]

十三 礒[illegible]あまの釣をたゝし礒ハ[illegible]も[illegible]榜入舟あまの釣舟 上句長谷川ニ[illegible]

十三 さゝれ浪浮てなかるゝ長谷川よるへき礒のなきかさふしさ 上句[illegible]

十三 礒榜廻（コギタミ）行（ユキ）[illegible]

十三 荒礒と[illegible]偃（フセ）有（ル）君を 上句在濱部

十四 安里蘇夜 わりそやにおふるたまものうちなひき 上句在藻部

（諸人云ありそやといふハありそべのことかありそのなきハ[illegible]塩乃[illegible]）

十八 ありそみのかゝりてあらすにかきりの[illegible]

十九 [illegible] 上句在[illegible]部

サ　波豪利藻

十五　さなりそのさきをとをみなれて ゆかへるさ　上句在名所部 なのりそのさきはなれし磯と

十五　さましゐかへしつゝ 鞆見つ（出家） たすけいはまらへと

十七　伊藻　いさこぞりわかれつゝ船をそぶ行けり我船そそいかつかきる

サ　伊藻不布獲宇乃波良ちりてちるをたそて　清名… 前ハ…

サ　伊藻麻都触つ孫よいまさ孫　上句在和部

サ　しほともあれは伊藻もちもあやうくも　上句… 於清慶宅宴歌十首中 此海邊…

サ　きよみかけのいまもみちてうさ伊藻よもや　下句出… 前之十二首中… 同哥云水邊…

サ　伊藻純宇良にかくつ孫しいさすむ さかゆく此　下句在…部　前之十首中

サ　伊藻可氣乃ころのつきのいて…　下句在池部

埼

万葉 … 此埼ハ山迫… 名寄 … 在磯部

三　去左（ユクサ）にハ二吾こうし此埼を独過ハ情悲も

四　三埼廻（ミサキワ）之荒磯よするか五百重浪　下句在浪部

六　走あまの五十（イツ）埼廻（サキメグリ）有（ニ）住吉浜　七巻

六　浪乃埼々限も不置（シカス）　七巻

六　浪之埼荒後（サキヨリ）霧将磯乃埼荒浪　七巻

十一　神名火打廻前（ウチミラ サキ）乃石瀬（イハフチ）　下句在瀬部

十二　室之浦之瀬門（セト）之埼有鳴嶋之　同在… 瀬戸ノ…

十三　浪之埼さ…てつ…と　七巻 前句在…

十九　さ…磯乃埼々　七巻

サ　さくの佐佐伊多年流其等尓　七巻 別ノ埼ニ廻て

潟

二　潟無（カタナミ）と人こそ見らめ　長哥 一云 …

二　よしゑやし潟ハ無（ナク）とも　長哥 一云 前ノ一首中

四　…の塩干乃潟之汗念…遣之永年…

六 若浦(ワカノウラ)よ塩満来(ク)ハ潟を無(ナ)ミ葦邊をさしてたつ鳴わたる

六 妹よ恋吾(ワカ)乃松原見渡(ワタセ)ハ潮干乃潟よたつなきわたる

七 塩干(ヒレ)ハ共(トモ)潟よ出てなく鶴(タツノ)・ 下句在鶴ア

十五 むこのうらのしほひのかたよたつか声すも 上句在浦ア

十七 みなとのすとりあさなきに潟(カタ)にあさりし 鶴ア 長哥

濵

一 白浪乃濵松之枝(カエ)乃手向草 下句在年ア世ア 草ア松ア ・或人云、之ハ白詞まハまハ松ノ詞 濵と云に白ぬくうりと云心あり

九 白なての濵松之木乃手酬草 下句在年ア世ア 草ア松ア ・前ノ句ノ弁し

三 濵松之上小雲とたなひく 上句在昨ア

二 浪音(ト)乃しけき濵邊をしきたへ乃枕小為而(ナシテ) 長哥

三 海人之釣船濵眷奴(ニカヘリヌ) 上句在浪ア

三 濵裹(ツト)乞(コハ)ハ何と示(シメサム) 上句在塩ア 藻ア

三 濵風よいもかむすひし紐吹返(カヘス) 上句 粟道(アハミチ)の野島か崎(サキ)乃

七 濵風之も自書(ヨカ)晩毛(ヨフモ) 上句在浪ア

四 神風之伊勢乃濵荻折伏(ヲリフセテ)客(タヒ)宿也(ネヤ)将為(スラム)荒(アラキ)濵邊尓(ニ) 荻ア

四 八百日(ヤホカ)徃(ユク)濵之沙(ニサゴ)毛吾恋よ豈不益(ニサラス)歟奥(ツ)嶋守

六 鯨魚取(イサナトリ)濵邊を清ミうちなひき生玉藻よ 長哥

六 濵を吉美(ヨミ)諾(ウヘ)し塩焼(ヤク) 長哥 藤井乃うらとよめり

六 浦浪(ミナミ)も知し清白濵 長哥 方の浦よめり 白濵ハ名所なれと

六 百世歴而(ヘテ)所偲(シノハレ)将往(ユカム)清(キ)白濵 長哥 長哥まゐひし ゐまきのうらのよめり

十一 あらそへ乃白濵浪乃よらもあへて 下句在浪ア

六 玉拾(ヒロフ)濵邊を近ミ 長哥 朝波ふるよめり

六 百船之可往(ユクヘキ)濵有(ナラ)らく小 上句真十(ソ)鏡みぬめのうらハ

六 白沙(シラマサコ)清(キ)濵部ハ去還(ユキカヘリ)ミれとあかす 長哥 みぬめのうらによめり

六 赤裳すそ引清濱備乎 上句丈夫ハみかりにたゝしをとめらハ

六 濱きよみ浦愛見神世より千船ノ湊大和太乃濱

七 濱清ミ伊往変良比見とわかぬかも 上句若狭在三方之海之 伊ハ発語也

七 濱清ミ磯よ吾居ハ見者白水郎とかみらむ釣も不為よ

七 風吹ハ来依留濱をミれハ浄しも 上句住吉ノ奥津白浪

七 大海之礒本由須理立波之よらむと思へる濱之浄奚久

九 濱もせに後奈居而 長歌 蹲もせの歎し

十一 わかせこか濱行風いや急よ 下句急事益不相有

十一 珍海濱邊ノ小松根深 下句在松部

十二 浪間より所見小嶋之濱久木 下句在樹部

十三 奥浪来因濱邊をくれ〳〵と 長歌

十三 濱菜摘 長歌

十三 木国之濱因云蝮珠 長歌

十三 不知魚取海之濱邊小浦も無所ありとも人ハ 長歌

十三 數浪乃よする濱邊ニ高山を 長歌

十三 納浪よる濱の津ゆきもかへらし君か家道をとし

十四 まの清しり 在島部

十五 波麻備 まのいわかうらいはやへつ 長歌 まちしいハ濱邊し 行在山部

十五 あまさよ紀のわかのうらにやよりのぬきし 上句在舟部

十七 はきて見ゆこむさよ紀のあのちと 波麻備 上句まてしまのあまのとまやのあはれしも 名所部

十八 波菊 まつ〳〵よりありうらゆえとかうかミへわ 下句在海部

十九 濱津久白波さき〳〵 長歌 布勢海よめり

廿九 濱小月夜あきても馬止まし濱よ 上句まてつかまて

十九 松影乃清濱邊小玉敷ハ君よもさし清濱邊よ

サ（波麻）[illegible]ゆかいて海原こゆ　万葉

サ　[illegible]すまおちすまきき（波麻）よつまし浦は　下句[illegible]

サ（波麻）なみかそはいやちかくよめくよすかと　下句在濱ア

湊

二　次来中乃水門従船浮而　万葉

三　湊風さむくふくらしも津手此端ハも　下句在鶴ア

七　近江海八十之湊よ鵠さハになく　下句在鵠ア　（やそ此湊ハ在名所ア[illegible]）

七　近江之海湊ハ八十何よか君之舟泊草結兼

六　千船乃泊大和太乃濱　下句在浦ア　濱ア

七　大海之候水門事有　下句在海ア

七　水門葦末葉誰手折吾背子振手見我手折　旋頭哥し

九　水門入ゝ船こくこく帰りくし　長哥　無常ニ云

十三　水門成海も廣し　長哥

七　湊より過暮鍾時ハ可放鬼ノ　下句[illegible]

九　浪音乃さわく湊之奥津城ハ　長哥

十一　湊入之葦別小船障多ミ　下句在船ア

十二　潮将よ満来塩けし　下句在塩ア

十四（美奈刀）みなとのやあしかなかなるたまこすけ　下句在菅ア

十七日　みなとのもとり　長哥

十七日　みなとゝいふはつかさぬかと　長哥

十七日　みなとゝせさいかしゆくしなとの江ゝ　下句在鶴

泊

一　船泊すらし　在船ア

二　大船の泊つるとまりのたゆたひに　下句在人偏立子ア

二 大御船泊しとまりに標結ましを　上句如是有乃豫知せハ

三 わか船ハ枚乃湖よこき将泊　下句在奥ア

三 阿波乃山懸而榜舟泊不知も　上句如眉云見ゆる

六 百船之泊停と八嶋國　長歌

六 千船浹大和太乃濱　上句在前ア　濱ア

七 君ら之舟泊草結兼　上句在濱ア

七 かかの湖よ舟泊左右手　上句在海ア

七 吾船将泊停不知も　上句大葉山霞蒙さ夜ふけて

七 呼之舟人泊きむかも　上句在舟ア

九 まろ舟ハあさしの潮よ出き泊い泊も　下句在奥ア

九 まろ船将栖留不知も　上句在海ア

九 吾舟将泊（芽子万里）とまり不知も　上句在家ア　舟ア

十 得行而将泊河津よ立りふ　上句在七夕ア

十三 近江之海泊八十あり　長歌

十五 多いゆくふ称れまりつ宿むふ　上句あちゆふとりの[illegible]　[illegible]

十九 つきこそも泊こ小菅風　長歌

十九 こゝころ東亭津よ泊まて　上句在津ア

渡　十九巻明日香河川ゝとき[illegible]渡のんし八雲御抄在渡ア　又天漢河門と多よあり今七夕ア或抄云川ハ道のあり所と云ゝ

一 渡中小幣取向而早乙つこ称　上句在根良對馬乃渡　對馬渡ハ長歌と　此外諸長歌

三 芳乃和太濡者不歳而　上下句在倒ア　自然云吉野内長歌也又寄のうらうり　雲のさき[illegible]

六 海原ら遠渡手　下句在海ア

六 狛山小鳴霍公鳥泉河渡乎遠見此間よ不通　云渡遠哉不通者哉

十 天漢去歳渡ハ遷閑ハ　上句在海ア　渡もり

十 天河遠度ハ無とも　下句在七夕ア段　古点

十 天漢女の川原乃有通出て乃渡ニ　廿巻（目安云ア一ノメノ渡し）（卅外天河ニ入七メア）
十 渡守船もこせ乎と呼音ニ　下句在七メア（人倫ア）
十 渡守舟早こそ　在七メア
十 渡守舟出為将出　下句在七メア
十 渡守舟将借やも須臾ハ有待　右もうかくせりし梓つくて
十二 見度近渡手廻今哉来座意而
十三 神々渡乃敷浪の　十七巻

せと（八雲御抄在浪中）

六 隼人の湍門乃磐も年魚走芳野之瀧ニ尚及ずきけり
（目安云さる人ハ武士のいやく　さこしとしとふらし云人）
十二 室之浦之湍門之埼有鳴鶴之磯越浪にぬれまぬれもいまも

渚

一 此渚埼ニ多津鳴べしや　上句在鶴ア
六 奥渚ニ鳴なる多つの暁之声　右同宗
六 納渚ニハ千鳥妻呼　廿巻（難波こし）
七 圓方之湊之渚鳥浪立也　下句在鳥ア（卅外渚鳥在鳥ア）
七 奥津洲ニ鳴ハすなれど君ハ音もせぬ人　上句夏麻引海上潟乃
十一 水沙児居渚座船之夕塩乎　下句在塩ア
十三 三沙呉居渚ニ居舟之榜出去ハ　下句在舟ア
十三 此床乃比師とよりもて嘆けれども　（長歌末句こ云海中の洲をひしとにく　考のなた濁）（末巻目安云同）
十四 なみちふられもいろかあのもとよれとのひもはなれすてきこゆらしかも　（比目）
十四 あかつきのかんかふるおもかなる川渚ニ粉いてもいさまよきけるかり　（左右仕出ア　公峯に）
十九 河渚ニも雪ハふりつゝし宮乃裏ニちどり鳴らしとふきやなく

汀

三 池之瀲し水草生ふりり　（上句在池ア　堤ア）

六 奥潟清波瀲尓風吹ハ白浪さわけ　（長哥）

七 大御舟竟而佐守布高湾之三尾勝野之奈伎左し念

十三 清瀲よあさりき小来し深海松　（長哥）（此浦廻室のなにおもと）

十五 ゆきまうきりきしりなきさにはえてあはすまゆくくさまよい

十七 なきさにはあらむちさせ和　（長哥）

都乃久尓乃うミ汁奈伎佐尓あかまよろし　（下句ゟ付ても）

奥

（おけり鳴ハ　名所し異そく）

一 玉藻ゟ奥へハ不榜あきなく　（下句在鴨ア）

七 藻ゟ舟奥榜来らしいもか鳴　（下句在鶴ア）

二 奥放而榜来船　（長哥）（前句在辺ア）

三 奥よ榜乃ら　（末句し在舟ア）

六 小舩乃条所奥部榜所見　（上句在海ハア）

十一 近江海奥榜船重下蔵公之事待吾序

十一 庭浄奥方榜出海舟乃　（下句在舟ア梶ア）（庭浄字と）

一 海底奥津白浪立田山　（詳海ア　下句在人偏ア　イモ）

四 海底奥を深めてしるせの人ハ君ハあらむも年ハへぬとも

十一 海底奥を深めて生藻之　（下句在藻ア）

五 もミ汁すとあそ川ありミと　（中哥）

六 海底奥津乎久利よ　（長哥）（次句在貝ア　アヒ）

七 海底奥玉藻之　（下句在藻ア）

七 綿之底奥之舟を於辺過よもしもてふねの波高立而

十二 海之底奥ハ恐礒廻より　（下句在礒ア）

七 海之底奥津白玉　（下句在玉ア）

七 海底（ワタノ）奥在（ナル）玉手（シ）　上句在玉ア

七 しら潜来之（カツシコシ）奥津白玉　上句在緑ア　風木ア玉ア

十九 まゝしつ我おもふ川白玉　上句在玉ア

十九 多来我しめおもふ川共つゝ多来よ　下句白袮

二 奥津藻　七首　世以岩数在藻ア

二 奥つしハあしとね浪ゝりら　長哥

三 なか我痰（イメニ）奥津白浪高（タカヽラミ）〻

七 奥津波部（ヘツ）都藻まねしも

九 いもうためましも玉拾（ヒロフ）奥邊（ヘ）有玉もちてこ奥津白浪（梢木）

九 いもうためよしも玉求（モトム）おもうへ（ナ）有白玉よもまあ（コ）かうつ白浪（蘇奥津浪 墨書浪ア）

三 奥邊（ヘ）ハ鴨妻（メ）喚（ヨハヒテ）　七首

三 奥部（ヘ）莫（ナ）避（ユキソ）友夜深（フケニ）去来（ケリ）　上句在沙ア

三 海若（ワタツミノ）之奥尓持（モチ）行而雖放（ハナツトモ）　下句うれむそこれか将死還生（シニカヘリイカム）

式娘子等贈裹乾鰒戯請通観僧之咒願時通観作哥し

記ニ会らしの奥にこそるともやそのから死入りいかへるとて思へまそうるひとつらし

三 吉野川奥（オキ）にかうさふ　上句ハ吉野河の出雲も竹の実ハ　吉野川ニ奥ニらかり

十九 かるの川かさふもすゝも　廿首

十五 あまのつりしいかるのうさぬ　上句…ハ月ゝもハいうるよ侍る

四 奥へ往（ユキ）邊（ヘニ）去（ユキ）いまやいもうまぜめ　下句有新ア

七 奥よ邊て縁（ヨスル）白浪見つゝ（ツヽ）将思（オモハム）　上句墨吉之岸よ家もか

七 邊よも奥よも依勝（ヨリカタ）ましを

七 奥よ酒（サケ）嘗（ナメ）より邊着（ツカク）経し可放異ゝ（時）　才句殊放（コトサケ）ハ酒ハ船字之　殺心之意之在ア

十二 白浪乃邊よも奥よもましとなりしよ　上句在浪ア

十七 わきへうる邊ハうるもわい　七首

五 かるもし我邊へりも奥よも神まくわ　廿首　つまア乙ハあ浪ゆるし

五 おきつなみへしくあらきを 意吉 上 下句在冊ア

六 奥部ゝい深海松つゝ 廿有

六 奥渚ゝ鳴なる多川乃暁之聲 上句在鶴ア

七 奥津洲ゝ鳥ハすたけと 上句在浦ア

十一 奥くすむ鴨ゝ浮宿ゝ 上下句在鴨ア

十四 おきにまうも北 上下句同示

十四 おきにすもをとりもころも 下句同示 すむねとも

十六 奥真経而吾念君子千歳ゝもかも 上句長門有奥津借嶋

六 奥嶋鶴云船 在鴨ア冊ア 同来又在之

六 奥真経而吾乎念流吾せこハ千年五百年ありこせぬかも 前歌

十一 奥間経而我念妹之言繁 上句淡海之海奥津嶋山

七 奥ゝ依所見 前句堀ア冊也 上句在堀ア

七 奥風さしく吉浦ハ山跡之不念 上句若浦ゝ白浪立 又十三巻ゝたゝりうる二首在之

七 おきつ舟ハ従奥莫離向舟 下句在浦ア

七 奥方莫放さ夜ふかき来 上句すむ舟いおつしの湖にこき泊年

七 奥津梶漸ゝ志夫乎 下句在鴨ア梶ア シフハ舟ノシフル也

七 礒之上奥のなみ見ハ海藻刈舟 下句在鴨ア 海人ア

七 奥深き潮ハ干去とも 上句在舟ア

十一 淡海之海奥津嶋山奥儲吾念妹事繁

十一 水沙児居奥麁礒ゝよる浪ノ 下句在浪ア 奥ニ家ゝ倒

十二 奥津縄乃き 在ア 又十三巻

十四 おくのいくうへのうらのおきに川洲ゝ 下句在洲ア 安之麻

十五 うきれおきへにわかれかいなり 上句在舟ア 又於浦ア

十五 伐 おきへのみかられおきにてぬ 上句在舟ア

十五 おきへもとこれはいさりする 此本

十五 うなはらのおきへにともし いさる火ハ 下句在火ア

十五 おきへよハ出ふねにぬりこ 此本

十五 おきへより しほみちくらし からのうらに 下句在鶴ア 鶴ア入部ア

十八 おきへより みちくるしほの いやましに 下句在船ア

十五 おきへより ふなひとのほる よひよせて 下句在宿ア

十五 おきつなみ たかくたつひに 上句在信ア

十五 おきいゐもいへ川なすて 上句[illegible]

十五 おきつしらなみ [illegible] すらうも 上句在浦ア

十五 たふ川[illegible]さる 上句在浦ア

十六 奥を深めて[illegible]わけら 上句[illegible]

十六 行し荒雄良奥ハ神[illegible] 上句 王ハ不遣尓情進尓

十六 奥去哉赤羅小船尓裹遣ハ 下句在舟ア 裹ア

十八 おき川小いてゝすゝむちくやとこそくわゝむ 上句[illegible]

十八 すみわたる此おき川[illegible]いつるらて 此本

一 邊

二 邊附而榜来船 此本 上句奥放而榜来船

七 邊着經時 上句在奥ア

九 在衣邊着而榜尼 下句在海人ア 在衣之濱ア

十五 たましきやともしいへにゆきますて 上句在奥ア

十七 おきへつこきぬゝにつきてうらハ 此本 下句在奥ア

七 綿之底奥己具舟乎於邊將因毛 下句在奥ア

七 邊之来依浪ハ言之将繁 上句在濱ア 忘言し

七 妻喘立而邊近着毛 上句在渚鳥ア

二 奥津加伊（カイ）痛勿（イタクナ）波祢曽邊津加伊痛莫（ナ）波祢曽 長哥 前ノ次句こ

二 邊見（ヘミ）ハ白浪散動（トヨミ） 長哥

三 奥浪（オキツ）邊（ヘ）波雖立（タツトモ）わかせこか 下句在浪ア

六 奥浪（ツ）邊浪（ヘ）安穏（シツケミ）いさりすと 下句在船ア

七 奥津浪邊波布敷（シクシク）よりくとも 下句在浪ア

十一 奥波（ツ）邊浪之来縁（キヨル）左（サ）太（ダ）能（ノ）浦く 下句同系 十二巻ハけ方たく

十九 奥浪（ツ）邊波莫（ナ）越（コシソ）君か（カ）舶（フネ） 下句在津ア

三 奥邊にハかもめ喚（ヨビ）邊津方（カタ）に味村（アヂムラ）さわき

三 邊都遍（ツ）（ヘ）者（ハ）あち村動（サハキ） 前同哥 或本歌く

六 邊津浪く益（マス）志く〳〵 長哥

十三 邊浪のよする白珠 長哥

七 部都（ツ）藻 在藻ア

四 風ふけハ邊（ヘ）にハ雖吹（フケトモ） 下句いもとめ神（カミ）さへねれてくれる玉匣ハ

四 奥（ヘ）往（ユキ）邊（ヘ）去（ユキ）いまやいもかため 下句在鮒ア

五 うな原の邊にも奥にも神つまり 長哥 うしハきいます

七 邊にも奥にも依勝（ヨリカタ）ましし 下句在蓴ア

十二 白浪乃邊にも奥にも依（ヨル）といふとも 上句在浪ア

七 奥にも邊にもよする白浪見つゝおもひ 上句在奥ア

六 上（カミ）邊（ヘ）者（ハ）千鳥數鳴（シバナキ）下（シモ）邊（ヘ）者（ハ）河津（ツ）都麻喚（ヨブ） 長哥 芳野川にあり

十三 本（モト）邊（ヘ）者（ハ）つゝし花さき末邊（ヘ）方（ハ）椿花さく 長哥 しもへとも云

十二 淡海（アフミ）之海邊（ヘ）多（ク）波（ハ）人知奥浪君乎置（テ）ハ知人もなし

十九 海邊（ヘ）に出立（タチ） 長哥

十六 堦楯（ハヒタテノ）熊木（クマキ）乃夜（ヤ）良（ラ）尓（ニ）新羅（シラキ）斧（ノ）墮（オトシ）入（イレ）和之（ワシ） 長哥（歟ら 註ニ云ふ邊とハあきてなくとありて此和ちてとまりけりとあれ 同哥云此あたりの宍此やうの物）

註ニ人云[illegible]今[illegible]のもしほ[illegible]
[illegible]
貝文云[illegible]
[illegible]

塩

一 網能浦之海處女等之焼塩乃念曽所焼吾下情　（古今 末句に）

一 潮もかひね今ハこゝさこか　よる舟さまつよ船乗せむと同舟て

一 潮左為二弁等兒乃鴨過て船く　下句在右所哥

三 暮去ハ塩とこてしめ明去ハ塩をほしめ[illegible]
（註ニ人云[illegible]一義云[illegible]　貝文云[illegible]）

十一 牛窓之浪乃塩左猪嶋響所依之君に不相かもあらむ

十五 志ほいるハまつもましいさゆしもしほたくらむ

二 暮去ハ塩満来なむ住吉乃　下句あさかのうらに玉もかりてな

二 塩氣能味かゆまて囘よ　（古今 伊勢ニ云）
（貝文云 餘味シホノイキし力ホし囘ニ[illegible]）

九 塩氣立荒磯ニハ雖在往水之　下句在緑ア

二 難波方塩干勿有ソ袮沈之妹之光儀乎見まくくるしも

四 難波方塩干之名凝飽左右二　下句在子ア

六 難波方潮干乃奈凝委曲見在家妹が待とはしるらめ　同

七 難波方塩干ハ立而見渡ハ　下句在鶴ア

九 難波方塩干にいでて玉藻苅　下句在海ア

十六 難波乃小江乃始塞ちと辛く吾恋て　古今

三 年魚市方塩干にけらし鶴鳴わたる　上句在鶴ア

七 年魚市方塩干にけらし知多の浦に朝こく舟も沖によるみゆ

三 然之海人ハ軍布刈塩焼無暇髪梳乃小櫛取も不見久尓

七 之加乃白水郎の焼塩煙風をいたみ　下句 立ハのぼらず山にたなびく（七日ら焼く字とも）

十一 志賀乃白水郎之塩焼衣雖穢　下句 恋と云物ハ忘れかねつも　（古今 泉郎二字し）

十一 牡鹿海部乃火氣焼立而燎塩乃辛恋をもわれはするかも

十五 志かのあまの一日もおちすやく塩のからきこひをもあれはするかも

三 塩干乃三津之海女乃くゝつ持　下句在藻ア

三 縄乃浦よ塩焼火氣夕去ハ行過不得而山尓たなびく

三 手結我浦よ海未通女塩焼炎　長哥

三 須麻乃海人之塩焼衣乃藤衣　下句衣ア

六 為間乃海人之塩焼衣乃なれなはか一日も君をわすれて将念

十七 すまひとの海辺つねさらすやく塩のからき恋をもあれはするかも

四 おうの海之塩干乃潟之片念よ思哉将去道之永手を

六 若浦よ塩満来れハ潟乎無み　下句在鶴ア

六 海石之塩干乃共潜納渚よハ　長哥　同哥アイシハ所ノ名也　ムタハトモニ

七 阿胡乃海之朝明之塩よ玉藻苅てな　上句時風ふかまくしらすと

十五 わたつうみのおきつしほあひにうかふあわのきえぬものからよりかねむかも

七 名児之塩干ゝ玉ハ将拾　上句在雨ア　廣ア

十八 あまをとめいさりたくひのおほゝしく　上句在鶴ア

九 三名部乃浦塩莫満鹿嶋在釣為海人乎見変来六

九 湯羅乃前塩乾よけらし白神之磯浦箕乎敢而滂動

十一 血沼之海之塩干能小松根母己呂尓　下句在松ア　或本哥

十四 みなの瀬河泊よしほみつなむか　上句まかなしみさねにわはゆくかまくらの

十四 あさかゝたしほひのゆたにおもへらはうけらかはなのいろにてめやも

十四 たゆひかたしほみちわたるいつゆかも　下句かなしきせろかわかりかよはむ　ゆハよりと云詞

十四 あちかまのかけのみなとにいるしほのこてたすくもかいりてねまくしも

十五 これやこの名におふなるとのうつしほに　宇頭之　鳴門　たまもかるとふあまをとめとも

十五 おきへよりしほみちくらしからのうらに　下句あさりするたつなきてさわきぬね

十七 荒津乃海しほひしほみち時ハあれといつれの時かわかこひさらん

一 珠嚢乃すゝりハ塩満らむ （上句在此哥ア　舟ア　裏ア）

四 あしへより満来塩乃弥益ニ念歟君か忘かねつる

六 潮干満伊加方云ハ （上下句在須ア　千ノ字無之）

七 梅も満ぬら塩の黒江ら岸乃浦廻て行かましものを

七 塩満ハ奥浪高し （上下句在鶴ア）

七 塩満ハいりふせいたら方便海ノ （下句在海ア）

七 塩満ハ入流礒之草有哉 （下句在磯ア）

十一 塩満ハ水沫ニ浮細砂も （下句在磯ア）

十二 潮時ニ満来塩比以もしる念ハ雖剰すゝまれむかも

十三 朝なきに満来塩に （長哥）

十五 わかせこをしほまちかねハ （長哥　わかせこを待ハ暁）

十五 しほまちてあまのすきはせゆく舟のこゝろなきも （上句あまのすさひにふねのしほをかしこみと[illegible]）

十五 あしほのちるハわかこゝろ （長哥）

十七 やすらひのふねのしほはやまちかねて （長哥）

十七 しほまちてはしりをいつ （長哥　すなとりのしほ[illegible]）

十八 なにはかたこくしほはやもまつらむ （下句あをのりやみなみのかせもふきそれ　かくもあらは[illegible]）

十九 朝暮ニ満来潮の八隔波よ （長哥）

三 塩干去ハ玉藻刈蔵家妹ニ （下句在濱ア　濱ア）

六 潮干ハ玉藻かるらし （長哥）

六 潮干ノ潟ニ玉藻をかてかし （上句在風ア　濱ア）

六 潮干乃潟ニ夕の鳴なかる （上句在鶴ア　深ア　松ア）

六 塩干ハ葦辺にさはく白鶴乃 （下句在鶴ア）

七 塩干ハ共潟ニ出鳴鶴ノ （下句同前）

七 奥深き潮ハ干去とも　与方 在丹ア

五 いかにみてかへる川から浦すとも　与方 在能ア　名所ノ浦ア

十六 潮干乃山とこそのいつらも　与方 在山ア　海ア

十六 海ハ潮干子山ハ枯まし　与 同宗

三 海未通女塩焼炎　長方

六 暮かくる小藻塩焼つゝ　長方　杉帆乃浦によめり

六 濱をよめとて塩ゑく　長方

六 塩焼こくるさいくあり　長方　古波　さうゆ多し

十三 大王の塩焼海部乃藤衣　与方 深ハ[illegible]　見雲才句ハ新蒙テ塩やき坂と

五 堅塩ナと取つゝ去ろし　長方　焼塩し

五 酸塩ナと灌ちかうく　長方

十六 辛塩してつちとも　長方　在小螺ア

七 塩早ミ磯廻よる石ハ入潮為あまもやこしむ[illegible]

七 入潮する　海人　在塩ア　海ア

十 潮葦ニ才ノ句ニ　在芦ア

十 潮桃返子菅ノ　在菅ア

十三 波塩乃いやましくよ　長方　安統之條

サ ほりえわかさはまちふまりてつる　与方 しふわりせにとふせむしな　さらミハ本のろつし　詳水ア

八 夕塩し伴ひ乾きろ　長方　廿夕歌し

九 夕塩の満乃さしらふ　長方　夫云ミチテ夕フツクし　自去云ミチトゝ云し

十一 夕塩ともにしまわハまたらんもさし　与方ミさこ廿ハ満座船ら　惑方

サ 由布思保尓可和比伎乎里　長方

サ 由布之保尓伎乎須久太里　長方

サ 由布之保よ船ひら妻するゝ　長方

十四 志ほ布弥乃うち〳〵てこそ[illegible]ちかくさらわめや　上句在萬ア　〻人在萬ア

十四 志ほ布弥乃おかれはかなしさねつれハ　上句ひとことしけしなをとかもしむ[illegible]

廿 志ほ布弥のまくらし志つねさむらん　志ほしからさきくかりて

廿 志ほ不尽（フヌ）乃へこそ志つかさりハ志らくし　下句在浪ア

十五 志ほまつとありけるふ祢を志らすして　上句在舟ア　塩待をも行し

十五 志ほまちてころもひつき山ゆくハ　長哥

十六 吾義（ミ）義（キ）波（ハ）御堀乃波夜之（ハヤシ）　長哥　鹿ニかはりし心ハ詳ニ有

十六 塩漆（ヌリタヘトニヲサモ）給時賞毛（ニウサモ）こゝく　長哥　末句

十七 之年（コシ）路（チ）ゆ〳〵志ほやかれのちく〳〵海　下句在名所ア　舟ア　塩ハ皆ニ云ト云けり　手不審

廿巻あし志をとつつかハ あしきれのこし

水　水沫在沫ア

一 珠（タマ）水のゆきしのこゝろハ志わとあらねとも　長哥　末句し人丸　武庫の[illegible]

一 鴨しもの水にうき居て　長哥　七ハ言ノ師し

一 水こそハ常（トキハ）にあらめ御井乃清（キヨ）水　長哥　末句し　藤原宮御井哥

二 水穂国　在国ア

二 山振（フキノ）之立儀（サキ）足（タル）山清水（シミツ）酌尓（クミニ）雖（ユカメト）行道之白鳴（シラナク）

二 天水仰而待尓　長哥　雨乞し　又ハ毛あまつ水あふきてそまつ　長哥

二 逝（ナカルル）留水ものとゝまらし　上句明日香川志からミわたし塞（セカ）ませハ

二 水薦（ミ・クサ）かる信濃乃真弓　在萬ア

三 水草生ひにけり　末句在池ア

十 水草の上におく霜の　上下句在萬ア

十 水草の花のあらへぬらよ　上下句在萬ア

二 秋山之樹下隠（コノシタカクレユク）逝水の吾こそ益め御念（ミ）よりハ　廿此上落し水ハ継宮之由在之八詳　草ア

四 一（ヒトツ）瀬（ヒト）二（ニ）波（ナミ）千（チ）遍（ヘ）障（サハ）良（ラ）比（ヒ）逝（ユク）水之後毛将相（アヒナム）今尓不有（アラス）十方　アイナン　ナラスとも

六 泉河往瀬乃水之絶ばこそ大宮地遷往め

七 往水之絶事無又反見む　上句 巻向之病足之川由

六 往水に禊てましを　廿六 依羅川にあり　上句在思草ア

七 往水之三名沫如世人吾等者　上句 巻向之山邊とよみて

九 往水之過去妹之方見とそ来

九 下檜山下逝水乃上不出吾念情安虚かも　廿 方来句に　下檜山ハ摂津國也

十 神なひの山下動去水之川津鳴なる秋といはんとや

十一 悪水本之山下動逝水之時ともなくも恋度かも

十一 こもりくの長谷山響尓行水乃名耳所縁之内妻はも
一云 名耳之所縁而恋管哉将在

十二 神山之山下響逝水之水尾不絶者後毛吾妻

十二 足川水阿和逆纒行水之　下句 事不反思始為

十六 飛鳥川水往増弥日異恋乃増者在勝ぬかも
[illegible]行水ハ[illegible]
[illegible]おもひそめてし[illegible]

十一 奥山之木葉隠而行水乃音聞従常不所忘

十一 逝水之音くい不返立恋而逝死　上句在 般若ア

十一 水無瀬川ありても水ハ逝云物を　上句うちはへて[illegible]

十五由久巻 ゆく川のいくへとしく　十六 無常心

十九 逝水のとまらぬを　十五 同

十八 逝水之留不得と　十五 無常心

十七 逝水のいくをましへのを　十五

十七 ゆく川のまたゆくらくありぬへし　上句在閑ア

十七 ゆく川のおもしろきやきき　長寄

三 其山之水乃當不　長寄

四 火にも水にも吾莫七國　上句わかせこハものなおもひそ事しあらハ（七國ハ借字）

九 入水火にも将入と　（チヌオトコウナヒオトコト）

四 意水定　上句在涙ア　又同卷意水者

四 よはなる乃瀦池水情あらハ　下句池ア

四 小山田の苗代水乃中よとにして　上句事出しハ誰言なるか

五 多かハの北さりゆきかさハミと　（大系本にハこゝにハ谷ぐくもなし　谷ぐくとよむハ谷蟇とも云）

六 従古人之言来流老人之変若云水曽名尓負滝之瀬

七 水底之玉さへ清可見も

七 大海之水底豊三立浪之　下句在浪ア

七 水底照之石着玉　上下句在貝ア

七 水底之沈白玉誰故　下句在玉ア

十 能登河之水底并尓光及尓三笠乃山ハ咲来かも

十一 水底之生玉藻之　在藻ア

十一 水泳玉之接有礒貝之　下句在貝ア　（泳古本作冰）

十二 八釣川水底不絶行水之続恋是比歳

廿 於保吉宇美能美奈曽己布可久於毛比都々　下句在海ア

七 泊瀬川流水尾之湍乎早　下句在堰ア

七 武庫河水尾急み赤駒足かく激沾らも

七 梶音高之水尾早見かも　上句在舟ア

九 水尾之不断ハ吾忘めや　上句之諸乃や郎れたハやなぜろせぬ

十二 水尾早かちとる間なくおもほゆるかも　上句松浦舟乱穿江之

廿 おほしらしみなちなミせとなかやさしも　上句をとめにらくれそのみおのうたつ

廿 ちアへにもわ水をひきてつゝこふ秘とす　上句あをなとハかくのミ

サ こゆき乳船ハ何りにかりもしあとらしきしつゝ去方

廿 ほり江よりみをさかのほる梶乃音の　下句在梶ア

廿 布奈きほふほり江乃川乃みなきはに　下句きゐつゝなくはみやこ鳥かも

七 おちたきつ走井水之清けれは度ハわれハ去不勝かも

九 おちたきちなかるゝ水之磐觸よとめるよとに月乃影見ゆ

十一 自高山出来水石觸破て念いもにあはぬ夕ハ

七 石流垂水之水乎結飲都　上句命幸久吉

八 石激垂見之上乃さわらひの　下句在春ア

十二 石走垂水之水のはしきやし君に恋しく吾情から

十四 まかなしミさねにわはゆくかまくらのみなのせかはにしほみつなむか　水モナ云や計

十四 筑波ね乃いはもとゝろにおつる水よにもたゆらにわかおもはなくに

七 水手　在舟ア　又同巻十二巻ニ在

七 水手　在人倫ア　舟人ニも　又十三巻ニ在

七 水隠ニ気衝餘早川の　下句在河ア

十一 真薦かる大野川原の水隠ニ恋こしいもか紐とくわれは

十一 青山の石垣沼乃水隠ニ恋哉度相縁乎無

十一 隠津の沢立見尓有石根従毛　下句在磐ア

（註ニ人云こもりつとハ下にかくれたる水ニさはとハたる多文字なるへしたつとハ水のおにたる水なとを云中にありてもるとハ下に有てあらしねたゝるものをいふなり水と）

七 水霧相奥津小島ニ風乎疾ミ

八 衣手ニ水渋付まてうへし田を　下句在田ア

八 佐保河之水乎塞上而植田乎　尼作　下句家持續在田ア

九 水挹けむ手児名し所念　上句かつしかのまゝの井見れは立平し

十三 小治田之年魚道之水を間なくそ人ハくむと云　長哥　下句時しくそ人ハ飲云

十三 水こそハ挹而飼かへ　長哥　馬アにあり

十二 馬ニ水令飲吾外ニ見む　上句在馬ア　名所ニ河ア

十四 西羨(セミ)度(ト)ハくまもすゝらとうつゝすゝも　上句在拾遺ア 水ハくまもすしらんとし

十 雪消(ケノ)る水ニ裳裾(モノスソ)ぬれぬと　上句君かため山田の澤ニゑくつむと

十 天漢(ノカハ)水さへにてる舟竟(フナヨソヒ)　下句在七夕ア

十 水沼草　在草ア

十二 山川水ニ陰(ミ)生(ヒ)山草(スゲノ)　下句在菅ア　草古本円

十三 水蓼(タデ)　在草ア

十三 水枝(エ)さす　長命　在樹ア 水ハ若心こ

十三 水門(ミナト)　在湊ア 又七巻ニ九巻ニ

十一 水上(ノ)ニ如數書吾命(カズカクゴトキワガイノチ)妹相受日鶴鴨(イモニアムトウケヒツルカモ)　自安云ウケヒハイノル心こ

十九 水上ハ 地往如(ツチユクゴトク)久　長寿

十二 水こそ多く上ニ種蒔(オホミカケ)(ニキ)　下在穀ア

十二 足檜木乃山川水之音不出(イデズ)人之子姤(ユヱ)恋わたるかも

十一 よしもこゝよろ名楽者(ヨラクハ)水有(ナラ)ハ…ぬ鹹(ユニテ)應(ユリ)邉(ヘリ)乃思

十二 水咫衝(ミシツシ)石心盡(ツクシテ)而念らも　上句在減盡ア 又十四巻

十三 月よミ乃持有(モチコセル)越水　長歌　自安云月ハ人間ノセイシ持除天ヘ水シ取アケ給ト云心こ

十四 つゝ井のミ川はくまへかいつもかくて千よ　上句在井ア

十六 来(キ)つゝ潜(カクレ)ハ水ハ搗(カム)ム(?)　上句みてうの池しうるめしきかもこゝろ

十六 味飯(カチイヒ)を水ニ醸成(カミナシ)吾待(ワガマチ)こし　下句在世ア 飯ア

十六 蓮荷(ハチスバ)ニ渟(タマレ)在水乃色ニ似むん　上句久堅ニ雨もふらぬか

十六 佛造(ツクル)真朱(アカニ)不足(タラズ)ハ水渟(タマル)池田乃阿曾(アソ)か鼻上を穿(ホレ)

十六 琴酒(コトサケ)を押垂(オシタレ)小野ゆ出流(イヅル)水ぬるくハ不出(イデズ)寒水(ヒヤミヅ)の心もけやに　長歌

十七 楯並而(タテナメテ)いつミ乃川乃水をたえすつかへまつらむ大宮京

十七 この小わか馬乃わかさ乃川ニこさねかもてしかり　上句在樹ア

十九 宇能花(ウノ)を腐(クタス)霖雨(ナガメ)ニ始水逝(ミツハナ)(ミツニサリ)　下句在雨ア 卯花ア

十九 むつしわなりもし瑞多婢末弥久　廿二巻 水モタユミナリシ

のむら川にかとさへかなてんにすりはる　よるひるはまさにくらかりし かさへとのきさへし

いかにみくよりさへへんてさきくるふ　下句在此間 本アアシヒ

いかなるにゆかいかにいりてなりすてふ　下句同前

氷　（又云氷をいひと云ハいゆ義）

一 盤石床等川之氷凝冷夜乎

十一 紐鏡能登香山誰故君来座在紐不開

注又云いもうくまにいここありなるへしのいか代山の歌云又ほきて飆洞などあり 氷のかくミハのしてろり放し　同歌云こありてきいしむるふなふ申 来葉抄云いもうくまにい氷といはましもあさふねし水ハ氷ぬれハあるも うくのとろみれいさけつもとくる

十三 零雪ハ凍渡ぬと　廿一　或本歌也

十三 置霜も氷くさえしもろり　廿一

佐保河波尓許保里和多礼流宇須良婢乃　下句うすきこゝろをわかおもはなくに

瀲

二 庭多泉流涙止ぞ絶つる　上句御立せし島をみれは

十九 ホ 波多豆美 よそへつゝ流涕とゝめ絶つも　十九

十九 庭多つゝ流涕留め絶つも　廿一

七 甚多も不零雨故庭立水　下句太莫逝そ人の知へく

沫

五 水沫なす微命も栲縄の千尋にもかと慕くらしつ

注又云みなわなすもろきいのちもとはかりのミといへり云帝の中に このあはをとと和名れてのあはなとしけゆへにかくいへる也

六 泊瀬女造木綿花三吉野瀧乃水沫開来受や

七 巻向之山邊響而行水之三名沫如世人吾等者

七 泊瀬川流水沫之絶ハこそ吾念心不遂と思はめ

十一 是川水阿和逆纏行水事不反思始為

十六 塩満者水沫尓浮細砂裳 下句在別ア

十八 射水河流水沫のよるへなみ 十七

十二 歌方毛曰管毛有麻吾有者地庭不落空消生

うたかたも

註云人云此哥中五文字古点ニハ[illegible]其心不相叶ニよりて[illegible]
うたかたも[illegible]
きこえ[illegible]水のあわ[illegible]
よく[illegible]雨露[illegible]
[illegible]
[illegible]詞[illegible]

さほ[illegible]身[illegible] 下句[illegible]

註云人云[illegible]水のあわ[illegible]

消

二 足日木乃山之四付二妹待跡吾立所沾山之四附二

二 山のしつくにいもまつとわれたちぬれぬ山のしつくに あしひきの[illegible]

十九 足日木之山黄葉尓四頭久相而 下句[illegible]

十 男聟の平湾船のくいの數[illegible] [illegible]

浪 （[illegible]）

一 浪之所濯伊良虞能嶋之玉藻苅食 上句空蝉之命[illegible]

一 石走淡海回乃楽浪乃大津宮尓 長哥 石走淡海[illegible]

一 楽浪之思賀乃辛碕 下句在船ア 又十三巻楽浪乃志我能韓埼 長哥

一 楽浪乃国都美神乃浦佐備而 下句在都ア

二 楽浪之志我津子等何 下句在道ア

二 神楽波之志賀さゝれ浪敷布に常にと君かおもほしへりける

三 楽浪乃旧都をみつもとふ 下句在都ア

七 佐左浪乃連庫山ニ雲居者 下句在雨ア雲ア 近江國ノ名所也

七 神楽聲浪乃志賀津之浦能船乗ニ 下句在舟ア心ア

七 神楽浪之思我津乃白水郎ハ吾無久潜ハ莫為浪雖不立

九 楽浪之平山風之海吹ハ　下句在風ア

三 小浪礒越道有能登湍河　下句在瀬ア

四 小浪止時もなし吾恋者　上句在鵆ア

十二 左射礼浪間無も君ハ所念かも　上句とのくもり雨零川之

十三 さゝれ浪浮てなかるゝ長谷河　下句在城ア

十七 さゝなみもちらくもみてても　長哥

十二 小浪敷而恋乃有と告乞　ありいも目とみすくもりにの

十三 小浪よる悲しくハやむ時もなし　上ハあふみのうみ沖つ波のよる

十二 さゝ浪ハ波越安蹔之落小雨　下句在雨ア

一 白浪乃濵松之枝乃手向草　下句在草ア

九 白那弥の濵松之木乃手酬草　下句在手ア　夢草ア

一 海底奥津白浪立田山　下句人備アイモ

二 奥ミれハ跡位浪立邊ミれハ白浪散動　長哥　跡位浪立ハ跡ニ浪立ニ

二 奥波来依荒礒乎　下句在礒ア

三 風を疾奥津白浪高有之海人釣船濵にかへりぬ

三 伊勢海之奥津白浪花尓欲得つゝみていもか家つとにせん

三 奥浪邊波雖立わかせこか三船のとまり瀾立めやも

六 奥浪邊浪安美いさりすと　下句在船ア

七 奥く邊て縁白浪見乍将思　上句在奥ア

七 奥津浪邊波布敷よりくとも　下句同哥

十一 奥波邊浪之来縁左太能浦之此さたすきて後恋むかも　同哥ノ異説し　十一巻卅　同哥在七

十二 白浪乃邊つくとも奥つとも縁そといふへく　上句容よみて妙哉之念

十九 奥浪邊波莫越君之船　下句在津ア

七 奥浪来不依有せ不失もしと　上句在前ア

七 奥浪よする荒磯之名告藻ハ　下句在告藻ア

十三 奥浪来因白珠　廿五

十二 奥浪のたちハ置ハ知人もなし

七 奥津波部都藻纏持よせ来とも　下句在藻ア

七 奥津浪騒とさけハ数のなのしも　上句多しものゝふのやそうちかわて

七 住吉之奥津白浪風吹ハ来縁留濱をみれハ浄しも

七 音之清奥津白浪　上句在貝ア

九 玉よせ持来奥津白浪　上句在奥ア

九 白玉よせこおきつ白浪　上句同前

十七 おきつ川なをよせくらぬかまもとりかわふ　廿六

七 奥浪高し　上下句在鶴ア

七 塩満ハ奥浪高ミ　上下同前

十二 淡海之奥白浪知らねとも妹所云七日越来

十五 さゝなみのおきつ白浪なかとしわまとあけしまかくれゆく

十五 おきつ川立つなミ見せ立らしも　下句在名所浦ア

十五 おきつ人立つなミかくれゆくらなれ　廿六

十五 おきつ川立つなミかくれ人目はおへつゝしも人いきて来しも

十五 まきれしいはきて立しおきつ川立つ浪　上句在貝ア

十七 おきつ川立つなミわかしい　上句布引のおも下句やしおきつしのふ

十八 おきつふいてくなるこうたかひやとてあこし　上句在奥ア

三 奥津浪千重ニ隠ぬ山跡島根ハ　上句名細きいなミのうミの

三 一日ニハ千重浪數ニ念友奈何其玉之手ニ巻かたき

四 五百重浪立ても居ても我おもふつる君　上句在磯ア

六

十一 朝なきに千重浪縁夕なきに五百重浪因　長哥

十一 奥藻隠障浪五百重浪千重敷々恋渡鴨

小六 白浪之千重来よする住吉の　下句在出ア 名所岸ア

十 大海乃方往浪之千重積　上句在海ア

十三 百重波千重浪之敷　長哥

十五 おき[illegible]ちへふく[illegible]さゝ[illegible]　右真幸布いもかいてハ

十九 よする浪いや千重[illegible]　右[illegible]

十九 白浪之八重折之於乱[illegible]　右今日かも奥津玉藻ハ

十九 八[illegible]浪よ[illegible]く珠藻の　長哥

廿 海原に[illegible]やへおり[illegible]　長哥

十三 島辺浪によする白珠　長哥

六 邊津浪之益敷布に　長哥 [illegible]

十三 夕なきに[illegible]波の波塩のいやましに[illegible]　長哥

七 礒越波之敷布念　[illegible]在磯ア

十二 是川瀬々敷浪布々妹心乗在鴨

十二 きいの浦に[illegible]白浪敷布に[illegible]不念し

十三 波浪乃いや敷布く　長哥 [illegible]

十七 よする[illegible]いや[illegible]　右[illegible]

廿 波麻奈参[illegible]　右[illegible]

十七 おき[illegible]　第一句[illegible]

十九 白波[illegible]恋[illegible]　長哥

九 石觸浪之敷而[illegible]念　右暁之夢[illegible]

十一 奥津浪敷而耳や[illegible]　[illegible]

十一 住吉[illegible]浦[illegible]布浪[illegible]数[illegible]

十二 敷浪乃屢（シバ）君をみむよしもかも 上句霍公鳥（ホトヽギス）飛幡（トバタ）之浦尓

十三 敷浪乃よする濱邊に 長哥

十七 あさなきによする白浪 同

六 朝羽振（アサハフル）浪乃声（ヲト）踪（サワキ） 同 [illegible]

二 夕はふる浪こそ来よれ浪之共彼縁（カヨリ）此依（カクヨリ） 長哥
（註云八雲云古点にはいろゝといへり 今ゆふはふるとよむべし [illegible]）

二 夕去者風こそ来縁（キヨレ）浪之共彼縁此縁 前ノ歌ノ或本ニ云

四 浪之共よるゝ珠藻乃 長哥

十二 浪之共なひく玉藻乃片念に 下句在藻ア

十五 [illegible] 下句在海人ア

三 淡海（アフミ）乃海夕浪千鳥 下句在千鳥ア

六 夕浪小玉藻八来依（キヨル） 長哥

十三 腫浪の恐（カシコキ）海を直渉（タヾワタリ）けむ 長哥 [illegible]

二 荒浪に縁（ヨリ）来玉を枕尓置（テ） 長哥

二 浪音（ノト）乃茂（シゲキ）濱邊乎 長哥

九 浪音乃騒（サワク）湊之 同

八 浮津（ウキツ）之浪音さわくなり 上下句在七夕ア

七 井提（テ）越（コス）浪之音之清久（サヤケク） 上句在河ア

十一 朝東風（アサコチ）尓井提（サテ）越（コス）浪之世蝶（セテフ）似 下句在河ア

六 （四良名美）しらなみの五十開（イソザキ）廻有（メグレル）住吉の濱 長哥

六 礒乃埼（サキ）前（サキ）荒浪風尓不令遇（アハセス）莫つゝみ

七 大海之礒本（モト）由（ユ）須理立波のよらむとおもへる濱の淨（サヤ）（キヨキ）く

十二 礒越浪の[illegible] 上句在せとのア

十三 荒礒浪ありてもみむと 長哥

十一 荒磯越（コエ）外（ホカ）往（ユク）波乃外（ホカ）心吾ハおもはし恋而死（テシヌ）とも

七 荒磯越浪ハ恐（オソロシ） 下句在海ア

七 荒磯越浪乎恐見（カシコミ）淡路嶋不見哉将過（ミステヤスキム）幾許（ソコバ）近乎

三 三津埼（ミツノサキ）浪を恐隠江乃（カシコミコモリエノ） 下句在江ア（カシコミハオソロシキし）

三 塩左為能（サイノ）浪を恐ミ（カシコミ） 長哥

四 伊勢ノ海之磯も動（トヾロ）くよする浪恐人に恋わたるかも

六 奥ツ浪恐（カシコキ）海ヽ 上下句在海ア

七 大海之波ハ畏（カシコシ）然有（シカレ）とも神乎斎礼（タムケ）而（テ）船出（フナデ）せハ如何（イカニ）

七 淡海（アフミノ）之海浪恐（オソロシ）と風守（カザモリ）年者や経去むも榜（コク）とハ無（ナシ）く

十五 のもあけハ[illegible]立て[illegible]ことと 下句の[illegible]

三 みよし野之瀧乃白波しらねとも語し告ハ古所念（ムカシオモホユ）

十三 三吉野乃瀧も動（トヾロ）におつる白波 長哥 末句略

十三 三芳野ノ瀧動（モトヾロニ）く落（ヲツル）白浪留（トメ）にしいもを見まくのほしき白浪 上下句白浪 古本同

十四 まくのおもいふかきこゝろふ （よろくるのまに此千見ゆるかあらし おもしいふのおもいふし いろ）

十 瀬を速ミ（ハヤミ）落当知足（ヲチタギチタル）白浪に川津鳴なり朝夕毎（アサヨヒコトニ）

六 清河内（キヨキカウチノ）之多芸つ白浪 上句毎年（トシノハニ）かくてミてしかミよしの

十 天川白浪凌（シノギ）落沸速湍（タギツハヤセ）渉（ワタリテ） 長哥

十二 如神（カミノゴト）所聞（キコユル）瀧之白浪乃面知（シモニ）君か見えぬこのころ

三 白浪を伊与尓廻（メグラシ）之 長哥ハ詞也

三 いさよふ浪乃去辺（ユクヘ）しらすも 上句物の部（モノノフ）の八十氏（ヤソウチ）河の阿白木（アシロキ）尓

七 たゆたふ浪尓立有（タテル）白雲 上句在海ア

七 礒之浦ヽ来（キ）よる白浪反（カヘリツヽ）乍すきかてなくハきしにたゆたふ

六 船瀬（フナセ）之浜之四寸流思良名美（シキルシラナミ） 上句往くかへりミともあかねや名寸隅乃

九 落波多れか削遺有（ケヅリノコセル） 上句御食向（ミケムカフ）南淵山之巌（イハホ）ニハ

十二 隠沼之（カクレヌノ）したゆ恋あまり白浪之灼然（イチシロク）出（イデテ）人之可知（シルヘク）

十七 [illegible]あさこ此もち[illegible]くいてねいとの[illegible]乃念く　上句在浪ノ

十三 浪雲乃愛妻（ウツクシツマ）と　上句
（目安手ミモテモ芸ニイツクシキト云んと云て人け句かれと）

十二 納浪来依浜之津れもなく　上句在浪ア

十四 うきかはのいさこふしもよきかしより宿す　上句打ていへ[illegible]
（目安云浪ハ青アランにし）

十六 行し荒雄良（ヲラ）波よ袖振　上句[illegible]さうしてもさかしらよ

三 風をと疾（イタミ）奥津白浪高からし　下句在浪ア

七 浪高（タカミ）てやゆいむ云つよ地を　上句霞ゐる麻[illegible]之埼か

七 浪高之（シ）奈何（イカニ）梶取（カヂトリ）水鳥之浮宿（ウキネ）也すへき猶やこくへき

九 吉野川河浪高と　下句在浦ア　多芸浦ア

八 白浪乃高荒（キアルヽ）海を　上句

十 天河白浪高吾恋ハ　下句公か舟出ハ今すらし

十 天漢湍瀬ゝ白浪雖高（タカケレト）　下句在七夕ア

十一 木海之名高（ナタカ）之浦之依浪音高（タカ）かもあはぬ子故ゝ

十三 産浪之塞（フサケル）道を　上句

十三 浪之塞海道ハ不行（ユカシ）　上句在風ア　道ア

十五 [illegible]よろいかりもゝむ　上句[illegible]

十五 [illegible]

十七 [illegible]円

三 阿倍（アヘ）乃嶋宇乃住石小依浪間無（マナク）比来（コノコロ）日本（ヤマト）し所念（オモホユ）

四 よする波間無牟（アヒダモナケム）吾恋巻（ワガコヒマク）ハ　上句跡道（トチ）之嶋乃浦廻之

十二 すり嶋のうつゝ乃浦ゞよる浪間も置（オキ）て我思はなくによ
（人云おもひきおもひを立て当帝ハちいさき波の立をも当ハるゝ下云）
（我ハ小宿て[illegible]）

十一 大海ゝ立らむ浪ハ間将有（アラム）きみゝ恋らくて止時もなし

十一 大伴之三津乃白浪間無我恋らくを人の知らなく
十一 風を痛甚振浪能間無わかおもふ君は相念らむか
十二 貞能浦よする白浪無間思をと如何妹にあひかたき
七 海人之燎火浪間より所見　右木国之狭日鹿乃浦に出見れは
七 掻上栲縄波間より所見　右在機ア　栲ア　名所に嶋ア
十 浪間従鳥音異鳴　右下句在鳥ア　名所に池ア
十二 浪間より所見小嶋之浜久木　下句在楸ア
十二 浪間より雲居に見ゆる粟嶋の　下句阿波国ア　名所に嶋ア
廿 あをミ乃向をと伊由波仕佐奥久美　廿六
七 三津乃松原浪越よ所見　右在船ア
三 海部乃釣船浪之上ゆ見ゆ　右句在船ア
十五 あらき浪り船にあまたらまほしく出ゆかん　上句同前

四 浪上乎五十行左具久美　長哥 [illegible]
八 波上従所見児嶋之　右句在雲ア　上ハヨリト云詞
十五 あまをとめは小舟のりつらゝにうけりあかときのしほみちくれは [illegible]
十五 ふなてをせむとふな人もかこも声よひにほ鳥のなつさひゆけは　長哥
十七 浪乃へ [illegible]　右在家ア　一云〻
三 水鴨之将去浪立莫勤　右在名所浦ア
三 松風に池浪立て　長哥
九 秋風之白浪立ぬ　同
十 秋風之河浪起暫八十舟津に三舟停
六 風吹は浪かたゝむと伺候に　下句在浦ア
七 風もふかねは波不立命　右句在奥ア
十 風吹而河浪起引船之　下句在七夕ア

十 風ハ吹とも浪立ゆめ　上句在七夕ア

十一 風不吹浦ニ浪立無名をも　下句よれは負かも逢よしもなくしよ

七 船人勤浪立らしも　上句在舟ア　名呉浦ア

七 天海ニ雲波立月ノ船　下句在天ア　雲ノ月ア

七 神前荒石しミす浪立ね　下句在旅ア

七 圓方之湊之渚鳥浪立也　下句在鳥ア

七 あミ小船帆も綾風と見まくく鞆之浦廻ニ浪立有所見

七 日笠浦之波立見　上句伊南野ハ往過ぬらし天づたふ

七 若浦之白浪立而奥ッ風　下句在奥ア

七 氷菟之是氷門不波立らしも　上句在風ア　名所ア

七 滑為やも波難不起　上句在舟ア　梶ア

七 意有社波不立め　上句在鴎ア　浪ア

七 痛足河之浪立ぬまきもくの由槻ケ嵩ニ雲居立有らし

註云七巻の[illegible]

七 甚河瀬ニ浪立句ゆめ　上句在河ア

十 天漢門ニ浪立句謹　上句在七夕ア

十 天河浪ハ立とも有舟ハ　下句同前

九 わくらハ波ニ船出すへしや　上句在海ア

十二 作保川之川浪不立静くも　下句君ニあらしてあそまてしもか

十二 立浪ニ数よし船出す不来とや　上句君ハ不来部ハ故ミ

十三 立浪も跡不立ニ　長歌　大舟乃[illegible]

十三 立浪ものくミハ不立起　長歌　[illegible]

十三 桐坂をみしても[illegible]淡海之海白木綿花ニ浪立渡

十四 ふなびとさわくなみたつらしも　（上句は葛飾のまゝのうらみをこく船の）

十四 ありつゝも[illegible]つがゆか　（上句[illegible]のつゝ[illegible]ものゝ[illegible]まくらかよ）

十五 か[illegible]よせくるなみに[illegible]ね[illegible]あれしも[illegible]くこいね[illegible]

十八 あ[illegible]しらなみ[illegible]よるくいの　（下句在[illegible]ア）

五 [illegible]もつ[illegible]しら[illegible]くて　（上句[illegible]ゆつり[illegible]ハの　去ハ言助也[illegible]）

六 河次乃清河内ニ　（長哥　芳野ニあり　川次ハ非浪ニべし）

六 川波之立合郷と　（長哥　布當ノ宮ニあり）

七 大海之水底豊三立浪之将依思有礒之清左

七 竹嶋乃阿戸白波ハ動とも吾家思五百入ゥ悲し　（竹嶋ハ高嶋　白ゥ河トヨム）

六 風吹ハ白波さわき　（長哥）

六 朝風ニ浦波さわき　（長哥）

七 赤石門波いまださわけり　（上句粟路ニ[illegible]）

九 高嶋之阿渡川波ハ驟ともわれは家思宿りかなしみ　（上句在湖ア　ヤドリ古点）

九 細川瀬波驟ける

十 秋之船之波驟ら　（上句在[illegible]ア）

七 寄[illegible]波不數為而　（古伏龍の去りしあとを[illegible]）

[illegible]

三 志賀乃大津ニよする白波　（上句吾命真幸[illegible]）

七 住吉之岸之松根打曝縁来浪之音之清羅

七 大津之三津之濱邊を打曝因来波之逝方不知毛

七 静も岸ニハ波ハ縁けるか　（下句在岸ア）

七 石そゝく岸之浦廻ニよする波邊ニ来縁ばか言ノ將繫

七　朝なきに来よる白浪欲見（ミマクホリ）われはすれとも風こそよせね　忘貝

七　風吹而波ハ雖縁（ヨルトモ）いつすいは不止（ヤマジ）　上句鳴（ナリ）廻りはまこらむ

八　大（オホ）乃浦之其長（ソノナカ）濱によする浪寛（ユタケク）君を念（オモフ）此日（コノゴロ）　大浦ハ遠江国

十二　霰零（アラレフル）遠津大浦によする浪縦（ヨシ）も依（ヨス）とも憎（ニク）からなくに

九　風莫（カザナシ）乃浦之白浪徒（イタヅラニ）於斯（ココニ）依りくる見る人なしに

十一　牛窓之浪乃塩さ井嶋響（ヒヽキ）所依（ヨラレ）之君にあはすかもあらむ

十一　白浪之来縁（ヨス）嶋の荒磯にも　下句在浦ア

十一　大船之艫（トモ）にも舳にもよする波依（ヨル）とも吾（ワレ）ハ君か随意（マニマニ）

十三　水沙児（ミサゴ）居（ヰル）奥麁（アラ）礒によする浪ノ往方（ユクヘ）もしらすわかこふらくハ

十二　たくひれの白濱浪乃不肯縁（ヨリモアヘズ）荒振（アラフル）妹に恋つゝそ居（ヲル）　（拷領巾）

十三　拷領巾（タクヒレ）之白濱浪乃縁時（ヨルトキ）もなし　上句くまふかこゝろもなく

十九　よする浪またくやいまにいはまくあらむ　上句もしやかあふかのさまも

十五　わたつみのよせくる浪にぬれてねしねね　上句はおもふいをりのあと

十七　白浪のよするいそまをこく舟の　下句在舟ア

十七　きよいいそまによするなみ見えて　上句在磯ア

十七　こしかたのありそのうみもへしもと杣を　上句こらにむと経て見せむ

十七　さゝなみやしくらきかもよせあいても　下句在濱ア

十八　あしはらにいまよするなみのへはいやましにして　下句ぬちしきよせてあゆみ（ほことも）

サ　さゝなみの（奈義）よするなみへふかくし　下句在濱ア

サ　さゝみさ此いまのさてかいろふかし　下句在池ア

七　千早（チハヤ）人氏河浪を清（キヨミ）も振去人之（ノ）立難為（タチカテニスル）

八　青浪（アラ）（辛奈義）望（ノゾミ）ハありと七夕云し

サ　あまのかはなみもてこそこなたの　下句在舟ア

サ　あまのかはらせこそういさくれ　下句むこもかくの（なつきまつ）

サ 宇奈波良 うなはらのうへにたゝよふあまのつりふね（上句今諸本よのきりハあまのすゝ）

十四 力称河泊乃かはともしたてしこそまてあまふたをかくし

十九 泊瀬小舟風浪にあはせすなゆく（古今）（すいやうしと詞にあるやふに 同意こゝろのすと云を同く）

サ 由古吉都く らゝの奈美乃等恵良比ちるくらい（下句こゝゝ清まゝて 於そてらしきこゑ ゆとハ詞とむてひゝきてあるさ）

サ 吉野の砂乃へころもゝゝちとのいちくし（下句於ゝ雲くる山かも 同ちかふつゝしくもちとい也きりさゝ）

巌

三 高山乃石穂乃上に伊座つかも（古今 末句し）

三 高山之石穂乃上に君之臥有（末句在カし）

サ 高山之伊波保尓於布流須我乃根能（下句在菅ノ）

六ハ 隼人乃瀬戸乃磐も年魚走芳野之瀧に尚不及けり（磐ヲイハホト云）

六 巌成常磐に座貴吾君（上句春菜ハ巌ハ落易）

六 不過も磐は巌には花開ともをりゝ

六 巌にハ山下耀錦成花咲をゝりゝ（古今）

九 御食向南淵山之巌には落波太列可削遺有

十一 石尚行應通建男戀云事後悔在

十一 三室山石穂菅（上下句在菅ノ 一云三諸山之石小菅）

十二 神さひて巌に生松ノ根之（下句在松ノ）

十四 伊波保呂乃そひのわかまつかぎりとや（下句在松ノ 呂ハ詞ノ助字 いハほかし）

十九 雪嶺よさきわけりとも（古今 瞿麦アリ）

十九 雪嶋巌に殖有なてしこハ（下句同前 雪嶋ハ石ヲ作る島ノ作花）

磐

一 石走淡海国乃樂浪乃（古今）

一 磐走淡海乃国之（同）

十五 いはゝしるたきもとゝろに鳴蝉乃（下句在蟬ノ 蟬ア）

一 磐床と川の氷凝冷夜を　七哥

六 あきつ床に磐床乃常なりねかし　上句人皆乃壽も吾も芳野乃

一 石根ふみさくみなやみ　七哥　石ノ道ヲフセクニ

二 高山乃磐根し巻て死なましものを　七哥　為つくふり急つわれは

二 鴨山の磐根し巻る吾をかも　下句知らすと妹か待つゝあらむ　人も山ハ石見國

二 石根左久見而なつみこし　自安云石をふみてなやみ来しと　十一哥

廿 山河のそいし孫さくみてゆきめ（伊波左久義）　七哥

十三 是日本紀石根許其思義菅根手　下句在菅ア

註欠云常にはあり[illegible]

三 磐金之凝敷山乎越不勝而　下句在山ア　人詳同ア

七 石金之凝木敷山尓入始而　下句等註下在山ア

七 神さふる磐根己凝敷る芳野の水分山をみれはかなしも

十三 石根乃こしき道を石床の根延門まと　七哥

十三 石根のこゝしき道の石床の根延門に　同

十一 石根通念吾恋者　上句在澤ア　泉ア

十一 石根ともさかしき念君之相者　上句隠澤ノ澤泉立見介有

十一 石根踏重成山にあらねとも　下句在山ア

十五 石根踏夜道不行と思へといもによりては忍かねつも

十五 いはゝふむいこ駒乃山をこえてそあかくる　上句[illegible]

十七 いはゝふみこえへるあなは　七哥

十八 いはゝふみとやまこし鏡ゆき　七哥

十五 いはゝ乃あらき嶋根に宿りする君　未句　七哥

九 明日よりはあれハこひむな名欲山石踏平之君か越去ハ 名欲山對馬と 抗思年

九 命乎志麻勢久可願名欲石踏平之亦毛来武 舊奇和し

十三 石瀬踏 上句在瀬ア

二 上瀬ニ石橋わたし 長奇 明日香川乃在瀬ア

二 石橋ノ一云石浪 生靡留玉藻もそ 長奇 前ノ一首中也 みすか川にもあり

二 磐隠座 長奇

二 千磐破人乎和為と 長奇

三 千磐破神之社し 下句在葉ア

二 天晴磐垣淵之隠耳 再意つゝあるに 長奇 十一巻千石破ミルト書例目本同在下へ

十一 玉晴石垣淵之隠ニハ伏以死汝名ハ不謂 [illegible]

十一 石垣淵乃こもりにはたち 上句在淵ア

十一 石垣沼間乃水隠よ 上句在沼ア

十一 神名火打廻前乃石淵ニ 下句在淵ア

二 天原石門を開 長奇

三 豊国乃鏡山之石戸立 下句かくれにけらしまてときまさす

三 石室戸ニ 在窟ア

三 石戸破手力もかも 下句在戸ア

三 [illegible]いはやに 在窟ア

三 久方乃天之探女之石船乃 下句在舟ア

十九 天雲之磐船浮テ 長奇

三 角障経石村之道を朝不離 内

三 奥山之磐本菅を根深めて 下句在菅ア

十一 石本菅 在菅ア

四 奥山の磐影に生る菅根乃　下句在菅ア

六 奥山の磐に蘿生て恐も　上句在苔ア

七 奥山の磐に蘿生て恐と思情乎いかにかもせむ

七 石上菅根みむと月待難　上句春日山ゝ高有良之

四 石木にも成ましものを物思はすして　上句かくはかり恋つゝあらすハ

五 石木をもといさけしらに　長哥　といもせとてもきえし

五 伊波紀よりなりてし人か　長哥

十六 石城にも隠ハ共に莫思吾背　上句事しあらハ小泊瀬山乃

四 磐間を射往廻　長哥　いなひつまうらみをすきてとりしもの

四 磐之鱗覆ハ覆ゝも不因ハ　上句大船之揖乃進之

九 おちたきちなかるゝ水の磐鱗によとめるよとに月影見ゆ

十 雨ふれハたきつ山川石に觸　下句在瀧ア

十一 自高山出来水石觸破ゝ念いもにあはぬ夕ハ

六 焼刀之加度打放大夫之　下句在酒ア　或云磐の座うと打放祝の刀し

七 石綱乃又変若反　下句在京ア　石綱ハ葛し

七 石井ゝ水ハ雖飲あかぬかも　上句在井ア

七 能野川石迹柏と時齒成よわれはかよはむ万世左右に　芳野ノ能　或云石ノカドノアル云

十三 川瀬之石迹渡　下句在夜ア馬ア　目安云右下ハ岩ノカトし

七 石流垂水ゝ乎結飲都　上句在水ア

七 石灘岸之浦廻よする浪　下句在浪ア

八 石激垂見之上乃さわらひの　下句在蕨ア

七 磐疊恐山と　下句在山ア

九 梶鴻乃石越浪之　上下句在浪ア　梶鴻丹後

九 磐構作家と　長哥　しかいやおもる家し

十 三吉野乃石本さらすなく川津 上句在河ア 蛙ア

十一 高山之石本瀧千逝水之 下句在水ア

十三 石枕蘿生すまてに 古哥

十四 かまくらのみこしのさきのいはくえのきみかくゆへきこゝろはもたし

（大云むしもいしのよし てくはれかりや）

十四 筑波祢ろのいはもとゝろにおつるみつ 下句在水ア

十四 伊波保倍尓伊はかくても我かねまほしく 下句在テニア（伊ハ發語ノこと語ハ上し）

十四 いはくらのこゆきもよ 上句在水ア

石（磐も石も通してよめハ同し あはせもね見安任剤ること）

二 辛乃埼有伊久里尓深海松生 長哥（伊ハ發語久利ハ石也 以濱邊凡佛石ツクリトモ云）

六 海底奥津伊久利二鰒珠 長哥

二 石水之貝尓交有 上句在貝ア 水ハ川トモ石川名所也

二 石川小雲立わたれ見つゝ将偲 上句にてよめるあいもあいもかつてん

三 阿倍乃嶋宇乃住石によする浪 下句在浪ア

三 石ト以爲 古哥

四 さほ河乃小石踐渡夜干玉之 下句在夜ア馬ア（牧ハ今の黒馬の夕夜ハ年にもあらぬか）

十四 信濃なるちくまの川のさゝれしも（下句ニ君しふみてハ玉とひろはむ されしいの字なく古点同）

十四 さゝれいしにこまをはさせてこゝろいたく 下句在家ア馬ア

四 石走間近君尓恋るかも 上句ニ蝉の人目を繁けミ

七 年月も未經く明香川湍瀬ゆ渡之石走もなし

十一 明日香川明日もわたらむ石走遠心ハ不思

七 橋立倉梯川石走者も壮子時ニ我度し石走者も 旋頭歌

十 石走間々生有貌花乃 下句在容花ア

十三 石橋とふみつゝ吾来 下句在橋ア

七 石走淡海縣物語為 （上句在近江國 石走ありとつゝく）

十二 石走之垂水之水能 下句在水ア

六 石走多藝千ありゝゝ泊瀬河絶事無亦も来而見む

四 吾念ハ千引乃石乎七許頸ニかくとも神のまに諸伏 （自案云 神中人しても引石綫七つひきして引れとも かくて神もとのかひに[illegible]）

五 父母しいめにぬかゝゝすゝこゝつしまわしいはとゐし 伊志

五 麻多麻奈須布多都能伊斯乎 長哥 （神功皇后征討新羅國之時採着御袖之中石也）

六 其作渡川之石之生菅根取而 同

六 海石之塩干乃共 長哥 （難波にあり 自案云アイ石ハ一所ノ名也 八十ら別并石ノ部にあり）

七 石著玉 在貝ア

十 天漢原石枕巻 上句在七夕ア （又云石とも云し）

九 石踐平之後亦も来武 上句命手ノ志麻勢久可顔名欲山

十一 石踏山も無鴨 上下句在山ア

十三 石ハ履ともよし二行 （上句馬孫ハ妹歩行ならんよし云やし）

十二 石ハ履とも行木乃来がね （上句こゝりくのみたさかり國ニ書ーあり）

十四 吾もつ家此ありかゝへよ以しらましは （下句[illegible]よなつころのれ 此ハよし 室と部[illegible]くのつと）

十六 吾見子之櫃見そするつるまし石の吉野乃山之氷魚乎懸有 （つらし石といつから石と云所其の首と こゝとゝつらすありもしるる秘いア）

十六 石磨 人ノ名也

十六 石以つき放ふり 長哥 在小螺ア

十九 志徒く石をも珠と見吾ゝら （上句方なるもみけるらぬの庭さつまを 志つるい沉ことしも同歌）

廿 いしかまとの 在七夕ア 天河ノ名也

礫

八 多支乎すのも投越には天漢 上句在七夕ア （多シテハツフテニ）

砂

三　美沙居石溝ニ生ル名乗藻乃　下句在なのりそア

（ミさこハ鳥ニ由仙覚　一云此ハ寄ニ心あり　定家卿　註未葉切ル　准すへし詳鳥ア　八雲御抄ニ云ミさこ井らあり波ニミハ水沙也ちまハ海のなし）

十一　水沙児居奥麁礒によする浪ノ　下句在浪ア

十一　水沙児居渚座船乃夕塩乎　下句在塩ア

十二　三沙呉居渚ニ居舟ノ　下句在舟ア

十二　三佐呉集荒礒に生るなのりその　下句莫ア

四　八百日往濱の沙も吾恋ニ豈不益歟奥嶋守

六　白沙清濱部ハ去還ミれともあかず　（長歌　三大伴乃浦ニあり）

十一　白細妙三津乃黄土ノ　下句在地ア　（右朱点し　イ本妙ハ砂し）

七　紫の名高浦の愛子地ニ袖耳觸而不寐か成なむ

七　豊国の聞之濱邊の愛子地真直ニし有ハいかゝなけかむ

九　玉津嶋礒の裏ミの真名子にもにほひて去な妹觸きむ

十一　解衣恋乱乍浮沙生吾恋度鴨

十一　塩満ハ水沫ニ浮細砂にも吾ハ生るか恋ハ不死而

（註ニ八云　東路古跡よハ浮さこおもとあきて浮すこにもと挑出て石に慰なりいふちいさきれと水ニ浮むとかりわかることにいゝくるかたわたをめつゆるとかるアし）

十二　衣袖ノ真若ノ浦ノ愛子地間無時無く吾恋らく

十四　中麻奈にうきをる舟の漕出てなハ　下句在舟ア

（八云中まなハ川の中洲の事なりと云　一説云河の中也）

十四　相模ちのよろきの濱のまなこなす児らハかなしくおもハるゝかも

滑

一　ミれともあかぬ吉野の河の常滑の絶る事無く復還見牟

（註ニ八云とこなめハつねになめらか也　顕昭云水の底に云の[illegible]）

九　妹門入出見川乃床奈馬ニ　下句ニ雪のこれ[illegible]

十一　隠口乃豊泊瀬道ハ常滑乃恐道ソ恋由眼

二 衣湿漬而立留　仙本 ぬれて 袂い本

三 袰婢漬井雖泣せむすへもなし　廿卷 末句し　卅郡 紀在地ア

七 赤裳裾之捋漆渠　在雲ア

九 吾妹兒之赤裳泥塗而殖之田乎　下句在田ア

八 衣手小水漬付まてうへし田を　下句同末　八卷前云 水湿ハ水出シ在出ア

道

釆葉抄云 道ノ道タル事以矛ヲ作故ニ玉鉾ノ道ト申ヲ
但當集ノ相傳ニハ鉾ニサヤアリ柄アリ身アリ玉鉾ノ身トツヽクトよ
註又云 昔ハ桙ありきすり小兵具の中にもむねと
桙を持きたりし玉はほめる詞也

一 玉桙乃道行晩　廿卷

二 玉桙之道ふ出てまて　同

二 玉桙之道行人も　同

二 玉桙之道まく人乃　同　又十三卷 廿卷

九 玉桙乃道行人ハ己行道ハ不去而　廿卷

十一 玉桙路行人亊告萬　上句忌死忌死耶

十三 玉桙之道去人ハ　長哥

十九 玉桙之道来人之傳言尓　廿卷

四 珠桙乃道徙去相く

十二 玉桙之道ユ行相而外目くても　下句在子ア

十二 玉桙之道にもわたすし云吾妹ハ　上句在今ア言ア　又同卷玉桙之使アルハ玉桙人在使ア

八 玉桙乃道去裹と　上句萩ノ二アリ　歸乱ア裹ア

十一 玉桙之道去ふりよ不思いもとあひてこふる比も

十一 玉桙路往占之相　下句在占ア　十一卷 玉桙乃里人とある 道をソくを在里ア

十一 玉戈之道行疲いなむしろしきてもきみをみむよしもかな

十一 玉桙道不行為有者恋のいく 卅惜悉恋相

十七 たまほこのみちにゆきわかれハ　十七巻

十一 玉桙ノ路見遺（ワスラレテ）公不来座（キミガキマサヌ）　上句ハしきやしきみか障（サヘテ）ちも

四 玉桙之道ゆと多遠（タトホミ）思　十一巻　保多ハ問卿し

十七 多麻（タマ） たまほこの道をとほみ　十一巻　又同巻在之

八 玉桙乃道ハ雖遠（トホケト）愛（ヨシヱヤシ）哉師　十一巻　上句ハしきやしあひにいでてころきつうし　とらもとハ遠き也

十七 たまほこのみちのかみたちまひハせむ　十七巻　とわかきみをなつかしみせよ

十七 たまほこの路ハしらしく　内洲路卿し

六 玉桙之道ニも不出（イテズ）惣比日（コノコロ）　十一巻　上句し

九 玉桙乃道過近（チカクイハ）磐（カニ）懐　十一巻

十二 玉桙之道よ出立別来し日よりおもふに忘（ワスルヽ）時無（ナシ）

十三 玉桙之道ゆ出立夕卜（ウラ）を　十一巻

十三 玉桙之道ゆ出立葦（タチ）別乃野行山行　十三巻

十七 たまほこのみちにいでたちいまかかへらむ　上句ハ日を…

十八 たまほこのみちにいでたちみかけきけ　十八巻

十九 玉桙之道尓出立往（ユクワレ）吾ハ君之事跡（カ）負而（オイテシ）将去（ユカム）

廿 （麻保己）たまほこのみちにいでたち（義加）　十九巻

十七 たまほこのみちにいでたちゆかむ　上句…とかはりきませとかへりこむよ

一 真木（アラ）たつ荒山道を　一巻　上句ハ御…

一 春山路（タテリ）たちて泣有　一巻　上句ハきりしく

二 妹（イモ）とゝもにゆきし（チ）道をすきて　上句在…云路をみて

二 妹を置（シキテ）而（チフ）山徑（イケリ）往者生けりともなし　上句衾道を引手の山に

二 妹置（テ）山路念（シ）ハ　求向…

三 雪消（ケスル）為山道尚（スラ）を吾来（キツル）　上句…

三 雪消（ケ）乃道をしくらし　上句在…

一 隈も不落思ひつゝ来る其山道を （十一　末句也）

一 道隈伊積流まてに （長歌　伊ハ發語隈ノ多心也）

二 道之阿廻ニ標結吾勢 （上句遺居て恋つゝあらすハ追及む）

二 此道乃八十隈毎ニ萬段顧為と （長歌）

十三 道前八十阿毎 （長歌）

五 道乃久麻尾 （長歌　前句玉桙乃　次句在是ア　大全云くまハ道のまかりめをくまといふ）

サ もゝ[illegible]ちいさりしてまことさへふ （下句やかて其まゝすてさへわれかゆかむ）

十三 百不足山田道を浪雲乃 （長歌　百不足ハヤとつくる）

二 橘之蔭履路乃八衢ニ物を念妹ニ不相而

六 橘本ニ道履八衢ニ物をそ思人ニしらえすハ

二 本立開道もを又もみむ （上句在御陽ア　同安云本ノシケリタル所也　大全云古来ハ[illegible]）

二 ぬは玉乃夜晝と不云行路をハ皆悉宮道とそ為

二 罷道之川瀬ノ道見ハ不怜毛 （上句さゝなみの志賀津の子等か）

二 天離夷之長道ゆ恋来ハ （下句自明門倭嶋所見　又十五巻ア　ニサカルヒナノナカ道在夷ア　皆非也）

サ 道乃長道ハゆきかてぬかも （上句ころもてのあくとのさとに[illegible]）

四 道之永手を （在深ア堀ア　同安云道ノナカキ也　門抄云道ヲ行トテ手ヲフル事也）

四 ぬは玉此夜ハ久にあれ今夜さへまたもかへすか路之長手を

五 国遠き路乃長手をおほゝしくけふやすきなん事とひもなく

五 つね知らぬ道乃長手をくれくれといかにかゆかむかりてハなしに （一云かれいひハなしに）

十三 莫去と変しも来哉と頭ニ雖待不帰道之長手矣

十五 君かゆく道乃なかてをくりたゝねやきほろほさむあめの火もかも （大全云くりたゝねくりあつむる也　あめの火ハ天火也　同安云くりたゝねやきほろほさん）

三 出行道知末世波豫妹を将留塞も置まし乎

三 好してつまをせ其路 （上句在家ア　風ア）

四 手向よくせよあらし其（ソノ）みち。上句周防なる磐國（イハクニ）山をこえむ日ハ

三 夜路ハ將去（ヨケム） まつらし 在同ア

十一 夜道不行（ユカシ）と思ものハいもか小ねおはてハ五百ア結つも。中ノ句右根をと

三 兒等之（コラカ）家道着間（ヤヤ）遠（マトホキ）を 下句在家ア 又五巻ニハせまこハいへちをさすも上句在新ア

四 君（カ）家ニ吾住（スミ）坂乃家道をも 下句在六ア

四 遠（キ）家路をハそともし思へハ 上句同前

十 いもか家道（チ）ニ近く誰白らなし川 上句春雨ア

十 いもか家道不止（ヤマズ）かよハむ 在七夕ア

十二 家向（ト）と家道も不云（イハズ） 長哥

十三 家道思ハすも まつらし 在屋ア

十三 家道出（イ）ヘハ生（イケル）為便（スヘ）なし 上句在家ア

三 勇魚取（イサナトリ）海路（チ）ニ出て 長哥

十三 不知魚取（イサナトリ）海道ニ出て 長哥

十三 鯨名取（イサナトリ）海路ニ出て 長哥

六 海原（ウナハラ）之道遠（トホミ）かも

十一 海原乃路ニ乘哉（ノリテヤ）吾戀居（シ云） 下句在舟ア

廿 海原乃みちにこきこしもと 長哥

十五 よき川とのみちにこきこしもと 長哥

九 海津路乃（チ） 下句在海ア

十三 あしひきの山道（チ）ハ將行（ユカム）色あけハ浪之塞（フサカル）海道ハ不行（ユカシ）

三 粟路（アハミチノ）之野島（ノシマ）之前乃（サキ） 在四ア 又六ア

六 淡路乃（アハミチノ）野島も過（スギス） 長哥

四 淡海路（アフミチ） 下句在四ア 又十七巻

十三 近江道 下句在四ア

四 山跡道（ヤマトチ）　在國ア郷ア　匠ア

六 倭道（ヤマトチ）ハ雲隠有（タリ）　下句在大和國ア

十二 倭跡度渊刎（ヤマトチノワタリ）（コトニ）　上下句在郷ア

六 日本道（ヤマトチ）　在國ア　是も大和之

七 木道（キチ）ようこそ妹（イモ）山在云（アリトイヘト）　在紀伊國　名所山ア

四 あさもよし木道（チ）く入立　長哥　あさもよし紀伊之

十三 朝も吉城於道（ヨイキノウヘチ）より　長哥

四 若狭道（チ）　上下句在國ア

六 老道　在國ア

十二 丹波道（タニハミチ）　在國ア　大江乃山

十三 山背道（ヤマシロノミチ）　在國ア

十四 相模治（チ）乃　在名所ニ詠ア

十四 信濃道（チ）　下句在國ア

三 小浪礒越道（サヽナミイソコシチ）有能登瀬河（ノトセ）　下句在郷ア

九 三越道（ミコシチ）之雪零山乎（フルヤマヲ）　下句在山ア

十五 ミこしちのたむけにたちていもかなのりつ　かしこみとのらすありしを

十九 志なさかるこしとさつてそこて此　長哥

十四 安豆麻治　あつまちの手児（テコ）乃よひさか　下句名所ア

十二 筑紫道之荒礒乃玉藻かるとも　下句在郷ア

十五 筑紫道（チ）のかのおほしましましくも　下句在名所ア

十六 大野路ハ繁道（シケチ）森徑（シケミチ）しけくとも君し通（カヨハ）ハ徑（ミチ）ハ廣けむ

大野路ハ名所也雖除名所　廾一首中道多収之

六 直越（タヽコエ）乃此徑（コノミチ）にして押照哉（オシテルヤ）難波乃海と名つけゝらしも

日本紀云津ノ國ノ山ヲ越テ　タヽコエノミチト云

七 去家井上従直ニ道ハ雖有君ニ将相ト他廻来シ

十一 直道ハ[illegible]雖来来不深去来

十一 杼墨縄之直一道ニ　上句在縄ア

十二 之辛路ゆ[illegible]北海　下句在北海ア

十一 驛路ニ引舟渡直乗ニ　下句在舟ア

七 撃日刺宮路行ニ吾裳破　下句在宮ア

四 都路ヲ遠哉妹カ比来ハうけひてぬれと夢にし見えぬ　上句長日ニて道の都にて取れ

十九 うちひさす京ニ大路所思

四 道守之将問答ム　長哥　月在云道ノ守人之問守し

四 不遠道之間毛地頻参来嘛　上句ヤカテやれや

四 夕やみハ路たつたつし月待ちて　ゆかむわかせこそのまにもみん

十八 [illegible]　下句在[illegible]ア

四 路遠不来ハ[illegible]君カ月辛保利

五 道[illegible]　前句いねしもうたのやうのとく

五 [illegible]道ハ[illegible]　下句[illegible]

六 大宮人ハ路辛ク通ヒ道ハ　長哥

六 道の[illegible]長すくいなり　上句在都ア

六 大丈夫ノ去シト云道ヲ[illegible]而行勿大丈夫之伴　又十一巻道[illegible]

七 往吉ノ往云道ニ昨日見シ　下句在忘貝ア

七 妹所ト我通路細竹すゝき　下句在薄ア

八 妹許ト吾去道乃河有ハ　下句在河ア

七 いつこゆかしすゝき道ハあれとも　上句在[illegible]ア

七 道邊ノ草深由利乃花咲ニ　下句在百合ア

十一 路邊草深百合ノ　下句同前

十 道邊之手をりの下く思草（ツ、モト） 下句在藤ア

十 道邊之湯小竹之於（ユサヽ、ヘ）尓霜降夜を 上句甚多夜深勿行（ハナハダモ、ユク）

十二 路邊壹師花（イチシ）ノ 下句在草ア

十一 道邊乃五柴原（イツシハ）ノ 下句在草ア イツシカ

十一 道邊草冬野にふミ干（カラシ） 下句在野ア

廿 ミちのへのうまらのうれにはほまめの 下句在棘ア 豆ア

九 河副乃丘邊道（ソヒ、ヲカヘノ）ゆ 七卅

十一 碕前多未足道乎人莫通在乍毛公之来曲道為（サキノタミ、シ、ナカヨイツ、アリツヽモ、キミカ、キテム、ヨキニ、セン）
（註云みちのくまをあらめくらもとゝ　曲道目安云しけるを）

九 此道を去人毎ゟ行因（サル、コト、ヨリテ） 七卅

十 君将来道乃知らなく（キテム） 上句在七夕ア

十三 公之将来道乃しらなく 上句拔つきもつそもりぬめ（ニ方）

十六 路もとりまくハ（ク） 七卅

十二 吾以後所生人（ワカノチニ、ムマレン）も如我戀為道相与勿湯目（ワカコトク、スル、アヒアフナ、ユメ）
（湯目ハ借字ユメヽトニ云詞）

十二 絲路（クシ）ハ石踏山（イハフム）もかくもかも 下句在山ア

十二 路後深津嶋山（ミチノシリ、フカツシマヤマ）
（古云路のすゑにハ陸奥国ハ東山道のはてなれハ云し 常陸も又東海道のはてなる故なり）

十二 路も遠ミしらよくいとも（四奏ミ）
（上下句在家ア妹ア使ア　古言ミちにはちしくとよミしかしなり）

十二 紅之裾引道を中置而妾哉かよひもし公哉将来座（スソヒク、ナカニシキテ、ワレヤ、ヤ、キマサム）

十二 新治今作路清聞鴨妹於事矣（ニヰハリノ、イマツクルミチ、サヤケクモ、キヽテケルカモ、イモカウヘノコト）

十四 くさけの芳なゆくもとをりしらく（又古） 下句在ア
（古云あのはれし同書云アノハ欲）

十四 信濃道ハいまのはりみち 下句国ア
（今開路也）
（大宝二年ミちをつくるに作てる　目安云ミちはつき上多ゟ道也）

十二 路行人を熟と知て（か） 上句在冊ア

十三 石根乃こゝしき道を（イハカネ） 七卅

十三 石根乃こゝしき道の 円

十三 相不念（ヲモハテ）道行去（ナム）も　長哥

十三 待しる道ゆ登（ノホラ）して　同　或ヨリト云同

十三 往（ユキク）道のみつゝかと不来（ヒラニ）　同

十三 座（タカ）浪く塞（セキ）道を　同

十三 道のまへ孫い往来而　同

十四 うちもうくもつゆくもつくあさちやきの　下句在柳ア

十四 こつかうわるこれこれのあひさ　上句在里ア

十五 いめれこゝちれうらちかきれすかきて　長哥　いめハ夢也

十六 少（スクナキ）す（ヨ）道（ミチ）くあへらさハ　長哥

十七 こゝろのあつくさ川こゝろいかもいゆきて　下句在名所

十八 くはまのこちゆく山日いいつれこれ　下句さちふろてふれこれてしも尋べく

十八 あめれさとき岑方のこちゆるい　長哥

十九 下照（テル）道く出立（イテタテル）いも　上句春苑紅にほふ桃花

廿 山河のさやけき見つゝみちをたつねな　上句在山ア

廿 きよきそのみちまたもあはんため　上句わたる日のかけにきほひてたつねてな

以上二首ハ非行路ニ付方増書云臥病悲無常欲修道作哥二首

衢

二 橘く蔭履（フム）路乃八衢（ヤチマタ）尓　下句在道ア

六 橘本く道履（フミ）八衢くものをそ思ふ人にしらすて

十一 言霊（コトタマ）八十（ヤソ）衢（チマタ）く夕占（ユフケ）問（トフ）占正（ウラマサ）謂（ノリ）妹相（イモニアヒ）縁（ヨラム）

十二 海石榴市（ツハイチ）之八十衢く立平（タチナラシ）結紐（ムスヒシヒモ）を解（トカ）まく惜（ヲシ）も

十二 海石榴市之八十衢く相（アヘ）兒（コ）哉（ヤ）誰　上句紫ハ灰（ハイ）さすもの

十六 百不足（モモタラス）八十乃衢く夕占（ケ）ても　長哥

十六 卜部をも八十乃衢も占雖問（トヘト）君を相見（ミム）たときしらすも

境

九 唐土の遠き境につかはさは　長哥

六 大王の界たまふと山守居守ると云山に入ハ不忘　長哥

九 遠津国黄泉の界にはふつたの　長哥

九 海界　在海ア

限

一 道限伊積流まてに　長哥　伊ハ発語限ノ多也

一 限も不落思ひつゝ来れは此山道を　長哥末句に　須賀会云至よといふ山のゆきあひへたる也

一 川限ゝ八十阿不落万段顧為乍　長哥

二 此道乃八十限毎萬段顧為と　長哥

二 道之阿廻に標結わか世　長哥在ア

二 限廻ちと　在名所之限ア

五 玉桙乃道のくまわに　久麻尾ハ　長哥　又云道より入くるのくまとも云

六 鴻乃埼ゝ限もおかす　不置　長哥

十三 道乃八十阿毎嘆乍　同

十六 何限を見つゝあれ来む　上句足曳之玉縵之兒如今日

廿 かくまにもしらハさきめしとましさてふ　下句在旅ア

関

二 猪養乃岳之塞為巻尓　上句ふる雪ハあはにな降りそ吉隠之

三 いもをとゝめむ塞も置ましもと　上句出行道知ませハ豫

四 将関哉　在雨ア　詞ア

六 関無ハ還りにたにも打行ていもか手枕巻て宿ましを　不破行宮ニテ　家持作

七 西山邉乃塞もあらぬかも　上句ぬはたまの夜渡月をとゝめむに

十五 [illegible]さ山世きもりもさてきねいまさらにあふみちつかへるさとるさてきしと云

十五 色取りし世経としこゆるほとゝきす（上句在郭公部）

十五 安我こそ世々夜麻こえてこそゆかめ（かつこゝろいはまほしけれと）

十七 関こえてあはれこそ かりてハへてりてと（長哥）

市

（東西ノ市も在名所部）

三 東市之殖木乃木足左右あはねとミゆしこひにけり（門部王詠）（東市ハ東京町）

七 西市ニ但獨出而眼不並買師絹之商自許里鴨（西市ハ西京町也 ひとりいきてかひしきぬのあきしこりかも）

驛

十一 驛路尓引舟渡直乗尓妹情尓乗来鴨

十四 須受我祢乃波由馬宇馬夜能都追美井乃（美都乎多麻倍奈伊毛我多太手欲）

はゆまハ早馬といふ也 驛使これをはゆまつかひともあり 十八巻にもはゆまくたれりとあり 在里人つゝミ井ハ為驛使つゝミてをく井也

橋

二 鵲の御橋の多かれとまつる（上句在雑部）

二 飛鳥明日香乃河之上瀬ニ石橋渡下瀬ニ打橋渡石橋ノ（長哥）

七 明日香河せゝに渡しゝ石はしもなし（上句年月もいまた経なくに）

十一 明日香川明日もわたらむ石はしの遠心ハ不思かも

四 石はしの間近君にこひわたるかも（上句在恋部）

七 橋立倉椅川石走ハも壮子時我度してり石走ハも（旋頭哥）

十三 石橋ふミなつミそわかこし恋てすへなミ（上句直不来自此巨勢道柄）

二 打橋ノ生乎為礼流川藻もそ（長哥 明日香川にあり）

四 瀬を廣ミ打橋わたすなかくと思へは（上句千鳥なく佐保の河門の）

七 勢能山ノ直向妹之山事聴やも打橋渡

九 天漢尓上瀬尓珠橋渡之（長哥）

十 天河打橋度妹之家道不止通時不待友（七夕部）

十 天河打橋度公之来為　上句 機蹋木持往而

十 天漢棚橋よ〜子す織女之伊渡左牟尓棚橋渡

八 あまの河ちかしきせつハ乃わ結由も　下句在七夕ア

十一 天在一棚橋何将行穉草妻所云足乎厳
（天云空にあるといふハわれに日月と云文字を言なんぬめし　あまやいろへいさうちかりうとの事し）

十三 天橋も長くもかも高山も高くもかも　長哥

十四 ひろちよと宇馬てゆき経てこゝろのをかいもりかへりてまいこゝふして
（いろちよいひろきりしかのかは一尋のかさそしや云ひろくしく）

十六 櫟津乃檜橋より来む狐よあむしさし　檜木ニ
（第一二三句ハいちゐつのひのきのつりはしとてかへりて小湯とかせ子とも　上句さしなへに湯わかせ子とも）

十七 泉河乃かハ湍よりかも橋わたしつゝかも瀬さへかも橋わたしつゝ　長哥

網代

三 物乃部能八十氏河乃阿白木尓不知代経浪乃去辺白不母

七 氏河ハよと瀬無らし阿白人舟召音越乞所聞

七 氏人之譬乃足白吾在者今齒王良増木積不来友

梁

三 此暮柘之左枝乃流来者梁者不打而不取香聞将有

三 古尓梁打人乃無有世伐此間毛有益柘之枝羽裳

志からみ

二 明日香川之我良美渡之塞益者進留水母能杼尓賀有萬思（一云水乃与杼尓加有益）

（のこゝふかわちりし　よよりとこともゆ）

七 明日香川湍瀬尓玉藻者雖生有四賀良美有者靡不相

十一 ますらをもこふいとゝ恋楽ハ水有ゝ類賀良三越而応逝吾思

十一 玉藻苅井堤乃四賀良美薄可毛恋乃よとめる吾情かも

み坂はし

十二 水咫衝石心盡而念鴨此間毛本名夢西所見（本名ハ借字也 心モトナキト云詞也）

十四 等保都安布美伊奈佐保曽江乃水乎都久思 下句 安礼乎多能米弖 安佐麻之物能乎

かし（しはふもと　はうくあし）

七 舟盡可志振立而廬利為名子江乃濱邊過不勝かも

サ あ[illegible]ねれて[illegible]さよふけ[illegible]

杭

十三 泊瀬ゝ河ゝ上瀬尓伊杭手打下湍尓真杭手格伊杭ニハ鏡乎懸真杭ニハ真玉ヲ懸真珠奈ス我念妹も有

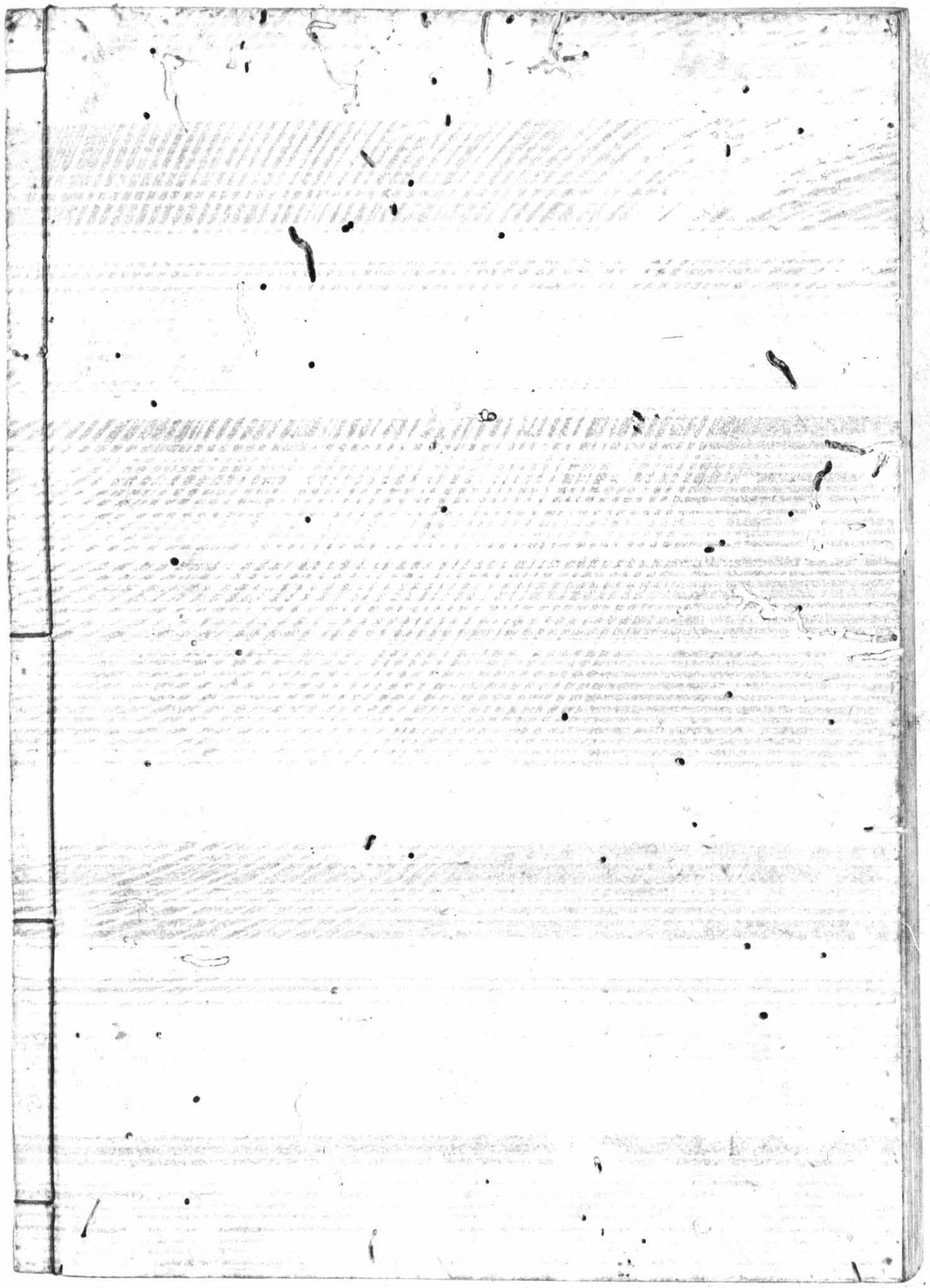
樋

十 金山舌日下鳴鳥音聞何嘆（目安云 樋ヲ山ニウツムヲ世故ニ ヒタヒ山ト云[illegible]アリ）

十一 水鳥乃鴨ゝ住池ゝ下樋無欝悒君ヲ今日見[illegible]かも

延德三年依　勅命
部類之

權大納言藤原宣胤

九州大學圖書印